岡山県立大学
社会貢献年報2018

岡山県立大学
OKAYAMA PREFECTURAL UNIVERSITY
文部科学省 地(知)の拠点

社会貢献年報 2018 の発刊にあたって

岡山県立大学
学長　沖　陽子

世の中は平成の時代が終焉し、新たな元号の令和時代が幕を開けました。保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部の 3 学部からなる本学は平成 5 年に開学し、「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」という教育研究の理念の下、多くの人材の育成に努めて参りました。

その社会貢献の拠点となる組織が「地域共同研究機構」であり、その機構を構成しているのが「産学官連携推進センター」と「地域連携推進センター」です。さらに、平成 27 年度に採択された文部科学省による「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」の代表校としての活動を実施するために、「COC＋推進室」を設置しました。

本誌では、平成 30 年度（2018 年度）における上述の各組織の活動並びに今後の課題を詳細に掲載しています。まずは「地（知）の拠点としての活動」を報告し、その後に機構とセンターの活動並びに外部資金等を記載しています。特に、地方創生推進事業（COC＋）では、学内の「教育改革」、「域学連携」、「産学連携」活動が地域・行政・企業等との連携により進化していることが読み取れます。その結果、地域志向型の講義・演習の必要単位を修めた学生 28 名に「地域創生推進士」の称号を授与することができました。また、平成 30 年 7 月に発生した西日本豪雨災害では、本学の学生達が専門性も活かした災害ボランティアに、主体的に参加してくれたことは特筆に値します。

令和の新時代は、第 4 次産業革命を迎え、日本の社会構造が大きく変化し、「モノ・カネ」から「ヒト・データ」が中心の経済社会に移行します。科学技術と社会実装ができる人材育成が大学に希求されます。社会貢献のあり方も変化することでしょう。地域・行政・企業等の皆様方との協働が益々重要視されます。その視座からも、本誌をご高覧頂き、今後の社会貢献活動についてご教授を賜れば有難く存じます。

本学は「地域ファースト」及び「学生ファースト」の視点から地域との連携を深化させていく所存ですので、引き続き力強いご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

2019 年 6 月

目　　次

社会貢献年報 2018 の発刊にあたって

１　本学の社会貢献についての概要 1
２　地（知）の拠点としての活動 5
２．１　地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋） 6
２．１－１　事業の概要 6
２．１－２　「教育改革」に関する活動 6
２．１－３　「域学連携」に関する活動 １２
２．１－４　「産学連携」に関する活動 ２５
２．１－５　広報活動 ３３
２．１－６　各種委員会・シンポジウム等の開催 ３８
２．１－７　平成 31 年度以降の計画 ４２
２．２　地域への貢献 ４４
２．２－１　公開講座 ４４
２．２－２　吉備創生カレッジ ４６
２．２－３　高大連携活動 ４７
２．２－４　附属図書館の活動 ４８
２．２－５　異文化理解の活動 ５２
２．２－６　健康・スポーツ推進の活動 ５４
２．２－７　ボランティア活動 ５６
２．３　行政への貢献 ５７
２．３－１　岡山県への貢献 ５７
２．３－２　市町村への貢献 ５７
２．３－３　各種委員・講師の応嘱（行政関係） ５９
２．３－４　共同研究・受託研究等（行政関係） ５９
２．４　企業等への貢献 ６０
２．５　人材の育成・輩出 ６１
２．５－１　保健福祉学部・大学院保健福祉学研究科 ６１
２．５－２　情報工学部・大学院情報系工学研究科 ６４

２．５－３　デザイン学部・大学院デザイン学研究科 ６７
２．６　その他の貢献 ７０
２．６－１　各種委員等への派遣（行政関係以外） ７０
２．６－２　職員表彰 ７１
３　県立大学の各組織での活動 ７３
３．１　地域共同研究機構 ７４
３．１－１　体制 ７４
３．１－２　重点領域研究 ７５
３．１－３　OPU フォーラム 2018 ..... ７６
３．１－４　情報発信 ８２
３．２　産学官連携推進センター ８５
３．２－１　企業等と連携した研究活動 ８５
３．２－２　アクティブ・ラボ ８６
３．２－３　学外組織との連携・協働活動 ８７
３．２－４　岡山県立大学協力会 ９１
３．３　地域連携推進センター １００
３．３－１　地域連携事業・企業人材育成事業 １００
３．３－２　各種連携活動 １０２
３．３－３　糖尿病相談室 １０４
３．３－４　各種研究会活動 １０５
３．３－５　岡山県立大学子育てカレッジ １１３
４　外部資金 １１９
４．１　平成 30 年度の実績 １２０
４．２　科学研究費 １２２
４．３　今後の課題 １２２
巻末資料 １２３

１．　本学の社会貢献についての概要

1 本学の社会貢献についての概要

平成 30 年度は、平成 25 年 4 月 1 日から始まった、第 2 期中期計画の期間の最終年度にあたる。第 2 期中期計画では、地域貢献、産学官連携に関する目標として、

・地域貢献に関する目標：大学の持つ人的・物的・知的財産を地域に還元する全学横断的な組織である地域共同研究機構の機能を、引き続き充実・強化し、地域貢献をより一層推進する。

・産学官連携の推進に関する目標：地域共同研究機構を核として、大学の研究内容等を情報発信するフォーラムの開催や企業・行政等の関係者と教員の交流により、産学官連携の充実を図る。

を掲げた。そして、この目標を達成するための地域共同研究機構の組織として、産学官連携推進センター、保健福祉推進センター、認定看護師教育センター、福祉・健康まちづくり推進センターの 4 つのセンターを設置した。さらに、第 2 期中期計画の期間に、平成 25 年度に策定した大学の運営方針の 1 つの柱である、教員個々の貢献活動から組織的な貢献活動、すなわち、点から面への戦略的な地域貢献へと展開するために、保健福祉推進センターと福祉・健康まちづくり推進センターを発展的に解消し、地域連携推進センターを設置するとともに、平成 27 年度の文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」の採択を受けて、COC＋推進室を設置した。このような背景のもと、本年度は、産学官連携推進センター、地域連携推進センター、COC＋推進室の体制で、産業界・自治体・地域団体・NPO などとの強固な協働体制を構築し、地域が抱える課題の解決に向けて地域を志向した教育、研究及び社会貢献活動を進めた。本年報は、本学の社会貢献活動を広く知っていただくためのものであり、その概要は以下の通りである。

平成 27 年度の文部科学省の COC＋に本学が代表校として採択された「地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業」は、地域連携教育を通した地域志向人材の輩出を行う教育改革、魅力的な地域づくりを行う域学連携及び産業振興・雇用開拓を行う産学連携を 3 つの柱に掲げ、4 年目を迎えた。平成 30 年度の教育改革については、副専攻「岡山創生学」の全ての科目を計画通り開講した。そして、副専攻「岡山創生学」の所定の単位を修得し、シンポジウムなどでの発表を行なうことで外部評価を受けた 28 名の学生が「地方創生推進士」として認定された。域学連携につい

ては、教員の活動を支援する地域連携事業を継続して実施するとともに、岡山市と赤磐市に新たに地域創生コモンズを設置した。また、コモンズ公開講座を発展させたコモンズキャンパスを実施した。産学連携については、地域経営者支援セミナー、企業人材育成事業、画像処理などの技術講習会を継続して実施した。さらに、地域企業を対象とした雇用マッチングシステムの本格的な運用を開始した。

本学独自の県民の健康づくり支援や子育て支援、超高齢社会における福祉・健康の増進などの地域に根ざした貢献活動、並びに、委員の派遣、共同研究などの県内自治体への貢献活動については、これまでと同様のアクティビティで進めた。

地域共同研究機構としては、自治体や企業などのニーズに応え、イノベーションにつながる取り組みとして、教員の豊富な研究シーズや知識・技術をベースに、さらに異分野複数教員の共同研究による全国的な競争資金及び学内特別資金を活用した実用化基盤研究「領域・研究プロジェクト」や OPU フォーラムなどを実施した。

産学官連携推進センターでは、教員とコーディネータが積極的に地域社会に出かけていく「アクティブ・ラボ（出前研究室）」なども継続して推進した。さらに、地域の企業、公的機関及び本学で構成する岡山県立大学協力会と共催で、AI などの最先端技術講習会、異種企業間交流、業種説明会などを実施した。地域連携推進センターでは、上述した地域連携活動を推進するための活動の他、岡山県立大学子育てカレッジ、糖尿病相談室、各種研究会を実施した。

以上のように、本学は、岡山の地（知）の拠点として地域社会とともに成長し、その成果を地域に還元することにより、岡山県民の誇りとなる公立大学として社会に貢献している。

２．　地（知）の拠点としての活動

２．１　地（知）の拠点大学による
地方創生推進事業（COC＋）

２．２　地域への貢献

２．３　行政への貢献

２．４　企業等への貢献

２．５　人材の育成・輩出

２．６　その他の貢献

２．１　地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC＋)

２．１－１　事業の概要

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC＋)」は、若者の東京一極集中に歯止めをかけ、地域に定着させることを目的として、平成 27 年度、文部科学省と総務省が取組みを開始した事業である。この COC＋事業に対して、本学を代表校とする 29 機関が申請し、選定された「地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業」(以下、本事業という)は、若者の地元定着率の 10%向上を目的として、教育改革、域学連携及び産学連携により地域を志向する人材の輩出とその受け皿づくりを行う事業である(機関の数は現在 30)。教育改革では、岡山創生学を副専攻として新設して、実践的な専門性と高い地域志向を有する人材の育成を図る。また、平成 29 年度より導入されたクォーター制に伴い、長期インターンシップやボランティアに係る科目を開講・実施する。域学連携では、自治体、NPO 等と協働で子育て、高齢者・障害者支援等を実践し、住み易い地域づくりに貢献する。産学連携では、地場産業の支援による産業活性化を推進し、魅力的な雇用創出に努めるとともに、雇用マッチングシステムを運用することで雇用開拓と若者の地域への就業機会を拡大する。そして、協働機関との連携の場として地域創生コモンズを設置し運営する。

事業の概要

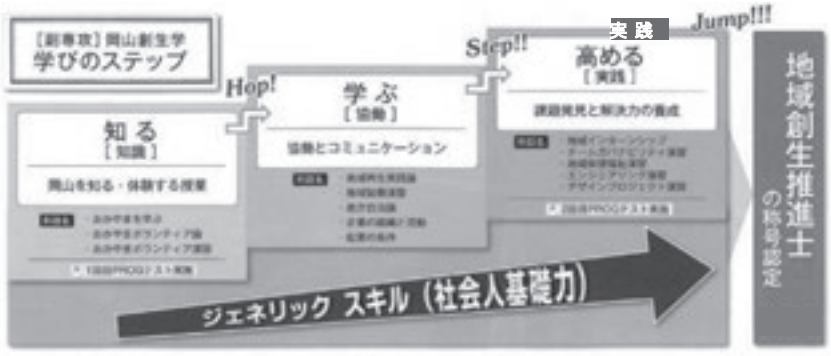
２．１－２　「教育改革」に関する活動

(１) 副専攻「岡山創生学」

本事業における三つの柱の一つである「教育改革」において、「おかやま」を志向する学生を育成するための副専攻「岡山創生学」を平成 28 年度から開設している。本副専攻では、学生が、学部・学科における専門教育(主専攻)とは異なる分野の知識や考え方を学び、専門教育を補完するだけでなく、社会に対する視野を広げ、柔軟な発想力や応用力を養うことを目的としている。次図に「岡山創生学」における学びのプロセスを示す。まず、地域を知り、体験することから始まり、コミュニケーションと協働を通じた学びを経て、地域の抱える課題の発見およびその解決プロセスを考えることに取り組む。このような学びの流れに沿って構築した段階的なカリキュラムの履修を通して、社会の中での自分の役割を考え、様々な課題に向き合い、解決できる知識や技術を身に付け、社会で活躍するために必要なジェネリックスキル(社会人基礎力)を磨く。最終的には、認定基

準を満たす学生に「地域創生推進士」の称号を授与することとし、平成 30 年 3 月に初めて 28 名の学生が「地域創生推進士」として誕生した。

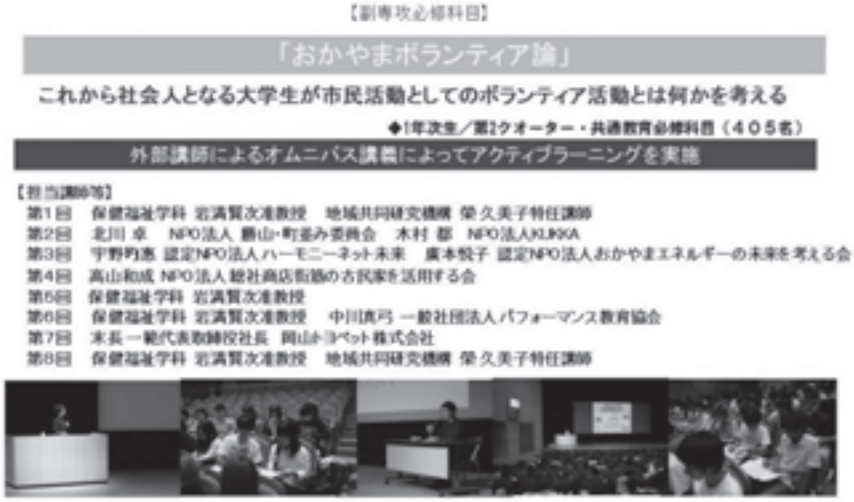
平成 28 年度から継続して、全学部 1 年次生に対して、地域を知る機会の場として「おかやまボランティア論」、「おかやまを学ぶ」の講義科目、さらに地域活動の体験の場としての演習科目「おかやまボランティア演習」を開講し、平成 29 年度から継続して、2 年次生に対しては、協働のアプローチを学ぶ場として「地域再生実践論」、及び地域との協働活動の場として「地域協働演習」の演習科目を開講した。さらに、平成 30 年度には、3 年次生に対して、4 週間の長期インターンシップを自治体で実施する「地域インターンシップ」及び企業で実施する「エンジニアリング演習」(2.1-4-2 を参照)を新規に開講し、副専攻「岡山創生学」が完成した。



副専攻「岡山創生学」のプログラム

（2）「おかやまボランティア論」

第 2 クォーター開講の「おかやまボランティア論」では、4 年後に社会人となる大学生が、市民としての地域活動とは何かを考え、そのきっかけづくりの場となることを目指した。そして、本講義と連動して「おかやまボランティア演習」につなぐため、主にその体験場所となる NPO 法人および社会福祉協議会等からゲストスピーカーを招聘した。学生は、ボランティア・NPO 活動、社会貢献の活動の意義や目的について理解を深め、実習への準備ができた。下図に「おかやまボランティア論」の講義担当者と講義風景を示す。

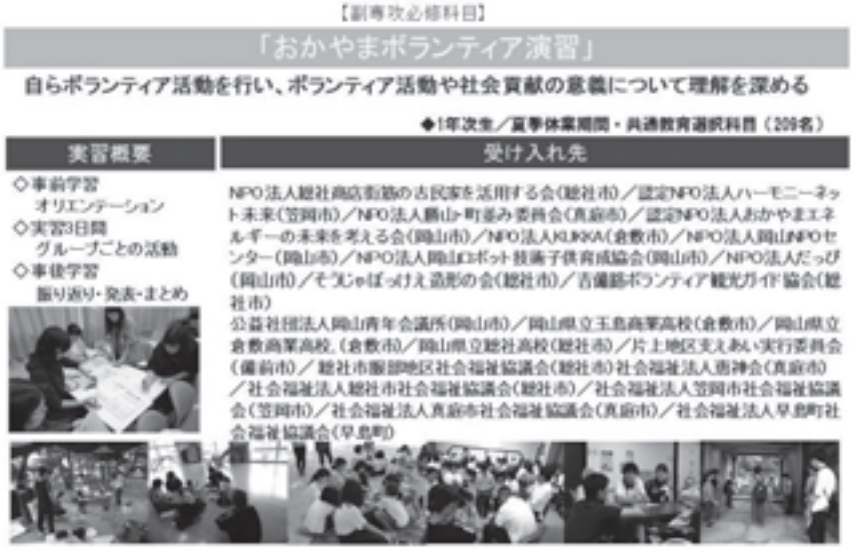


「おかやまボランティア論」の担当者と講義風景

（3）「おかやまボランティア演習」

夏季休業期間を中心に実施した「おかやまボランティア演習」では、「おかやまボランティア論」での学習を踏まえ、209 名の学生が 3 日間の実習を行った。第 1 回目の授業では、地域活動に参加するための事前学習として、活動先ごとのグループで

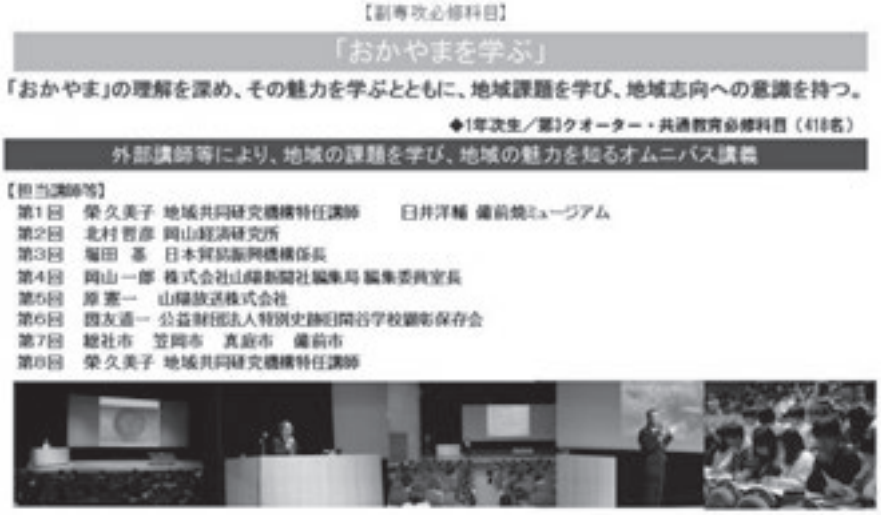
の顔合わせや諸注意、活動を通しての目標設定等のグループワークを実施した。その後、7 月 19 日から 10 月 7 日までの期間に実施した。活動内容は、子どもの活動見守り・遊びの環境づくり・学習支援や、地域イベント、自治会活動への参加などである。最終回に実施した事後学習（振り返り学習）では、パネルセッションを採用した。学生は主体性を持って取り組み、地域活動や社会貢献の意義について実体験、地域を理解することができ、その後も、受け入れ先の NPO 活動に継続して参画する学生もおり、体験的な学びから持続的な地域活動へと広がっている。下図に実習概要と受け入れ先を示す。



「おかやまボランティア演習」の概要と受け入れ先

（4）「おかやまを学ぶ」

第 3 クォーターに開講した「おかやまを学ぶ」では、行政担当者および本学教員から少子・高齢化に代表される県内課題が地域経済、社会福祉に与える影響を学び、地域の魅力を知り、地域志向への意識を持つことを目的とした。学生は、毎回の講義から地域課題を議論し、地域の抱える課題に関心を持ち、自らが考えるようになった。8 回の担当者、及び講義風景を下図に示す。



「おかやまを学ぶ」の担当者と講義風景

（5）地域再生実践論

第 1 クォーターに開講した「地域再生実践論」は、2 年次生を対象とした講義科目であり、地域づくりの現状と課題を理解させ

るとともに、地域の活性化に向けた取り組みを創生する力を身につけさせ、地域活性化への関心を高め、課題に取り組む意欲を身につけることを目的とした。COC＋事業協働機関である総社市、笠岡市、備前市、真庭市の 4 市から講師を招聘し、実践活動の紹介、課題解決の困難さ等を学び、学生は、地域の現状を認識するとともに、自分たちがどのように課題に取り組んでいけばいいのかを考えることができるようになった。8 回の担当者、及び講義風景を下図に示す。

「地域再生実践論」の担当者と講義風景

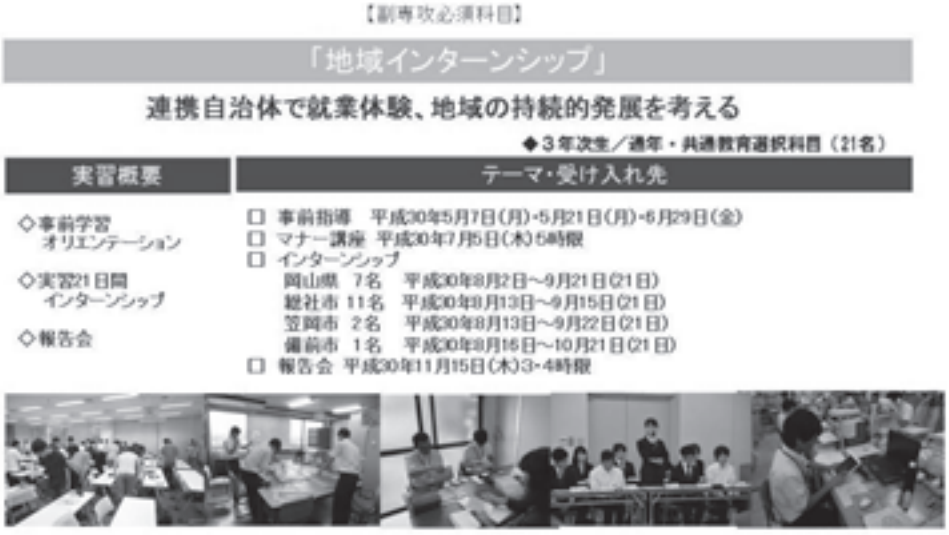
（6）地域協働演習

第 2 クォーターから夏季休業期間を中心に実施した「地域協働演習」は、2 年次生を対象とした演習科目であり、地域課題を認識、発見し、解決への方策を考えるとともに、地域課題解決に向け、他者との協働の有効性、重要性、必要性を理解し、学部・学科の専門性が、どのように地域社会に貢献できるかを考えることを目標とした。63 名の学生が 10 日間の実習を行った。第 1 回の授業では、地域活動に参加するための事前学習として、活動先ごとのグループでの顔合わせや諸注意、活動を通しての目標設定等のグループワークを実施した。その後、7 月 2 日から 9 月 23 日までの期間に実施した。活動内容は、地域の課題の掘り出し、課題解決の企画立案、実施等である。最終回に実施した事後学習で、学生は地域の人々の温かい心に触れ、その人々に寄り添うことの大切さなど多くのことを学んだなどと体験を発表した。その後も、地域のイベントや報告会等に参加し、地域との関りを深めていっている。実習のテーマ及び受入先、実習風景を下図に示す。

「地域協働演習」の受入先と演習風景

（7）地域インターンシップ

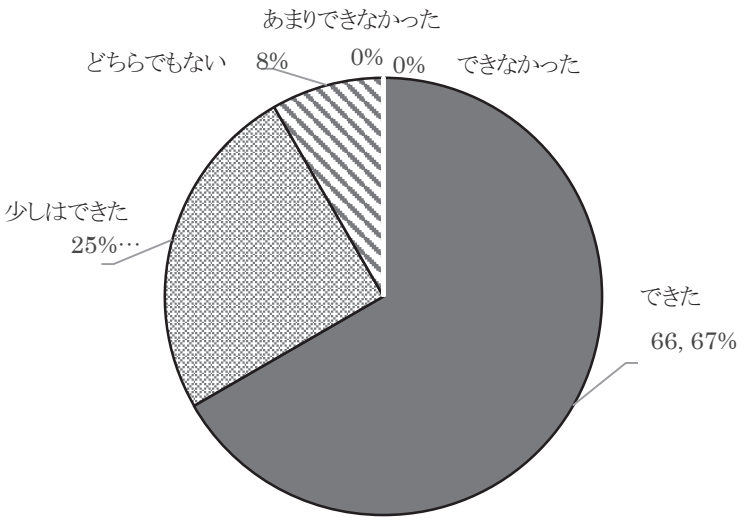
夏季休業期間を中心に実施した「地域インターンシップ」は、3年次生を対象に本年度新設された演習科目であり、4週間、自治体でインターンシップ（就業体験）を行うものある。アルバイトとは異なる「働く（就業体験）」を通して、職場の雰囲気、社会の基本的なルールやマナーに触れ、自分自身の将来の職業に関する意識を形成することを目的としている。21名の学生が、岡山県、総社市、笠岡市、備前市において実施した。事後学習では、体験を振り返り、活動報告を発表した。受入先、実習風景等を下図に示す。



「地域インターンシップ」の受入先と演習風景

（8）アンケート結果

「地域再生実践論」でアンケートを実施した。その問いのうち、「地域社会には、様々な問題が潜んでいることについて視野を広げることができたか」に関する問いへの回答結果を下図に示す。アンケート結果によれば、「少しはできた」を含めると、90%を越える多くの学生が、肯定的な態度を表明しており、「あまりできなかった」を含めできなかったという否定的な態度を表明した学生は皆無であり、この授業を通して、地域課題について興味、関心を示しており、地域課題に取り組む姿勢をみせてくれていることがうかがえる。



「地域再生実践論」履修者に対するアンケート結果

（９）地域創生推進士

「おかやま」への深い理解と熱い情熱を持ち、「おかやま」の創生に貢献したいという強い意思を持った学生に授与する称号で、副専攻「岡山創生学」の必要単位を取得し、おかやま COC＋シンポジウム、OPU フォーラム等の公開イベントにおいて発表を行うことを授与の要件としている。

平成 31 年 3 月 4 日に認定証の授与式を実施し、初の地域創生推進士 28 名（保健福祉学部：5 名、情報工学部 23 名、いずれも 3 年生）が誕生した。

認定証の授与

集合写真

２．１－３　「域学連携」に関する活動

本事業の三つの柱の一つである「域学連携」活動の一環として、学生の地域志向教育の場、また、産学官民の地域活動の場として、連携自治体に設置された「地域創生コモンズ」を拠点として、COC＋参加大学、自治体、NPO 等と連携して、域学連携活動を実施した。

２．１－３－１　地域創生コモンズ

「地域創生コモンズ」は、参加大学や自治体、NPO 等の事業協働機関が連携して、活動する拠点となるものである。さらに、地域課題の掘り起こしや解決策に対して、「岡山創生学」の地域実践科目である「地域協働演習（2.1－2(6)参照）」との連携も図りながら学生の参加を促し、地域を志向した教育を推進するための拠点としての機能も持つ。

本事業では、事業協働機関であり、本学と連携協定を締結している総社市、笠岡市、備前市、真庭市、赤磐市（平成 30 年）、岡山市（平成 30 年）に設置した。協働の場である「地域創生コモンズ」の施設等のハード面の提供及び運営は自治体が行い、日常的に地域の様々なセクターの方々との対話の場としての機能も持つ。

◎地域創生コモンズ まにわ　【開所】平成 28 年 4 月 25 日（月）
【場所】真庭市勝山振興局内（真庭市勝山 53-1）
【担当】真庭市勝山振興局地域振興課
※平成 30 年 8 月～ 真庭市立中央図書館に分室を設置

◎地域創生コモンズ そうじゃ　【開所】平成 28 年 10 月 14 日（金）
【場所】総社市清音福祉センター内（総社市清音軽部 1135）
【担当】総社市総合政策部政策調整課

◎地域創生コモンズ びぜん　【開所】平成 28 年 11 月 9 日（水）
【場所】備前市日生総合支所内（備前市日生町日生 630）
【担当】備前市総合政策部企画課
※平成 29 年 12 月～ 日生地域公民館から移転

◎地域創生コモンズ かさおか　【開所】平成 29 年 3 月 18 日（土）
【場所】笠岡諸島交流センター内（笠岡市笠岡 2435-2）
【担当】笠岡市政策部企画政策課

◎地域創生コモンズ あかいわ　【開所】平成 30 年 7 月 31 日（火）
【場所】赤磐市熊山支所内（赤磐市松木 623）
【担当】赤磐市総合政策部秘書企画課

◎地域創生コモンズ おかやま　【開所】平成 30 年 9 月 20 日（木）
【場所】さんかく岡山（岡山市男女参画社会推進センター）内（岡山市北区表町 3 丁目 14-1）
【担当】岡山市政策局政策企画課

２．１－３－２　自治体等との協働事業

（1）「コモンズキャンパス」

地域と大学の連携事業の一環として、拠点である「地域創生コモンズ」を含む会場で、一般的な教員の講演だけでなく、学生も参加し、地域住民との関わりをもった講座を実施した。学生にとっては学外でのコミュニケーションを育む機会となり、充実した学びを得ることができた。また、実技を含む講座も設計したことで、参加した地域住民に対して、より有意義なプログラムを提供することができた。さらに、本学だけではなくCOC＋参加大学からも講師派遣を行い、参加大学との連携も深められた。

実施概要は以下の通りである。（教員の肩書は、開催日時点のもの）

① コモンズキャンパス：食と運動・ウォーキング講座

日　時：平成30年5月23日（水）　10:00～12:00

場　所：地域創生コモンズ　そうじゃ（総社市清音福祉センター）

講　師：保健福祉学部栄養学科　久保田恵教授（食の講座）

　　情報工学部人間情報工学科　綾部誠也准教授（運動・ウォーキング講座）

連　携：総社市保健福祉部健康医療課

参加者：総社市民43名

久保田教授による「食の講座」

綾部准教授による「運動・ウォーキング講座」

② コモンズキャンパス：わくわくヴァイオリン体験 音と絵本のコラボコンサート

日　時：平成30年7月27日（金）　11:00～12:00

場　所：地域創生コモンズ　まにわ分室（真庭市立中央図書館）

講　師：就実大学　教育学部初等教育学科　安久津太一講師

連　携：真庭市勝山振興局地域振興課

参加者：真庭市民17名（7組）

ヴァイオリンを体験する子どもたち

最後はみんなでコンサート

③ コモンズキャンパス：親子で学ぶプログラミング教室

日　時：平成 30 年 8 月 4 日（土） 12:30～16:30

場　所：岡山県立大学　※平成 30 年 7 月豪雨により地域創生コモンズ そうじゃから会場変更

講　師：情報工学部情報通信工学科　荒井剛助教、小椋清孝助教、坂口浩一郎助教、高林健人助教、滝本裕則助教

参加者：総社市民 65 名（30 組）

参加学生：情報通信工学科 5 名

真剣な眼差しの親子

コンピュータ演習室で学ぶ大勢の参加者

④ コモンズキャンパス：ウォーキングの秘訣

日　時：平成 30 年 10 月 17 日（水） 9:30～11:00

場　所：地域創生コモンズ かさおか

講　師：情報工学部人間情報工学科　綾部誠也准教授

参加者：笠岡市民 15 名

参加学生：情報系工学研究科 1 名

参加者の皆さんと笠岡の海を見ながらウォーキング

モニター結果を参加者に説明する大学院生

⑤ コモンズキャンパス：健康づくりのための食事

日　時：平成 30 年 11 月 9 日（金） 10:00～11:00

場　所：地域創生コモンズ かさおか

講　師：保健福祉学部栄養学科　久保田恵教授

参加者：笠岡市民 10 名

食事による健康づくりについて講話

⑥ コモンズキャンパス：ウォーキングの秘訣

日　時：平成 30 年 12 月 5 日（水） 9:30～11:00

場　所：地域創生コモンズ かさおか

講　師：情報工学部人間情報工学科　綾部誠也准教授

参加者：笠岡市民 8 名

参加学生：情報系工学研究科 1 名

運動前に運動について参加者で勉強

モニターを見て参加者の心拍数をチェック

（2）「子育て支援プロジェクト」

COC＋の域学連携の一環として、本学の保健福祉学科子ども学専攻の学生が主体となり、子育て支援プログラムの企画立案・運営を担い、地域創生コモンズを設置した連携自治体にて地域 NPO 等と協働・実施するプロジェクトを実施した。学生主体といっただけでなく、COC＋参加大学との連携もあり、大きな成果となった。

実施概要は以下の通りである。（教員の肩書は、開催日時点のもの）

① 子育て支援プロジェクト：備前市子ども応援フェスタへの参画

日　時：平成 30 年 11 月 10 日（土） 10:00～14:00

場　所：備前市総合運動公園体育館

講　師：保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻　佐藤和順教授、柏まり准教授

参加者：備前市民　未就学児約 100 名、小学生 50 名

参加学生：保健福祉学科子ども学専攻 17 名、就実大学（COC＋参加大学）5 名

新聞紙プールで元気いっぱい遊ぶ未就学児

小学生はオセロゲームで大学生にチャレンジ

② 子育て支援プロジェクト：真庭市立中央図書館での企画

日　時:平成 31 年 3 月 5 日(火)　10:00～12:00

場　所:真庭市立中央図書館 3 階シアター

講　師:保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻　佐藤和順教授、柏まり准教授

参加者:真庭市民　未就学児 31 名(14 組)

参加学生:保健福祉学科子ども学専攻 4 名

手遊びを披露する学生たち

大型絵本を読み聞かせる学生

（3）自治体等との域学連携事業

① 人間情報工学科の新入生オリエンテーションでの地域連携教育

日　時:平成 30 年 4 月 14 日(土)　9:30～12:00

場　所:地域創生コモンズ　びぜん

担　当:情報工学部人間情報工学科教員 14 名

連　携:備前市、備前市観光協会

講　師:備前市観光協会　船橋美可事務局長、備前市地域おこし協力隊　森石雅行氏

参加学生:人間情報工学科 40 名

備前観光協会の船橋事務局長による講話

グループワークの発表の様子

② 総社市健康インセンティブ事業 歩き方講座

日　時:平成 30 年 5 月 18 日(金)　10:00～11:30　／　13:30～15:00　(同日 2 会場で開催)

平成 30 年 5 月 25 日(金)　10:00～11:30　／　13:30～15:00　(同日 2 会場で開催)

平成 30 年 5 月 30 日(水)　10:00～12:00

場　所:山手公民館　／　総社東公民館　／　昭和公民館　／　総社市保健センター　／　総社西公民館

担　当:情報工学部人間情報工学科　綾部誠也准教授

連　携:総社市保健福祉部健康医療課　　参加者:各会場　総社市民約 20 名

③ 池田動物園すけっとプロジェクトへの協力

日　時:平成 30 年 5 月 11 日(金)～7 月 1 日(日)　※7 月 1 日は作品のお披露目会当日(番組ロケ有)

場　所:池田動物園(調査、作品制作、作品設置)、岡山県立大学(作品制作)

担　当:デザイン学部造形デザイン学科　野宮謙吾教授、真世士マウ准教授

連　携:池田動物園、池田動物園をおうえんする会、日本テレビ

参加者:岡山県民他　約 1,600 名(7 月 1 日の入場者数)

参加学生:39 名(3･4 年生のコアメンバー6 名、1･2 年生のボランティア参加学生 33 名)

概　要:日本テレビが企画するボランティア活動、「すけっと」プロジェクトに参加した。池田動物園の認知度向上と来園者増加を図る目的で園内に「インスタ映えスポットをつくる」という構想のもと、5 月 11 日～6 月 30 日の期間において連携団体と協力しながら、学生が主体的にリサーチ、デザイン提案、制作、設置を行った。また、7 月 1 日のインスタ映えスポットオープン日には県内出身のタレント参加によるテレビ番組の撮影が行われ、中心メンバー6 名がナビゲーター役として出演した。

企画会議の様子

象舎壁面のペインティング

猿舎前地面のペインティング

④ 笠岡諸島 島の大運動会への協力

日　時:平成 30 年 5 月 27 日(日) 9:00～15:00

場　所:笠岡市白石島

担　当:情報工学部人間情報工学科　綾部誠也准教授

保健福祉学部看護学科　二宮一枝特任教授、佐々木純子准教授

連　携:NPO 法人島づくり海社

参加者:笠岡市民約 600 名

参加学生:保健福祉学研究科 7 名、保健福祉学科子ども学専攻 13 名

健康相談ブースで大学院生が活躍

地域創生コモンズ かさおかで集合写真

⑤ 歩得・食得 元気なからだ教室

日　時:平成 30 年 6 月 26 日(火)、8 月 7 日(火)、8 月 28 日(火)、9 月 11 日(火)、10 月 26 日(金)、11 月 13 日(火)

場　所:岡山県立大学

担　当:保健福祉学部栄養学科　平松智子准教授

情報工学部人間情報工学科　綾部誠也准教授

連　携:総社市保健福祉部健康医療課

参加者:総社市民約 50 名

参加学生:栄養学科 8 名

概　要:近年、糖尿病患者が増加しているなか、糖尿病は教育の病気ともいわれ、病気の実際を知ることで治療効果が上がるとされ、特に仲間意識を利用しての集団教育は効果的である。そこで、総社市の歩得事業に参加の方で血値高めの方を対象に食事療法に関する講話や調理実習、運動指導等を取り入れた糖尿病教室を行った。月 1 回のペースで 6 月から半年間実施し、効果を判定するため食事調査等や開始時および終了時に HbA1C、血糖値の測定・身体測定等を行った。

食事調査について参加者に説明する学生

外食とのうまい付き合い方について学生がスライドで説明

糖尿病食事療法の実践としての調理実習

学内をウォーキング

⑥ 備前市栄養教室 目からうろこの減塩術　無理なく楽しくおいしく減塩！

日　時:平成 30 年 7 月 10 日(火)　9:00～14:00

場　所:備前市市民センター

担　当:保健福祉学部栄養学科　久保田恵教授

連　携:備前市保健福祉部保健課

参加者:備前市 25 名

参加学生:栄養学科 4 名

概　要:備前市保健課管理栄養士と栄養学科公衆栄養学研究室の教員、学生 4 名が協働で、備前市の健康づくりのための栄養教室で食育を行った。今年は、備前市の食育の課題である「高血圧予防」をテーマに、学生からは「無理なく楽しくおいしく減塩！」と題して健康講話を行い、「目からうろこの減塩料理」の調理実習も行った。

おいしく減塩するためのコツを紹介

減塩料理の調理実習と試食

⑦ 「見せてもらおうか岡山ロボット研究所の性能とやらを」に展示協力

日　時：平成 30 年 8 月 4 日（土）～8 月 31 日（金）

場　所：人と科学の未来館サイピア（岡山県生涯学習センター）

担　当：情報工学部情報システム工学科　渡辺富夫教授、石井裕准教授

連　携：人と科学の未来館サイピア、岡山大学、岡山理科大学工学部、岡山ロボット技術子ども育成協会

参加者：岡山県民他　約 5,537 名

概　要：夏休みに子どもたちや親子を対象として、ロボット技術や開発について学び、人とロボットのかかわりや多様に広がるロボットの世界を身近に感じてもらうとともに、地域の最先端科学技術を紹介した。

研究室の写真をバックにロボットを展示

⑧ ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム

日　時：平成 30 年 10 月 20 日（土）、21 日（日）

場　所：岡山県立大学

担　当：保健福祉学部看護学科　名越恵美准教授、井上かおり助教、犬飼智子助教、山形真由美助教

連　携：日本緩和医療学会

参加者：臨床 3 年以上の看護師 33 名

概　要：2 日間にわたり、ELNEC-J コアカリキュラム看護師養成プログラムとして講義・演習を含む 10 モジュールを実施した。各モジュールは、ELNEC-J 指導者である緩和ケア・化学療法認定看護師、がん看護専門看護師が担当した。看護師は、一般病棟・緩和ケア病棟・訪問看護ステーションと多彩であった。33 名中全モジュールに参加した 31 名に修了証が授与された。

講義の様子

⑨ “歩得”「がんばろう総社！災害復興ウォーキング講座」

日　時:平成 30 年 10 月 23 日(火)、10 月 30 日(火)、11 月 6 日(火)

場　所:総社市内

担　当:情報工学部人間情報工学科　綾部誠也准教授

連　携:総社市保健福祉部健康医療課

参加者:総社市民約 20 名、21 名、18 名

参加学生:各日　人間情報工学科 2 名

参加者に丁寧に事前説明をする学生

学生と一緒にウォーキング

⑩ ～つなげよう、支えよう森川里海～　高梁川でつながる森川里海の力 2018

日　時:平成 30 年 10 月 27 日(土)　午前の部　10:00～12:00、午後の部　13:30～15:30

場　所:林源十郎商店　他

担　当:デザイン学部造形デザイン学科　西田麻希子准教授

連　携:倉敷市環境リサイクル局環境政策部環境政策課

参加者:約 30 名

参加学生:保健福祉学科 1 名(午前の部)、造形デザイン学科 4 名(午後の部)

概　要:午前の部に本学保健福祉学部保健福祉学科 4 年生の木本千晶さんが登壇し、自身の学生生活における地域活動によって成長できた経緯について、発表した。また、午後の部では、デザイン学部の西田麻希子准教授による「作って学ぶポップアップカード」のワークショップを実施し、学生 4 名が講師役となり、参加者とともにポップアップカードを制作した。

登壇した木本千晶さん

参加した子どもとポップアップカードを作成中

⑪ 笠岡市 健康まつり in かさおかへの協力

日　時:平成 30 年 11 月 4 日(日)　10:00～14:00

場　所:笠岡市保健センター

担　当:情報工学部人間情報工学科　綾部誠也准教授

連　携:笠岡市健康福祉部健康推進課

参加者:笠岡市民約 200 名

参加学生:情報系工学研究科 2 名

健康・運動計測に参加する市民

⑫ ＨＡＴＴＯＪＩプロジェクト　～三国渓紅葉祭りでの缶バッチワークショップの出店～

日　時:平成 30 年 11 月 11 日(日)

場　所:備前市鳥ヵ鳴公園

担　当:COC＋推進室　村井聡紀域学分野担当コーディネーター

連　携:三国地区振興協議会

来場者:約 1,000 名

参加学生:保健福祉学科社会福祉学専攻 3 名、情報通信工学科 1 名、人間情報工学科 1 名、デザイン工学科 1 名、
造形デザイン学科 3 名(すべて写真部所属)

ワークショップ出店で地域と協働

ワークショップ参加者に対応する学生

⑬ ＨＡＴＴＯＪＩプロジェクト　～八塔寺ふるさと村にふるさと写真館を設置～

日　時:平成 30 年 11 月 11 日(日)から設置

場　所:八塔寺ふるさと村

担　当:COC＋推進室　村井聡紀域学分野担当コーディネーター

連　携:三国地区振興協議会、八塔寺ふるさと村、備前市吉永総合支所

参加学生:保健福祉学科社会福祉学専攻 4 名、情報通信工学科 3 名、情報システム工学科 1 名、
人間情報工学科 1 名、デザイン工学科 1 名、造形デザイン学科 3 名(すべて写真部所属)

展示方法の検討

若者目線で八塔寺の自然を撮影

手作りの看板を設置

⑭ 平成 30 年 7 月豪雨災害復興支援事業「県立大学でリフレッシュ！復興支援健康教室」

日　時：平成 30 年 11 月 22 日（木） 10:00～11:30

場　所：岡山県立大学体育館

担　当：情報工学部人間情報工学科　綾部誠也准教授、齋藤誠二准教授

保健福祉学部栄養学科　入江康至教授、井上里加子助教

就実大学教育学部教育心理学科　森村和浩講師

連　携：総社市保健福祉部健康医療課、片山工業株式会社

参加者：約 50 名

参加学生：人間情報工学科 9 名、情報系工学研究科 4 名、栄養学科 3 名

準備体操の様子

ウォーキングバイシクルの試乗会

⑮ アーキツーリズムガイドブック（仮称）の作成の調査支援

日　時：平成 30 年 10 月 19 日（金）～平成 31 年 1 月 8 日（火）

場　所：岡山県内の主要な近現代建築物（岡山県庁、岡山県天神山文化プラザ、大原美術館、高梁市成羽美術館等）

担　当：デザイン学部造形デザイン学科　北山由紀雄准教授

COC＋推進室　村井聡紀域学分野担当コーディネーター

連　携：岡山県土木部都市局建築指導課

参加学生：デザイン工学科 6 名、造形デザイン学科 1 名

調査結果を報告し、意見交換を実施

施設ごとに担当の学生から説明

（4）　「7 月豪雨災害ボランティア関連」

岡山県立大学では、COC＋推進室が窓口となり、被災した地域（総社市、倉敷市、岡山市）からの要望に対して、学内で周知を行い、災害復旧ボランティア派遣を実施した。特に大学所在地である総社市に関しては、7 月 14 日（土）～16 日（月）の 3 日間に被災地において、多くの学生および教職員が参加し、大学をあげて活動した。また、被災地域の子どもの安全・安心な居場所の設置場所として、学部共通棟（西）チュッピー広場等を提供するだけでなく、その活動期間について、学生および教員もボランティア活動を行う等、大学の資源を活用したさまざまな活動を実施した。

実施概要は以下の通りである。(教員の肩書は、開催日時点のもの)

① 大学独自ボランティアの取組

ア 総社市内での災害復旧ボランティア

日　時:平成 30 年 7 月 14 日(土)～7 月 16 日(月)

場　所:総社市内被災地域、避難所等

担　当:地域共同研究機構 COC＋推進室

連　携:総社市、総社市社会福祉協議会

参加者:教職員、学生含め延べ 250 名

大学専用のボランティア受付を設けて対応

イ 看護学科・保健福祉学科の教員による救護活動

日　時:平成 30 年 7 月 11 日(水)、13 日(金)、7 月 14 日(土)～7 月 16 日(月)

場　所:総社市内被災地域、避難所、救護所等

参加教員:保健福祉学部看護学科延べ 17 名、保健福祉学科延べ 2 名

連　携:総社市保健福祉部、健康医療課

概　要:総社市健康医療課と現場ニーズ調査へ同行し、必要な支援を検討した。後半の 3 日間は救護所において住民・ボランティアの熱中症や外傷等の処置対応をした。

ウ 栄養学科による野菜料理食の提供

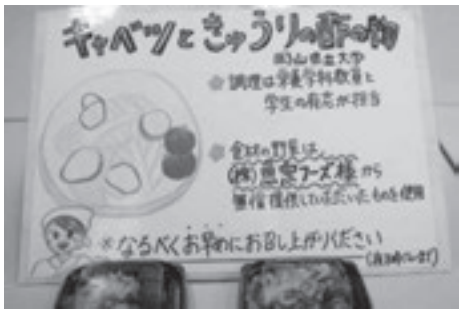
日　時:平成 30 年 7 月 27 日(金)、31 日(火)、8 月 3 日(金)、8 日(水)

場　所:総社市内避難所等

参加教員:保健福祉学部栄養学科　教員学生有志

連　携:魚宗フーズ株式会社

概　要:避難所生活者への栄養補給のため、野菜料理を学内で調理し配送した。7 月 27 日 120 食、31 日 150 食、8 月 3 日 130 食、8 日 150 食を提供した。



今回提供した野菜料理の一部

本学の調理室で調理

エ 教職員及び学生に対する募金活動の実施

日　時:平成 30 年 7 月 10 日(火)～9 月 9 日(日)

場　所:岡山県立大学内

概　要:AMDA を通じて被災者支援に活用していただいた。

① 岡山県及び団体と連携した活動

ア 被災した子どもの安全・安心な居場所の提供

日　時：平成 30 年 7 月 18 日（水）～8 月 31 日（金） 3 日間

場　所：岡山県立大学チュッピーひろば等

担　当：岡山県立大学子育てカレッジ

連　携：岡山県保健福祉部子ども未来課

利用者：延べ 785 名　ボランティア参加者：延べ 387 名

概　要：被災した地域の子どもを対象に、大学内に居場所を設置し、避難所から送迎バスを運行した。

チュッピーひろばで遊ぶ子どもたち

送迎バスで避難所までの移動

イ ロボットプログラミング教室の開催

日　時：平成 30 年 8 月 22 日（水）

場　所：岡山県立大学本部棟大会議室

連　携：KINAKO、岡山県保健福祉部子ども未来課

参加者：子ども 18 名、保護者 6 名

参加学生：学生ボランティア 8 名

概　要：倉敷市や総社市の避難児童を主な対象者としたロボットプログラミング教室での会場提供と学生ボランティアの指導補助を行った。

ウ AMDA との連携活動

日　時：平成 30 年 7 月 30 日（月）～8 月 15 日（水）

場　所：倉敷市真備町内避難所

連　携：AMDA

参加者：学生ボランティア延べ 10 名、教員延べ 22 名

概　要：避難場所の岡田小学校、薗分館における足浴補助等のボランティアを行った。

２．１－４　「産学連携」に関する活動

本事業の三つの柱の一つである「産学連携」活動の一環として、雇用マッチングシステムの運用、長期インターンシップ（エンジニアリング演習）の実施および産業振興活動に取組んだ。

２．１－４－１　産業振興・人材育成

（１）岡山県立大学協力会事業と連携

① ものづくりに関する技術講習会の開催

ミクロものづくり岡山の分野別研究会の一つである解析シュミレーションネット OKAYAMA 画像解析等グループと岡山県立大学協力会が、おかやまCOC＋推進協議会と共催で、「画像解析に関する技術講習会」開催した。

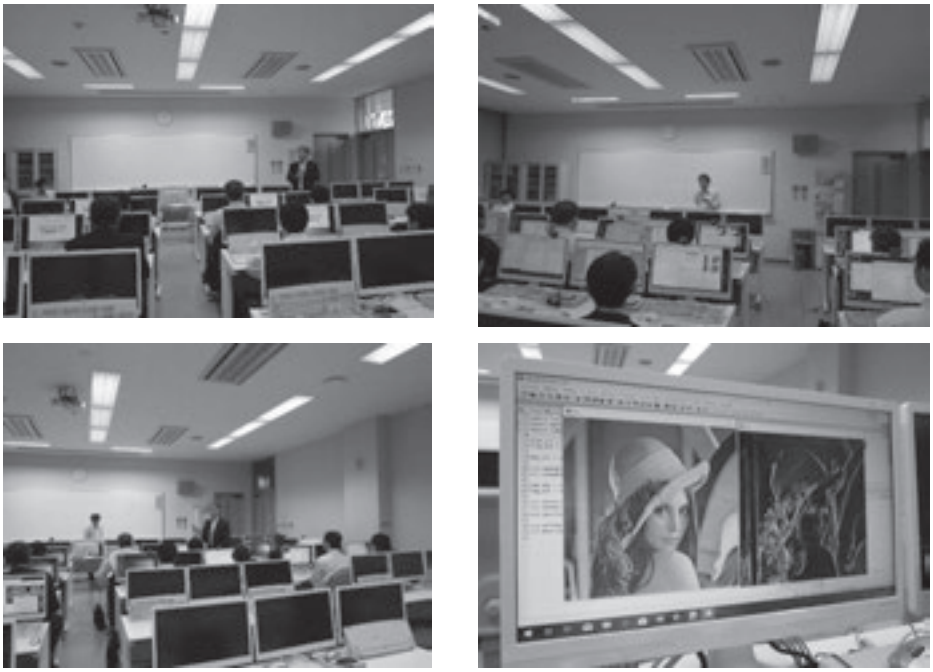
この講習会では、「OpenCV による画像処理入門」と題して、画像処理アプリケーションソフトウェアの開発を体験した。OpenCV（正式名称:Open Source Computer Vision Library）はオープンソースの画像処理用ライブラリで、コンピューターで画像や動画を処理するのに必要な種々の機能が実装されている。BSD ライセンスで配布されていることから学術用途だけでなく商用目的でも利用できるという特徴を持つ。実施概要は下記の通りである。

【画像解析に関する技術講習会（基礎編）】

1. 日　時:平成 30 年 11 月 22 日（木）13:30～17:30
2. 場　所:岡山県立大学（8122 室）
3. 参加者:16 名
4. 講　師:小枝正直 准教授（大阪電気通信大学）
   中村恭之 教授（和歌山大学）
   山 内 仁 准教授（岡山県立大学）
5. スケジュール
   13:30～13:35 開会
   13:35～14:00 OpenCV の紹介
   講師:小枝正直 准教授、中村恭之 教授
   14:00～17:00 WinPython と OpenCV を用いた画像処理（基礎編）
   講師:小枝正直 准教授、中村恭之 教授、山内 仁 准教授
   17:00～17:30 質疑応答

【画像解析に関する技術講習会（応用編）】

1. 日　時:平成 31 年 3 月 25 日（月）10:00～16:00
2. 場　所:岡山大学県立大学（8122 室）
3. 参加者:15 名
4. 講　師:小枝正直 准教授（大阪電気通信大学）
   中村恭之 教授（和歌山大学）
   山内 仁 准教授（岡山県立大学）
5. スケジュール
   10:00～10:10 開会
   10:10～12:00 OpenCV の紹介
   WinPython と OpenCV を用いた画像処理（応用編 1）
   講師:小枝正直 准教授、中村恭之 教授
   13:00～15:30 WinPython と OpenCV を用いた画像処理（応用編 2）
   講師:小枝正直 准教授、中村恭之 教授、山内 仁 准教授
   15:30～16:00 質疑応答



技術講習会風景

② 第１回業種説明会の開催

岡山県立大学協力会の会員企業から、各業界・業種を代表する６社が来学の上、自社の置かれている業界の将来展望・方向性や重点的取組みを説明し、参加学生が熱心に聴講した。学生の進路決定に大いに参考となった。

1. 日　時:平成 30 年 12 月 21 日(金)14:30～17:30
2. 場　所:岡山県立大学(8206 室)
3. 参加者:40 名
4. スケジュール

14:30～14:40　開会挨拶
14:40～15:00　井原精機株式会社(機械)
15:00～15:20　みのる産業株式会社(農業機械)
15:20～15:40　株式会社システムエンタープライズ(ソフトウェア)
16:00～16:20　サノヤス造船株式会社(造船)
16:20～16:40　株式会社英田エンジニアリング(設備)
16:40～17:00　内山工業株式会社(化学)
17:00～17:30　質疑応答
17:30　閉会挨拶

井原精機株式会社

みのる産業株式会社

株式会社システムエンタープライズ

サノヤス造船株式会社

株式会社英田エンジニアリング

内山工業株式会社

③　2020 年 3 月卒業・修了予定者向け「学内合同会社説明会」の開催

県内産業に資する人材の確保支援として、会員企業による会社説明会を岡山県立大学で開催した。

1. 日　　時:平成 31 年 3 月 1 日(金)10:00～12:15
2. 場　　所:岡山県立大学(8203・2202・2203・2204 室)
3. 参加企業:36 社
4. 参加学生:64 名

（2）経営者セミナーの開催

本学デザイン学部と就実大学経営学部が互いの教育資源を活用し、企業の経営力向上と地域創生につながる統合的地域ブランディングを目的とし、平成 29 年 10 月 27 日（金）～平成 30 年 3 月 16 日（金）まで月に 1 回（全 6 回）、備前商工会議所で「地域活性化のための地域中小企業経営者セミナー」を開催した。（下図参照）

経営者セミナーのリーフレットと開催風景

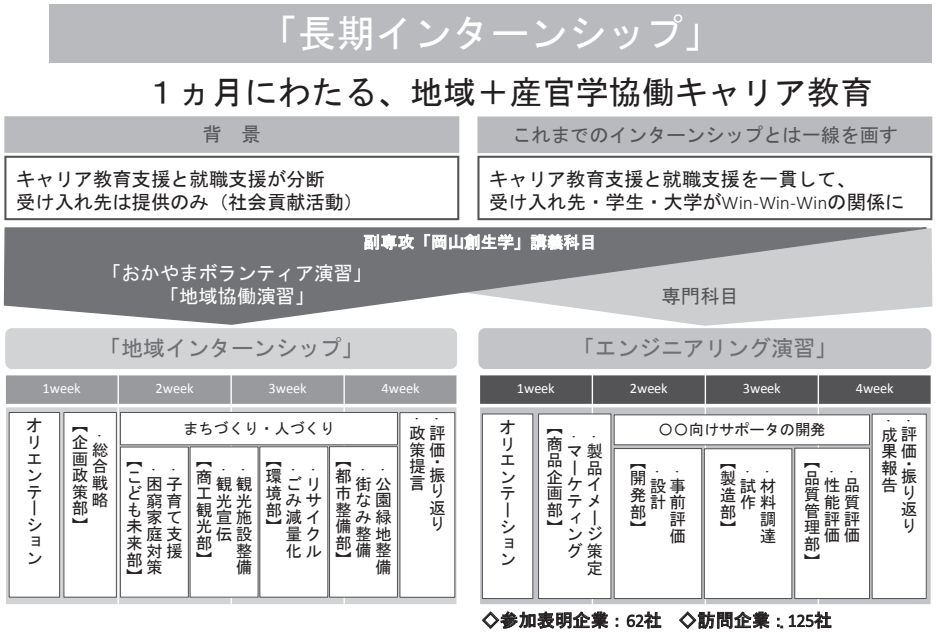
（3）メディカルフィットネス講座の開催

平成 28 年 8 月 22 日（月）に、本学が総社市、片山工業株式会社との間で「健康増進施策推進に関する連携協定」を締結した。この連携活動の一環として、本学情報工学部および栄養学科、他大学の教員、学生等が協働し、平成 30 年 5 月 17 日（金）～平成 31 年 2 月 28 日（木）まで「健康づくり体験フェスティバル in 県大（県大メディカルフィットネス講座）」を毎週木曜日に開催した。初回、最終回では健康関連指標・身体機能の測定が行い、測定結果は本学で教員から直接フィードバック（一部郵送）を行った。

県大メディカルフィットネス講座の実施風景

2．1－4－2　長期インターンシップ

事業協働機関が連携し、地域を志向する人材の輩出とその受け皿づくりを行うことを目的とした取り組みの一つとして、平成 30 年度に長期インターンシップ（地域インターンシップ、エンジニアリング演習）を実施した。「地域インターンシップ」は、3 年次の共通教育科目として開講し、「エンジニアリング演習」は、3 年次の専門科目として、情報工学部を中心として開講した。長期インターンシップは、4 週間の期間で実施しており、業種や職種選択時におけるミスマッチの回避、社会人基礎力に関する自己レベルの把握等、キャリア教育としての効果の向上を目指している。（次頁図参照）



長期インターンシップ

「エンジニアリング演習」に関する受け入れ企業の開拓活動としては、県内経済団体加盟企業、一般社団法人システムエンジニアリング岡山加盟企業等を対象とした訪問依頼を実施した。その結果、34 社が受入を表明し、その内 20 社で 8 月～9 月の期間、34 名の学生が実習を行った。また、「地域インターンシップ」については、21 名の学生が、岡山県、総社市、笠岡市、備前市で実習を行った。（「地域インターンシップ」の詳細は 2.1-2-(7)を参照）

【エンジニアリング演習】

実習学生：34 名（情報工学部　情報通信学科 5 名・情報システム工学科 19 名・人間情報工学科 10 名）

実習期間：平成 30 年 8 月 16 日（木）～9 月 22 日（土）

派遣先企業一覧

企業名	所在地
井原精機㈱	井原市上出部町 431-3（笠岡市茂平 1234）
内山工業㈱	岡山市中区小橋町 2-1-10
オーエム機器㈱	総社市赤浜 500
オーエム産業㈱	岡山市北区野田 3－18－48
オージー技研㈱	岡山市中区海吉 1835-7
岡山ネットワーク㈱	岡山市北区新屋敷町 1－1－18
カイタック㈱	岡山市北区昭和町 3-12
興南設計㈱	倉敷市粒江 20－36
三乗工業㈱	総社市井尻野 100
山陽電研㈱	岡山市中区乙多見 449
シバセ工業㈱	浅口市鴨方町六条院中 3037
シャープタカヤ電子工業㈱	浅口郡里庄町里見 3121-1

企業名	所在地
セリオ㈱	岡山市中区原尾島 3－16－4
タカヤ㈱	井原市井原町 661-1（井原市下出部町 2-20-5）
日進ゴム㈱	岡山市北区今 8-16-17
ヒルタ工業㈱	総社市久代 2211-5（笠岡市茂平 1410）
ユアサシステム機器㈱	岡山市北区厚生町 2-14-21 （岡山市北区吉備津 2292-1）
㈱英田エンジニアリング	美作市三保原 678
㈱アステア	総社市真壁 1597
㈱システムズナカシマ	岡山市北区中島田町 2-3-19
㈱ベネッセインフォシェル	岡山市北区高柳東町 10－1

エンジニアリング演習実習風景

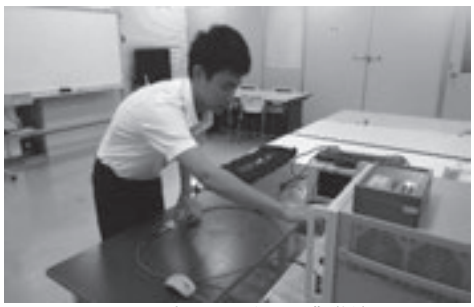
（株）アステア

（株）アステア

（株）英田エンジニアリング

オージー技研（株）

シバセ工業（株）



シャープタカヤ電子工業（株）

ユアサシステム機器(株)

岡山ネットワーク(株)

エンジニアリング演習成果報告会風景

情報通信工学科　杉井博紀

情報通信工学科　高津芳希

情報システム工学科　末道洸希

情報システム工学科　山本和輝

情報システム工学科　玉田真衣

情報システム工学科　守屋学人

２．１－４－３　雇用マッチングシステム

（１）概要

開発した「雇用マッチングシステム」は、従来の業種、勤務地などの情報のみによるマッチングではなく、

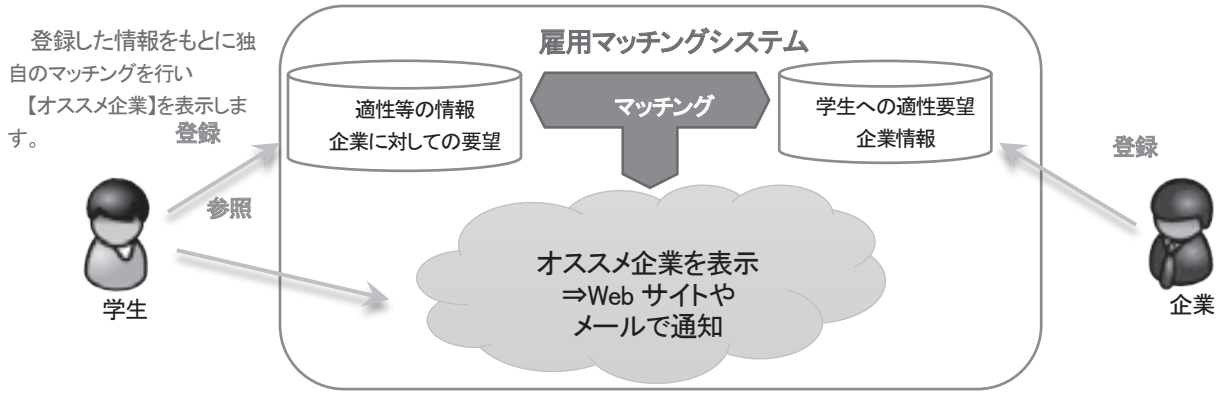
Ⅰ．企業が求める人材イメージと学生の能力やキャリアの間のマッチング

Ⅱ．学生が求める企業イメージと企業の理念や職場環境などの企業情報の間のマッチング

を行い、それらを総合して、マッチングの度合いが高い順に並べた企業リストを提示するシステムである。

Ⅰ．においては、社会人基礎力と学士力に関する 39 の項目について、学生の能力に対する客観的評価結果と企業が望む結果とのマッチングを取る。Ⅱ．においては、初任給、勤務地などの他、理念、社風など 37 項目についてマッチングを取る。この際、文章として表現される項目については自然言語処理によるマッチングを取る。マッチングに利用する項目については、企業側で指定可能としている。

■　雇用マッチングシステムのイメージ　■



（２）登録企業の状況

本学は、情報工学部・デザイン学部・保健福祉学部の 3 学部で構成されている。平成 28 年度より企業登録及びシステム開発を進めてきたが、特に情報工学部の学生にターゲットを当てて登録企業の勧奨を進めてきた経緯がある。したがって、製造業（ものづくり企業）の登録が中心となっている。登録企業数は現在 77 社で、業者は、製造業（自動車部品製造・電子部品製造・繊維製品製造・食品製造等）・情報サービス業（情報処理・システム開発等）・総合建設業・小売業（スーパー）・銀行業・マスコミ・旅館業と多岐にわたっているが、製造業・情報サービス業が全体の約 8 割（77%）を占めている。

２．１－５　広報活動

（１）OKAYAMA COC＋ NEWSLETTER の発行

COC＋の広報紙「OKAYAMA COC＋NEWSLETTER」を 7 月、10 月、12 月の 3 回発行し、事業の周知を図った。

VOL.1（2018.7.1）

（主な内容）

・雇用マッチングシステム本格稼動

・地域創生推進士について、地域再生実践論開講

・域学連携活動（コモンズ・キャンパス等）　他

VOL.2（2018.10.1）

（主な内容）

・地域インターンシップ、エンジニアリング演習

・域学連携活動の紹介（コモンズあかいわ開所等）

・災害ボランティアについて　他

VOL.3（2018.12.1）

（主な内容）

・域学連携活動の紹介（HATTOJI プロジェクト等）

・おかやまボランティア演習・地域協働演習の実施

・経営者支援セミナー、エンジニアリング演習報告会　他

（２）おかやま COC＋ホームページの運用

平成 28 年 8 月に開設した、文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業の公式サイトにおいて各種取組を掲載した。

COC＋ホームページの概要

（3）おかやま COC＋リーフレット

これまでの取組を踏まえ、内容を更新したものを作成し、学内および各種団体への事業説明等での資料として活用した。

おかやま COC＋リーフレット

（4）副専攻「岡山創生学」新入生向けリーフレット（A4 版）

平成 30 年度版として、新入生に向けた副専攻「岡山創生学」の PR のため、リーフレットを作成し、入学式で配布し、新入生オリエンテーションで活用した。また、各種団体への事業説明の際の資料としても活用した。

副専攻「岡山創生学」新入生向けリーフレット

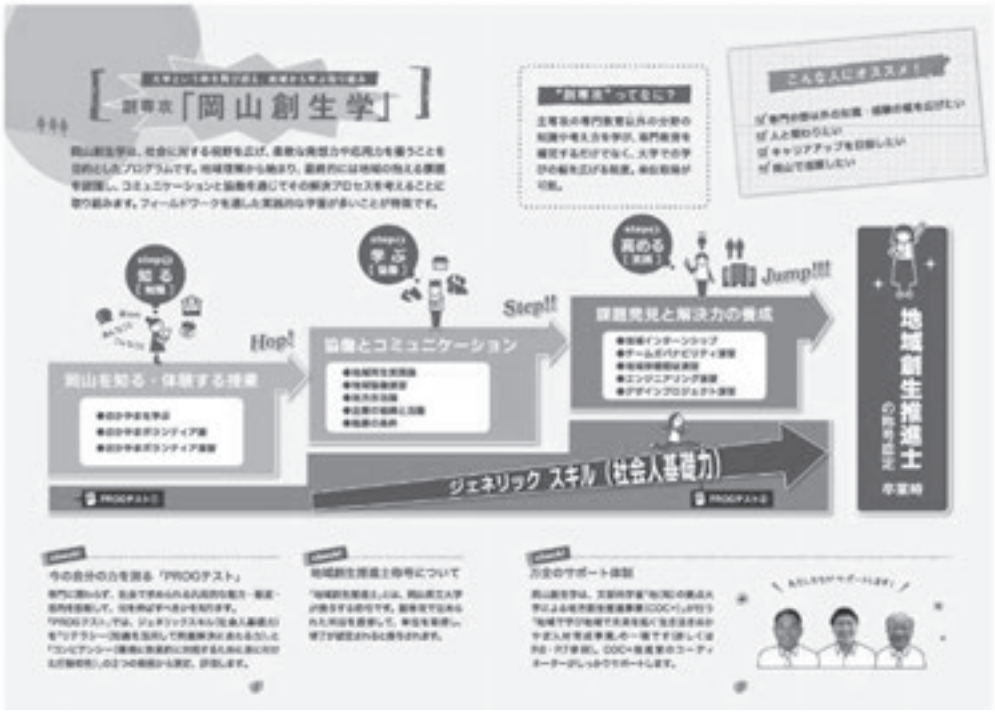
（5）副専攻「岡山創生学」2 年生向けリーフレット（A4 版）

平成 30 年度版として、2 年生に向けた副専攻「岡山創生学」の PR のため、リーフレットを作成し、在校生オリエンテーションで活用した。また、各種団体への事業説明時の資料としても活用した。

副専攻「岡山創生学」在学生向けリーフレット

（6）副専攻「岡山創生学」高校生向けパンフレット（A5 版）

平成30年度版として、高校生に向けた副専攻「岡山創生学」のPRのため、パンフレットを作成し、県内高等学校へ配布した。また、学内および各種団体への事業説明時の資料としても活用した。



副専攻「岡山創生学」高校生向けパンフレット

２．１－６　各種委員会・シンポジウム等の開催

本 COC＋事業の協働機関による協議の場として設置したおかやま COC＋推進協議会等の各種委員会を開催した。また、本 COC＋事業の評価を行う場として設置したおかやま COC＋外部評価委員会を開催した。

（１）おかやま COC＋推進協議会の開催

□日　時:平成 30 年 6 月 1 日(金)15:00～16:45

□場　所:岡山県立大学 本部棟大会議室

□参加者:

岡山県立大学、岡山大学、岡山理科大学、ノートルダム清心女子大学、山陽学園大学、就実大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、岡山県、笠岡市、備前市、真庭市、岡山市、倉敷市、高梁市、岡山県中小企業団体中央会、岡山県商工会連合会、岡山県産業振興財団、中国銀行、トマト銀行、山陽新聞社

□議事内容

(1)事業協働機関の追加について

事務局から赤磐市の事業協働機関の追加、それに伴う計画調書の変更、おかやま COC＋推進協議会規約及びおかやま COC＋教育プログラム開発委員会規約の改正並びに同市を追加した「岡山県の若者定着・雇用創出に係る連携協力に関する協定書」の締結について説明があり、いずれも原案のとおり承認された。

(2) 平成 29 年度事業報告(案)及び 平成 29 年度自己評価書(案)について

事務局から、COC＋事業の平成 29 年度事業報告(案)及び平成 29 年度自己評価書(案)について説明があり、いずれも原案のとおり承認された。また、辻議長から、おかやま COC＋推進協議会規程第 4 条により設置されている、おかやま COC＋外部評価委員会において、後日、評価を受けることが報告された。

(3)平成 29 年度決算(案)について

事務局から、COC＋事業の平成 29 年度決算(案)について説明があり、原案のとおり承認された。

(4)平成 30 年度事業計画(案)及び平成 30 年度事業予算(案)について

事務局から、COC＋事業の平成 30 年度事業計画(案)及び平成 30 年度事業予算(案)について説明があり、いずれも原案のとおり承認された。

(5)その他

・山陽学園大学から企業の採用状況の動向について質問があり、山陽新聞社から自社の状況について説明があった。

・岡山大学から同大学地域総合研究センターの平成 29 年度実施報告書等について紹介があった。

・岡山県立大学から地域学習教材ビデオオンデマンドシステムの状況について報告があった。

（２）おかやま COC＋外部評価委員会の開催

□日　時:平成 30 年 7 月 23 日(月)　14:00～15:30

□場　所:岡山県立大学　大学本部棟会議室

□参加者:

外部評価委員(出席):計 3 名

(◎:委員長、○:委員長代理、□:副委員長、順不同・敬称略)

○□青木　信之(広島市立大学理事長・学長)

岩谷可奈子(日本放送協会岡山放送局長)

中田　晃(一般社団法人公立大学協会事務局長)

大山　智(香川県政策部長)　※代理:宮崎　達朗(同地域活力推進課長)

外部評価委員(欠席):計 1 名

◎肥後　功一(島根大学大学院教育学研究科教授)

岡山県立大学:

辻学長(おかやまCOC＋推進協議会委員長)

沖副学長(おかやまCOC＋推進協議会副委員長)

兼信事務局長(おかやまCOC＋推進協議会委員)

佐藤地域共同研究機構長(おかやまCOC＋推進協議会委員)

原COC＋推進室長(おかやまCOC＋推進協議会委員)

□議題等

(1)平成29年度COC＋事業の実績評価の点検及びその評価について

□委員からの主な講評

・本事業の主な取組である、副専攻「岡山創生学」が順調に推移しているのは評価できる。

・副専攻「岡山創生学」の履修者が増加しているのは、良い授業であると受講した学生から後輩へ伝わっている。

・地域との連携事業は、参加する学生の学びにどう活かすかが重要である。

・参加する自治体が増えることは、学生がその地域へ接するチャンスが増えることなので評価できる。

・若者が地域のことを知る機会を増やすには、雇用マッチングシステムの活用が有効ではないか。

(3) おかやまCOC＋シンポジウム2019の開催

今回のシンポジウムは、「地域創生推進士が創るシンポジウム」と題して、「地域創生推進士」の候補となる学生が、計画段階から参画して、全体の統括や当日の総合司会、パネリスト、コーディネーター等も務めるものであり、その内容な以下の通りであった。

□日　時:平成31年2月18日(月) 13:30～17:00

□場　所:岡山シンフォニーホール　3階イベントホール

□参加者:228名(大学29名、高等学校22名、自治体17名、企業19名、その他8名、本学教職員106名、地域創生推進士候補学生27名)

□概　要

・開催挨拶　辻　英明(COC＋事業代表者／岡山県立大学長)

伊原木　隆太(岡山県知事)

・基調講演

講　師:東北学院大学地域協働教育推進機構　特任教授

株式会社知識創発研究所　代表取締役CRO　　松﨑光弘

題　目:「企業・自治体と大学の相乗効果　産学連携、域学連携を通して大学は地(知)の拠点になっているのか」

基調講演風景

・ポスター発表

地域創生推進士A 「岡山創生学の理念と地域創生推進士」

情報システム工学科：高畑　孟宏、樽谷　暁光、守屋　学人

地域創生推進士B 「私たちがめざす　地域創生推進士」

情報通信工学科：井上　悠太、三宅　真子、安井　悠貴・人間情報工学科：藤田　瑞基

チームガバナビリティ演習 「地域住民に安心な医療を！！～地域創生推進士として医療専門職で活躍するには～」

看護学科：原瀬　愛理・栄養学科：板谷　智恵美・保健福祉学科：鈴井　勝之

地域インターンシップ 「地域インターンシップの成果～公務員への道～」

人間情報工学科：曽根　海斗、岡本　光稀、難波　裕昌、吉田　拓人、坂東　直樹

エンジニアリング演習 「エンジニアリング演習から見えてきたこと」

情報通信工学科：高津　芳希・人間情報工学科：田中　理沙、渡部　皓太、渡部　拓斗

デザインプロジェクト演習 「デザインプロジェクト演習～専門性を組み合わせた地域支援

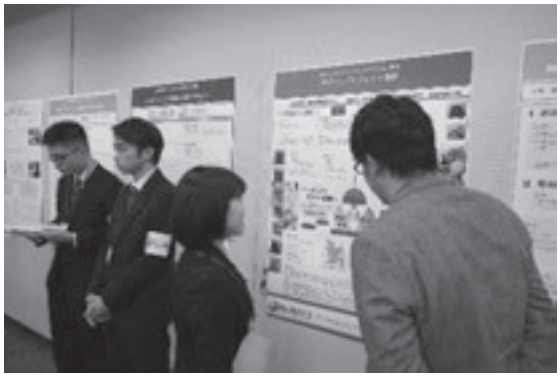
情報通信工学科：浅野　敬恵・保健福祉学科：瀬良　梓、仁内　茉利

総社市政策提言 「総社市役所　政策提言～インターンシップを経て～」

人間情報工学科：小林　悠理、藤井　佑季奈、山口　桃果

災害ボランティア 「多くの経験をした　災害ボランティア」

人間情報工学科：東　翔大、太田　圭祐、水子　祐希・情報通信工学科：安井　悠貴



ポスター発表風景

・パネルディスカッション

テーマ：「地域創生推進士への期待」

パネリスト：高津　芳希、安井　悠貴（岡山県立大学　3年）

岡本　実子、岡本　真実（くらしき作陽大学　4年）

西川　茂（総社市総合政策部政策調整課　課長）

長谷川　昌和（オーエム機器株式会社　専務取締役）

コメンテーター：松﨑　光弘（基調講演講師）

コーディネーター：高畑　孟宏、小林　悠理（岡山県立大学　3年）

パネルディスカッション風景

・閉会挨拶　沖　陽子（県立大学副学長・COC＋事業責任者）

・情報交換会（17:00～18:30、同会場にて開催）

参加者：71 名（学外 21 名、学内 50 名）

□学生の役割分担

役　割	氏　名
全体統括	瀬良　梓
受付	岡本　光稀、曽根　海斗、難波　裕昌、坂東　直樹、吉田　拓人
会場(マイク)・舞台(模様替え)	太田　圭祐、水子　祐希、仁内　茉利、浅野　敬恵
案内（建物入口、会場入口等）	田中　理沙、渡部　皓太、渡部　拓斗、藤井　佑季奈
総合司会	東　翔大、山口　桃果
パネリスト	高津　芳希、安井　悠貴
コーディネーター	高畑　孟宏、小林　悠理
パネルディスカッション時計係	樽谷　暁光、守屋　学人
ポスター発表進行	原瀬　愛理、板谷　智恵美、鈴井　勝之
情報交換会進行	井上　悠太、三宅　真子、藤田　瑞基
会場設営・情報交換会模様替え	全員

受付

舞台転換リハーサル

パネルディスカッション打合

集合写真

□準備状況

学生ミーティングを 5 回開催した。

・平成 30 年 11 月 8 日(木)16:00～ 学部共通棟北 8203
・平成 30 年 12 月 5 日(水)16:00～ 学部共通棟北 8203
・平成 30 年 12 月 19 日(水)16:00～ 学部共通棟北 8203
・平成 31 年 2 月 12 日(火)12:40～ 学部共通棟東 8903
・平成 31 年 2 月 14 日(木)14:15～ 学部共通棟東 8903

２．１－７　平成 31 年度以降の計画

２．１－７－１　平成 31 年度の計画

［A］教育改革

① 4 月～3 月：副専攻「岡山創生学」の 1 年次生及び 2 年次生を対象とする 5 科目と長期インターンシップ科目の継続開講、「岡山創生学」の単位互換・寄付講座の新規開講
② 4 月～3 月：副専攻「岡山創生学」の評価・改善
③ 4 月～8 月：大学・自治体・NPO 法人等参加のワークショップ型地域協働講座の実施
④ 4 月～3 月：クォーター制の評価・改善
⑤ 4 月～3 月：「雇用マッチングシステム」の運用
⑥ 4 月～3 月：「岡山創生学」のオンデマンドシステムの開発・試行
⑦ 4 月～3 月：地域インターンシップシステムの運用

［B］域学連携

① 4 月～3 月：連携自治体(総社市、笠岡市、備前市、真庭市、赤磐市及び岡山市)に設置した地域創生コモンズの運用・展開
② 4 月～3 月：連携自治体での地域インターンシップの運用
③ 4 月～3 月：連携自治体における域学連携活動に係る 31 年度の実施及び 32 年度以降の事業計画

［C］産学連携

① 4 月～3 月：岡山県立大学協力会の事業運営への連携(画像解析に関する技術講習会・業種説明会・企業説明会等)
② 4 月～3 月：ものづくり・ICT 分野(デジタルエンジニアリング)の技術向上、観光デザイン事業等による商品開発力・情報発信力向上の支援及びにヘルスケア産業、食品産業等との共同研究の推進
③ 4 月～3 月：「長期インターンシップ」システムの運用
④ 4 月～3 月：「雇用マッチングシステム」の運用及び参加企業の拡充

［D］【COC＋参加校との計画】

① 4 月～3 月：地域志向型ビデオコンテンツを対象としたオンデマンド化に向けた準備、「岡山創生学」の単位互換の実施及び寄付講座の開講

② 4 月～3 月：域学連携及び産学連携活動における協働の推進

［E］【事業協働機関の全体計画】

① 4 月～3 月：COC＋推進本部会議（月 1 回）、おかやまCOC＋推進協議会（年 1 回を予定）及び関係会議の開催

② 4 月～3 月：COC＋推進コーディネーター、事務職員等の雇用継続及び研修の充実

③ 4 月～3 月：COC＋事業の情報発信の実施及びCOC＋シンポジウムの開催

［F］その他

① 4 月～3 月：補助金終了後の事業継続に向けた体制の検討

２．１－７－２　平成 31 年度以降の計画

COC＋事業は平成 31 年度が最終年度となるが、県が策定した第 3 期中期目標及び、それを受けて本学で策定した、第 3 期中期計画において、COC＋事業の取組等を踏まえた地域貢献活動や地域連携教育を推進することとしていることから、平成 31 年度中に、次年度以降の事業の継続に向けた検討を行うこととする。

２．２　地域への貢献

２．２－１　公開講座

（１）概要

本学では毎年、県民を対象とした公開講座を開催している。本年度の公開講座では、デザイン学部の担当で、そのテーマを「美と芸術について考える」とし、9 月の土曜日に、2 日間 2 講座を実施した。

（２）日程等

テ　ー　マ:美と芸術について考える

担当学部 :デザイン学部

受講対象 :県内居住者、あるいは県内に通学・通勤している人

そ　の　他:全体の 3 分の 2 以上出席の者に修了証書を交付した。

日　程		テーマ	講　師
9 月 15 日（土）	10:20～10:30	開　講　式	学　長　辻　英明
	10:30～12:30	「美しい」という経験と美しいものについて考える ―「美」とは何か？「美」をとらえる 感性（センス）とは？―	教　授　樋笠　勝士
9 月 22 日（土）	10:20～12:20	芸術とは何か、哲学的に考える	准教授　河合　大介
	12:20～12:30	閉　講　式	学部長　森下　眞行

（３）開催状況

（1）参加者

居住地	人数	比率
総社市	12	25%
倉敷市	11	23%
岡山市	18	37.5%
その他	7	14.5%
計	48	100.0%

年齢	人数	比率
10 歳代	7	14.6%
20 歳代	5	10.4%
30 歳代	0	0%
40 歳代	4	8.3%
50 歳代	12	25%
60 歳代	11	23%
70 歳以上	5	10.4%
不明	4	8.3%
計	48	100.0%

・受講者数:48 名
・修了証交付者数:34 名

○ 開催状況

(2)参加者からの意見・感想

- 日頃から興味を持っていたテーマについて、本格的な講義を聴くことができ、大変有意義な時間を過ごすことができた。
- 自分の知らない美と芸術について、学び考えることができた。
- 日頃自分で思い悩んでいることを、理論で説明していただけたので、自分の中で理解できた。

（４）今後に向けて

今回の講座は、「美と芸術を考える」をテーマに、各教員の研究内容を取り入れた講義・演習を実施した。「美と芸術」という専門的なテーマであったにもかかわらず、年齢層の幅広い受講者が見られた。毎回の授業後には、積極的な質疑応答がなされ、受講者の学習意識の高さが窺えた。

今後も高度な専門的知識を得たいという受講生の要望に応えつつ、地域住民に幅広く学習機会を提供するとともに、大学において蓄積した知識、技術ならびに研究シーズをより多くの地域住民に、身近に感じてもらえる工夫をしていくことが必要である。

２．２－２　吉備創生カレッジ

岡山県は、全国的に見ても充実した高等教育機関の集積地である。このため、県内 15 の四年制大学が相互に連携・協力し、県内の高等教育全体の資質向上や地域社会への貢献等を目指す目的で、平成 18 年 4 月に「大学コンソーシアム岡山」が発足し、現在では正会員として 17 大学が参加している。さらに、特別会員として 5 短期大学及び 1 高等専門学校が加わっている。

「大学コンソーシアム岡山」は、事業のひとつとして社会人教育事業「シティ・カレッジ」を県内各地で開講したが、同時に、山陽新聞社でも、県内の大学の協力を得て、生涯学習講座「山陽新聞カレッジ」を開始した。この 2 つの事業は、趣旨・目的がほぼ同様であることから、受講生にわかりやすくするため、平成 19 年度から「吉備創生カレッジ講座」として統合された。

本学は、中期計画及び年度計画で講師派遣を行うこととしており、本年度は下表の 6 講座を提供した。 開催場所はいずれも吉備創生カレッジ・さん太キャンパスであり、講義開催日数は 3 日であった。

期	日　時	担当教員	講座名	内　容
前期	H30.4.12 ～5.10	デザイン学部 講師 尾崎　洋	生活の中のデザイン （文化講座）	美しさや使いやすさなど、さまざまなモノやコトはデザインされている。それを支える技術や仕組みを解説・観察しながら、生活の中のデザインについて学んでもらう。
	H30.4.13 ～4.27	保健福祉学部 准教授 岩満　賢次	介護保険と地域づくり （医療福祉講座）	介護保険制度は幾度の改正を経て、地域包括ケアシステムの具現化を目指しつつある。講座では、基本的な介護保険制度の仕組みを学んだうえで、地域づくりとしての地域包括ケアシステムについて考える。
	H30.5.24 ～6.28	情報工学部 准教授 栁原　衞	脳を解剖するとは （科学講座）	脳の外見や断面を見たり、顕微鏡で観察を行っても、脳の構造が分かったとは言えない。脳は神経が連絡しあって機能しており、その機能を支える構造、すなわち脳の神経路について説明を行う。
後期	H30.11.1 ～11.15	情報工学部 教授 徳田　安紀 助教 坂口浩一郎	レーザー光が拓く現代社会 （科学講座）	レーザー光は人類が生み出した特殊な光だが、今や非常に身近な光になっている。レーザー光とはどのような光なのかをわかりやすく解説し、身近な分野から最先端科学技術までの様々な利用について紹介する。
	H30.11.1 ～11.29	保健福祉学部 講師 都島　梨紗	はじめての社会調査入門 （社会講座）	アンケートやインタビューなどの社会調査の基礎を学び、実際に調査手法を体験することで、私たちが生活する「社会」の当たり前を捉えなおす機会を与える。
	H31.2.6 ～3.6	デザイン学部 助教 畠　和宏	病気とたたかう子どもの空間 （医療福祉講座）	病気とたたかう子どもや、それを支える家族にはどういう空間が必要か。小児医療環境の現状と課題を理解したうえで、あるべき姿についてともに考え議論してもらう。

２．２－３　高大連携活動

高校名	担当学部	教員名		講義内容等	受講人数	学年	実施日
岡山南	保健福祉	教授	高戸　仁郎	「介護予防について」講義・実技指導	16	3	H30.5.7
倉敷鷲羽	保健福祉	教授	井村　圭壮	福祉・保育・看護・栄養系に進む高校生に伝えたいこと	10	3	H30.7.2
井原	保健福祉	教授	井村　圭壮	進路を決める指針～保健福祉・医療系の仕事～	13	1-3	H30.8.2
邑久	保健福祉	教授	井村　圭壮	社会福祉系学部で学べること、社会福祉士、看護師の仕事内容等について	13	2,3	H30.8.21
総社南	情報工学	教授 教授 准教授 准教授 准教授 准教授 助教 助教	金川　明弘 佐藤　洋一郎 岸原　充佳 山﨑　大河 井上　貴浩 齋藤　誠二 泉　　晋作 大山　剛史	プログラムによる直流モータの制御 ロボット制御のシミュレーション 半導体の特性測定 骨格筋収縮時の筋電信号 対戦ゲームにおける局面評価アルゴリズム 筋電義手で物体把持	74	2	H30.9.19
倉敷南	保健福祉	教授	田中　晃一	「キャリアⅠ」学問の哲人講座:食品と微生物	11	2	H30.10.4
	保健福祉	准教授	岡崎　愉加	「キャリアⅠ」学問の哲人講座:家族看護学～家族を理解するための理論～	15	2	
	デザイン	准教授	南川　茂樹	「キャリアⅠ」学問の哲人講座:造形デザイン学科で学べること	11	2	
総社	デザイン	教授	山下　明美	色彩※	10	2	H30.10.16 10.23
		准教授	朴　貞淑	住環境※			H30.9.25 10.2
		准教授	益岡　了	ユニバーサルデザイン等※			H30.11.13 11.20
岡山商科大学附属	保健福祉	教授	井村　圭壮	大学の学問について大学進学に当あたり、高校生活で必要なこと	20	1	H30.10.17
岡山南	保健福祉	教授	高戸　仁郎	「高齢者の健康」について	79	2	H30.10.23
高梁	保健福祉	教授	井村　圭壮	医療・福祉系を目指す生徒を対象にしたキャリア教育講演会	20	2,3	H30.10.26
清心女子	保健福祉	教授	伊東　秀之	総合的な学習・物質科学課題研究※	5	2	H31.2.12

※　講義内容等の※印は連携講座（高校が単位認定を行うことができるもの。）

２．２－４　附属図書館の活動

（１）地域への一般開放

本館は、平成21年度より教育研究に支障のない範囲で、一般開放を行っている。館内では自由に蔵書の閲覧ができるほか、OPAC専用端末による蔵書検索や所蔵している文献の複写、DVD・ビデオなどの視聴が可能となっている。また、平成28年度から18歳未満の方の利用も可能としている。

なお、学外の方が入館するには、申込書への記入及び下表に示す証明書等の提示が必要となっている。更に、利用者カードを申請することにより図書の貸出も可能である。貸出の対象と冊数及び期間は下表に示すとおりである。

利用資格

区　　分		入館に必要なもの
県　内 （注 1）	18 歳未満の方(注 2)	学生証（生徒手帳）又は身分が証明できるもの
	大学関係者(注 3)	所属大学の学生証又は身分が証明できるもの
	上記以外の 18 歳以上の方	身分が証明できるもの(注 4)
県　外	県外の方	

（注 1）県内居住者等とは、岡山県内に居住又は通勤・通学をされている方
（注 2）小学生以下の方がご利用の場合は、保護者の同伴及び申込書への署名が必要
（注 3）岡山県大学図書館協議会加盟校の方
（注 4）運転免許証・保険証等又は公共料金郵便物の住所が記載されているもの（コピー可）

貸出の対象、貸出冊数及び貸出期間

貸出の対象	貸出冊数	貸出期間
(1) 岡山県大学図書館協議会加盟校の教職員・学生	5冊まで （図書のみ）	14日以内
(2) 本学卒業生など		
(3) 県内に居住または通勤・通学し、許可を受けた方	3冊まで （図書のみ）	

貸出については、本学における教育研究を優先するため、定期試験開始日の2週間前から試験期間終了日までの約1ヶ月間は行わないこと、ならびに、貸出期間内でも返却の依頼をする等の制約を設けている。平成21年度から利用者カードを発行し、平成31年3月末現在までの発行枚数は2,859枚、今年度の学外の方への新規利用者カード発行枚数は144枚であった。また、次ページ表より、学外者の中でも一般の方が全体の85％を占め、総社市内のみならず広い地域の方々に利用されているのがわかる。平成30年度の一般の方への貸出は590冊であった。

学外者図書館利用実績(H30.4.1～H31.3.31)

区　　分	延人数（人）	比率（%）
他大学の学生	52	3.7
他大学の研究者	3	0.2
大学以外の学生	67	4.7
大学以外の研究者	6	0.4
本学卒業生	86	6.1
上記以外(一般の方)	1,205	84.9
計	1,419	100.0

居住地別のカード交付実績

(H30.4.1～H31.3.31)

区　分	人数（人）
総社市	39
岡山市	44
倉敷市	39
県内他の市町村	21
県　外	1
計	144

（２）岡山県内図書館との連携

本館は、岡山県立図書館(以下「県立図書館という」)が中心となって行っている「岡山県図書館横断検索システム」、「岡山県図書館間相互貸借システム」に参加している。このシステムは岡山県内の公共図書館や加盟している大学図書館の図書資料を一括で検索することができるほか、借りたい資料が近隣の図書館にない場合でも、県立図書館を通して他の図書館から無料で取り寄せることが可能となっている。平成30年度にこのシステムを通じて県民へ貸出した冊数は、60冊であった。

また、本館は県立図書館の返却窓口及びインターネット予約資料の受渡館にも指定されている。県立図書館で直接借りた本を本学の図書館カウンターで返却することができるうえ、県立図書館の本をインターネット予約で借りる際、受渡館に「岡山県立大学附属図書館」を選択することにより予約した本を本学の図書館カウンターで受け取ることができる。平成30年度に返却窓口として利用された本は541冊、インターネット予約で受渡館として利用された本は423冊であった。

平成30年11月から学内者に限り、県立図書館と協力し、利用者カードの発行を行えるようになった。

（３）高校生のための大学授業開放に伴う臨時開館

8月18日(土)に行われた「高校生のための大学授業開放」では、臨時開館を行い高校生及び保護者の方128名が館内を見学した。来館した高校生は、興味深そうに館内を見学しながら、初めて見る大学図書館の専門書の多さや専門性に驚きつつ、入学して図書館で勉強したいと感想を語っていた。

（４）大学見学に伴う館内案内の実施

高校生以下の学生が、授業の一環として本学の施設見学を行った際、館内の案内を行った。生徒たちは電動書架を動かしてみたり、興味のある本を閲覧したり、職員に質問したりと熱心に館内を見学していた。見学を行った学校は次のとおり。

・善通寺第一高校　　生徒40名
・総社東小学校　生徒11名・引率者5名
・御津高校　　生徒7名
・西大寺高校　　生徒36名、引率者1名
・倉敷工業高　　生徒40名、引率者3名
・早島支援学校　生徒8名、引率者17名

説明を聞いている様子
（善通寺第一高校）

児童から質問を受けている様子
（総社東小学校）

説明を聞いている様子
（御津高校）

本棚を見ている様子
（倉敷工業高）

（５）大学祭に伴う臨時開館及びリユース市の開催

大学祭初日に開館し、一般の参加者も館内を自由に見学した。当日はビブリオバトルの開催も行われ、785名の参加者がイベント等を楽しんだ。

また、同時にリユース市（図書館所蔵図書のうち、重複や改版等により除籍とした図書を有効活用することを目的とし、低価格にて販売）を開催し、108名の参加者が来場した。

ビブリオバトルの様子

リユース市会場の様子

（６）中学生の職場体験

職場体験学習の場として総社市内の中学生2名を受け入れた。館内の利用方法や蔵書検索の仕方、貸出・返却時の応対などの指導を行った後、実際にカウンターで貸出・返却業務、配架作業、雑誌の受入や整理、館内の清掃などを体験した。生徒からは「書架整理や日本十進分類法など、たくさんのことを教わった。図書館員は本と利用者を結びつける役目があると学び感心した。」というお礼の手紙をいただいた。

雑誌の受入をしている様子

返却図書の配架をしている様子

（７）総社市健康インセンティブ事業への協力

平成30年度から開始された総社市健康インセンティブ事業「歩いて獲得健康商品券」への協力依頼が総社市から本学にあり、図書館エントランスに事業参加者が利用できるリーダーとモバイルルーターの設置に協力した。

機器利用者の中には、エントランスで新聞を読んだり、館内で図書を借りる方も見受けられた。

（８）学術情報の発信

本学の研究成果を学内外の方に広く活用してもらうため、岡山県立大学学術情報リポジトリにより、本学発行紀要（岡山県立大学保健福祉学部紀要、岡山県立大学デザイン学部紀要及び岡山県立大学教育研究紀要）のほか、学術雑誌に掲載された論文等を公開している。

２．２－５　異文化理解の活動

語学教育推進室では、学内の全学対象の語学教育の責任を担いつつ、同時に地域に開かれた組織を目指して、国際社会を生き抜くために必要とされる語学力や異文化理解を促す事業を企画し、地域の方々にも広く参加を呼びかけている。グローバルに事象を見て考え、ローカルに行動できる人材作りを目標とする際に、異文化・多文化理解は必須である。

（１）映画上映会（国際交流センターとの共催）

語学力の向上や異文化・多文化理解のために外国語映画の上映会を開催した。本年度は、英語音声映画（日本語字幕付き）を 3 本、韓国語映画（日本語字幕付き）を 1 本上映した。内訳は以下のとおりである。上映は、5・6・10・11 月の木曜日の午後であり、場所は国際交流センターであった。

映画上映の内訳

日時	種別	上映時間	参加人数
5 月 17 日（木）	英語	129 分	6
6 月 28 日（木）	英語	120 分	5
10 月 18 日（木）	英語	120 分	10
11 月 29 日（木）	韓国語	120 分	40

（２）スピーカーズ・コーナー

スピーカーズ・コーナーは、コンテストという競争形式ではなく、学生の自由な発想のもとに外国語でのスピーチをすることができるイベントである。学生の語学力向上と地域社会とのつながりを目指し、毎年秋の大学祭 1 日目に行われる恒例行事となっている。本年度は、11 月 3 日（土）9:00～11:00、学部共通棟（東）8903 教室において開催された。出場者は、英語のみならず、韓国語、ドイツ語の出場者も含まれた。英語以外の言語による発表が増えてきた。参加者は、発表者 18 名を含め 53 名となった。以下、出場者の所属と演題を示す。

発表の内訳

発表者	演題
情報システム工学科 2 年	Dogs in the UK
情報通信工学科 2 年	Balloon
造形デザイン学科 2 年	Strange British Food
保健福祉学科 3 年	韓国のグルメについて
保健福祉学科 2 年（2 名）	韓国　語学・文化研修
デザイン工学科 1 年	韓国文化（ドラマ）について
造形デザイン学科 1 年（3 名）	K-POP（韓国アイドル）
情報通信工学科 1 年（2 名）	ドイツ経済に学ぶ日本のこれから
情報通信工学科 1 年（3 名）	ベルリンの壁
保健福祉学科 1 年	Charm of Tom Cruise
栄養学科 1 年	Japanese Vegetarian Food
看護学科 2 年	Extend Your Horizon

なお、各出場者（チーム）に対して、フォトブックを作成し、広報に役立てた。

フォトブック

英語によるスピーチ

（３）第二外国語ワークショップ（韓国語・ドイツ語のミニミニ講座）

本学教員による第二外国語ワークショップ（韓国語・ドイツ語）が、学祭時に行われたスピーカーズ・コーナーの後で実施された。11 月 3 日（土）11:00～12:15 に開催された。短い時間での開催であったが、本学で初めて第二外国語に着目した試みであった。韓国の文化を画像で紹介したり、ドイツの学校の教員とのメッセンジャーアプリを利用したリアルタイムでの対話などにより、学生や地域の方の関心をひきつけることができた。

第二外国語ワークショップの講師とタイトル

講　師	タイトル
非常勤講師　福光瑞江	第二外国語と世界の多様性
デザイン学部デザイン工学科 朴貞淑	韓国の文化

（４）海外研修等

語学教育推進室は、学生の異文化理解を進めるために海外研修にも携わっている。平成 30 年 4 月 26 日（木）4 限より、学部共通棟（西）8206 教室において平成 29 年度の海外研修等の発表が行われた。

平成 30 年度は、語学文化研修として、英国・バンガー大学での研修に参加した 5 人（夏）、韓国・梨花女子大学での研修に参加した 2 人（夏）の学生から報告が行われた。豪州・アデレード大学（春）は、応募者が最少催行人員に達しなかったため、実施されなかった。また、海外研修（保健福祉学）のうち、ウソン大学・保健福祉分野（9 名）、香港理工大学・看護分野（7 名）、ウソン大学・栄養分野（13 名）は、実施された。海外研修（保健福祉学）のうち、豪州・アデレード TAFE 等（夏）は、語学文化研修（春）と同様に、応募者が最少催行人員に満たなかったため、中止された。

実施されたいずれの研修に関しても、国際交流センターの協力のもと、語学教育推進室の教員が事前指導（オリエンテーションを含む）を行った。語学教育推進室の教員が引率をしたのは、語学文化研修（バンガー大学）および語学文化研修（梨花女子大学）であった。

２．２－６　健康・スポーツ推進の活動

（１）概要

岡山県立大学健康・スポーツ教育推進室は、大学におけるスポーツ関連の授業や課外活動が安全かつ円滑に行える環境を確保し、スポーツを通じた学生・教職員の親睦と健康維持を推進している。さらに、大学のスポーツ施設の有効利用を可能な限り学外にも広げ、健康・スポーツの面から地域に貢献することを目指している。

（２）管理体制の実質化

岡山県立大学の運営規程におけるスポーツ関連施設の管理責任者は事務局長であるが、施設の状況に精通した教員による実質的な「スポーツ施設管理者主任」を２名置いている。

屋内スポーツ施設管理主任（体育館・プール）

屋外スポーツ施設管理主任（陸上競技場・野球場・グラウンド(サッカー場)・テニスコート）

スポーツ施設管理主任の所掌事項は主に以下の３点である。

①施設・用具の点検と要望の把握

②施設・用具の補修補充に関する協議・実行・報告

③施設・用具の安全使用と整理整頓等の啓発

（３）施設・設備の充実

スポーツ施設の地域開放をにらみ、野球場の表土の補充、陸上競技場フィールド内の芝の養生を行った。体育館プラザに設置していたトレーニング機器のうち、老朽化が著しく危険なものを廃棄し、トレーニングベンチを新規に導入した。安全に施設を利用できるよう、老朽化して使用者に危険が及ぶ可能性がある設備について調査、適切な処分を行った。

（４）公立大学法人岡山県立大学体育施設貸付要項

平成21年10月より実施してきた本学の体育施設の地域開放の対象を、岡山県内に住所及び勤務する者を主な構成員(1/2以上)とする団体へと拡大している。

（５）大会・行事

①　地域貢献スポーツ大会

岡山県立大学杯第６回少年少女サッカー大会

日時：平成30年12月15日（土）

場所：陸上競技場・サッカー場

参加人数：約360名超

②　産学官連携事業

県大メディカルフィットネス講座

日時：平成30年5月17日（木）～平成31年2月28日（木）

場所：体育館・トレーニング場・陸上競技場

参加人数：延べ約1,800名

（６）今後の展望と課題

地域へのスポーツ施設の貸し出し実績について、小学生・中学生を中心とした貸付利用数は増加傾向にある一方で、学生の課外活動、産学官連携事業等による利用も増加しており、利用状況に変化がみられる。今後は、産学官連携事業等を通じて幅広い世代が本学の体育・スポーツ施

設を活用できるような体勢づくりも必要と思われる。一方で施設の老朽化も進んでいるため、安全で快適に利用できる対策の再検討も含め、補修・管理をしていく予定である。

（７）関連資料

体育施設の地域開放について(公立大学法人岡山県立大学体育施設貸付要項)平成21年11月から貸付対象施設の貸し出しを開始した。

①　貸付対象施設および本年度貸付実績

野球場　34件

グラウンド(サッカー場)　3件

②　貸付対象者

1)岡山県内に住所を有する者及び岡山県内に勤務する者を主な構成員(1/2 以上)とする団体

2)その他理事長が特に使用を認めた者

③　利用可能時間帯

1)時期　通年(12月29日から翌年1月3日を除く)

2)時間　9:00～日没まで(19:00を限度)

④　予約申込

受付は、平日 9:00～17:00まで、事務局総務課窓口

⑤　受付期間

希望日の前月の1日から15日の間

⑥　貸付許可

理事長が、健康・スポーツ教育推進室長の意見を聞いて適当と認められるときに許可する。なお、施設使用の公平を図るため必要があるときは、同一申請者が施設を使用する回数又は時間を制限する場合がある。

⑦　利用料金

施設名	金額(1時間当たり)	
野球場	一般	2,000円
	高校生以下	500円
グラウンド(サッカー場)	一般	2,000円
	高校生以下	500円

⑧　貸付条件

1)施設使用に当たっては、本学の諸規程や指示に従うとともに、使用開始時及び使用終了時に体育施設管理人に報告し、確認を受けること。

2)施設の使用中に生じた事故及び損害について、借受人がその一切の責任を負うこと。

⑨　問い合わせ先

岡山県立大学事務局総務課　℡:0866－94－2111(代)

２．２－７　ボランティア活動

（１）地域ボランティア

大学へ寄せられた県内の市町村や社会福祉法人などからの学生ボランティアの募集について、学生支援団体PZL（パズル）に情報提供したほか、学内掲示板への掲示による告知や関係する部・サークルへの連絡調整を行った。

大学を経由して依頼を受けたボランティアに参加した部・サークルは 4 団体あり、計 24 件のボランティアに参加した。内訳は、奇術部 18 件、ボランティア部ひまわり 4 件、写真部 1 件、ガーデニングサークル 1 件。

（２）西日本豪雨災害（平成 30 年 7 月豪雨）ボランティア

7 月 14 日（土）～16 日（月）の 3 日間、総社市内の災害ボランティアに本学の学生も参加（教職員含め 3 日間で約 250 人）し、がれき撤去などの作業を行った。

11 月 3 日（土）と 4 日（日）の大学祭開催時に本学において、学生支援団体PZL（パズル）が、チャリティーフリーマーケットを開催した。フリーマーケットで出店した商品の売上げは、全額（46,542 円）を「平成 30 年 7 月豪雨岡山県災害義援金」募金運動推進本部（本部長：県知事）に届けた。（写真は岡山県立大学 HP「県大ニュース」より引用）

フリーマーケットの様子 1

フリーマーケットの様子 2

義援金の受け渡し

２．３　行政への貢献

２．３－１　岡山県への貢献

本学の設置者である岡山県へは各種の委員会やイベントで多くの貢献を行ってきた。 本学は保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部から構成されており、委員の応嘱状況は下記のとおりである。

	岡山県	岡山県 教育委員会	岡山県 教育庁	合計
保健福祉学部	30	1	1	32
情報工学部	6	0	0	6
デザイン学部	13	1	0	14
合計	49	2	1	52

保健福祉学部では、介護保険審査会、社会福祉審議会、子ども・子育て会議、健康おかやま21推進会議、食の安全・食育推進協議会など学部の特性に応じた委員会の他に、環境審議会、都市計画審議会、などに貢献している。情報工学部では、高度情報化推進協議会、工業技術センター外部評価委員会などに貢献している。デザイン学部では、都市計画審議会、屋外広告物審議会などの他に、土地開発審査会、環境影響評価技術審査会、おかやまUDシニアアドバイザー会議などにも貢献している。

また、共同研究・受託研究等の詳細は 3.2-1 を参照されたい。デザイン学部では学部の特色を活かし、共同研究としてポスターやグッズ等のデザイン、動画やウェブサイトの作成等を行っている。

２．３－２　市町村への貢献

県内市町村及び県外への委員の応嘱状況は以下のようになっている。

	保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	合計
国	1	8	0	9
総社市	23	1	5	29
岡山市	4	2	8	14
倉敷市	1	0	6	7
真庭市	0	0	1	1
笠岡市	1	0	0	1
備前市	0	1	0	1
美作市	1	0	0	1
浅口市	2	0	1	3
瀬戸内市	0	0	1	1
井原市	0	1	0	1
吉備中央町	1	0	0	1
早島町	3	0	0	3
愛知県小牧市	1	0	0	1
奈良県	1	0	0	1
奈良県三郷町	1	0	0	1
滋賀県高島市	1	0	0	1
合計	41	13	22	76

活動の内容は、保健福祉学部の応嘱が圧倒的に多く、内容的には地域の福祉、介護、子育て、健康などに関するものが多くを占めている。なお、総社市との間では、平成 20 年に締結した包括連携協定に基づき様々な活動を行っており、本学が有する知識や情報、研究成果を地域に還元する一方、総社市からはインターンシップの提供等のサポート受ける相互支援体制を形成している。

（総社市との主な連携事業）

［連携活動において地域に貢献したもの］

① 共同研究等の実施

【共同研究・受託研究等実績（行政関係）2.3-4 を参照】

② 市民向けPR事業

ア「夏休み県大探検」【8 月 23 日（木）AM、3 学部対応】

・参加者　61 名（市内小学生 37 名と保護者 24 名）

・テーマ　「保育士さんのお仕事体験『赤ちゃんのお世話をしてみよう！』」
「不思議なカメラを使って遊ぼう！」
「ロボットやキャラクターに話しかけてみよう！」
「瞳の大きさで興味がわかる？！」
「アトリエ棟探検・けんちく模型って何？」

イ「夏休み工作教室」【8 月 23 日（木）PM、デザイン学部対応】

・参加者　21 名（小学生高学年 15 名と保護者 6 名）

・内 容　「石こうで作る不思議なタマゴ」

③ 岡山県立大学子育てカレッジ

【地域連携推進センター実績（3.3-5）を参照】

［連携活動において支援を受けたもの］

① 共通教育講義「大学で学ぶ」への講師派遣【5 月 16 日（水）】
「人間力」（講師：片岡市長）　※ 新入生約 400 名を対象

② インターンシップの実施【8 月 13 日（月）～9 月 15 日（土）】
2～4 年生が参加、インターンシップ報告会では学生一人ひとりが体験で得た成果を報告するとともに総社市へ提言を行った。

③ 台湾雲林科技大学等の日本語・日本文化生活体験研修【7 月 18 日（水）～26 日（木）】
本学が語学研修生を受入れ実施
（台湾雲林科技大学 8 名・中国河南科技大学 3 名）
※豪雨災害のため、今年度は県立大学のみで実施

２．３－３　各種委員・講師の応嘱（行政関係）

本学における平成 30 年度の各種委員の応嘱の状況は、次のとおりである。

区　分	国・独立 行政法人	県	市町村	計
保健福祉学部	1	34	40	75
情報工学部	8	6	5	19
デザイン学部	0	13	27	40
合　計	9	53	72	134

※　公表を制限されているものを除く

本学における平成 30 年度の講師派遣の状況は、次のとおりである。

区　分	国・独立 行政法人	県	市町村	その他	計
保健福祉学部	1	10	17	0	28
情報工学部	0	1	2	0	3
デザイン学部	0	4	3	0	7
合　計	1	15	22	0	38

２．３－４　共同研究・受託研究等（行政関係）

（１）共同研究

相手方	題目	研究代表者
総社市	保育者の資質向上	保健福祉学部 佐藤和順教授
総社市	県大メディカルフィットネス講座の効果の検証	情報工学部 綾部誠也准教授
総社市	“歩得”健康商品券事業に係る参加者への健康づくり支援	情報工学部 綾部誠也准教授
総社市	水道パンフレットの作成	デザイン学部 中西俊介准教授
総社市	来庁記念写真システムの構築	デザイン学部 齋藤美絵子准教授

（２）受託研究

相手方	題目	研究代表者
里庄町	里庄まこもたけの機能性成分の探索	保健福祉学部 伊東秀之教授

２．４　企業等への貢献

この節では 2.3-4 で述べた自治体以外の共同研究、受託研究等について記載する。企業等との関連では、共同研究・受託研究・教育研究奨励寄附金・その他の 4 つに分類できる。学部別の件数は以下のようになっている。金額については第 4 章を参照されたい。

	保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	合計
共同研究	10	12	14	36
受託研究	6	5	3	14
教育研究奨励寄附金	13	23	11	47
合計	29	40	28	97

２．５　人材の育成・輩出

２．５－１　保健福祉学部・大学院保健福祉学研究科

Ａ．看護学科

（１）教育状況

看護学科では、人々が健康で豊かなその人らしい人生が実現できるように、看護の専門知識と技術を活かして、地域におけるあらゆる健康レベルの人々（家族・集団・地域）の生涯を通じた健康を支援し地域社会に貢献できる看護専門職の育成を目指している。看護学科で取得可能な資格は、看護師国家試験受験資格と助産師国家試験受験資格（4 名）であり、4 年間で看護師と助産師の国家試験受験資格を得ることができる県内唯一の大学である。本学科の卒業生は、地域を見守る看護専門職者として、県民の健康増進及び健康回復に貢献している。

看護学専攻では、学際的で高い看護の専門的知識と基礎的な研究能力を活かして、保健医療福祉分野における課題を解決し、国内外の看護における実践・教育・研究の場で社会のニーズに応え、貢献できる人材の育成を目指している。なお、保健師教育は法改正（修業年限延長）を機に、平成 25 年度から大学院博士前期課程で行っており、全国では 2 番目の開設である。

（２）就職・進学状況

平成 29 年度看護学科の就職率および進学率は 100％であった。就職者は 30 名で、就職先は、岡山大学病院、倉敷中央病院、岡山市立総合医療センター岡山市立市民病院等、川崎医科大学総合医療センター、岡山県精神科医療センターなどの県内屈指の医療施設であり、県内就職率は63％であった。進学者は 7 名で、岡山県立大学大学院博士前期課程保健福祉学研究科看護学専攻に 6 名、新見公立大学助産学専攻科 1 名であった。

平成 29 年度看護学専攻の就職率は 100％であった。就職先は、岡山県等の保健所等、大学教員等であった。看護学専攻の修了生 1 名が岡山県立大学大学院博士後期課程保健福祉科学専攻に進学した。

（３）その他

・国家試験の合格状況

国家試験合格率は、看護師・保健師・助産師のいずれにおいても、5 年連続で全国平均を上回っていた。

国家試験合格率（%）

	看護師			保健師			助産師		
		本学	全国		本学	全国		本学	全国
H25 年度	103 回	97.6	89.8	100 回	100	86.5	97 回	100	96.6
H26 年度	104 回	97.7	90.0	101 回	100	99.4	98 回	100	99.9
H27 年度	105 回	97.6	89.4	102 回	100	89.8	98 回	100	99.9
H28 年度	106 回	97.7	88.5	103 回	100	90.8	99 回	100	93.0
H29 年度	107 回	100	91.0	104 回	87.5	81.4	100 回	100	98.7

Ｂ．栄養学科、栄養学専攻

（１）教育状況

栄養学科では、超高齢社会の到来や生活習慣病予防が重視されている現代社会において、食と健康の相互関係を科学理論によって理解し、未知なる事象の解明に向けて研究する姿勢を身につけ、栄養学を人の健康・維持増進、疾病の予防、治療へと応用し、広く地域社会に貢献できる人材の育成を目指している。

大学院栄養学専攻（修士課程）では栄養学専攻は、食品の機能や臨床栄養などの人の健康に関連した栄養学的な諸問題を解

決できる優れた専門性を備えるとともに、豊かな創造力と問題解決能力を身に付け、それぞれの領域で活躍できる人材の育成を目指している。

（2）就職・進学状況

平成 29 年度の就職・進学率は、就職希望者に対する就職率は 100%（41 名）であった。就職先業種は一般企業 36%（15 名）、病院・社会福祉施設 33%（14 名）、行政・学校 24%（10 名）、大学院 5%（2 名）、そのうち大学院を除き、管理栄養士・栄養士として就職したものは 24 名（60%）、一般事務、食品開発・販売等が 15 名（40%）であった。主な就職先としては岡山県（栄養教諭）、倉敷市（管理栄養士）、島根県（食品衛生監視員）、堺市（栄養教諭）、愛媛県（栄養教諭）、名古屋市（栄養教諭）、神戸市（栄養教諭）等、医療機関は倉敷中央病院、岡山済生会総合病院、川崎医科大学総合医療センター、しげい病院、水島協同病院等であり、企業は一光化学、源吉兆庵、岡山木村屋、生活協同組合等多岐にわたる。進学は岡山県立大学大学院に 2 名であった。これらの職務に対応可能な多数の優秀な卒業生を輩出している。栄養学専攻（博士前期課程）では、平成 29 年度末に 7 名が修了し、その内の 7 名全員が就職（就職率 100%）、岡山県外への就職であり、就職先業種は、（独）地域医療推進機構大阪みなと中央病院、和歌山市役所への管理栄養士、その他神戸検疫所、企業では（株）テクノプロR&D 社などの研究職など幅広い職域で活躍する人材を育成している。

（3）その他

・国家試験の合格状況

栄養学科で取得可能な資格は下表上のとおりである。また、管理栄養士国家試験合格率は、平成29年度は95.2%であった。これまでも 90%以上の高い水準を保っており（下表下）、高度な専門知識と技術の習得を行っている。

栄養学科で取得可能な資格

- 栄養士
- 管理栄養士国家試験受験資格
- 食品衛生管理者（任用資格）
- 食品衛生監視員（任用資格）
- 栄養教諭一種免許状

過去 5 年間の管理栄養士国家試験合格率（%）

卒 業 年 度	H25	H26	H27	H28	H29
本学	90.2	95.2	100	97.5	95.2
管理栄養士養成課程　全国・新卒	91.2	95.4	85.1	92.4	95.8
全体（既卒・栄養士養成校含）	48.9	55.7	44.7	54.6	60.8

・岡山県内専門職との連携及び支援

栄養学科教員は各自の専門性を活かし、岡山県内で活躍している卒業生を含む各職域の管理栄養士・栄養士等の専門職と連携して教育・研究事業を実施した。表にこれまで実施した一例を示す。

・集団給食従事者（保育園、学校、病院、高齢者施設等）に対する支援：各職域別に特定給食施設を通じた地域における健康増進施策の推進に関する講演や地域の健康づくりのための行動変容の手法、地域における減塩活動の普及に関しては、本学地域貢献特別研究で実施した地域住民の主体的な健康づくりの支援プログラムを用いた研修で、栄養管理の向上に努めた。

H26	真庭市
H27	瀬戸内市、矢掛町
H28	総社市、瀬戸内市、 備北保健所給食従事者研修会
H29	備中保健所給食従事者研修会、備前市

・行政栄養士に対する支援：保健所および市町村行政栄養士が行う健康増進計画や食育推進計画の評価・策定業務に関するスキルアップ研修会や栄養改善協議会での研修会講師、および地域の実態把握のための調査研究の実施・分析を担当し、保健所が実施する健康増進事業に関する助言指導をおこなった。

H26	備前市、総社市、美作市栄養改善協議会
H27	備前市、総社市、美作市、浅口市栄養改善協議会
H28	岡山市栄養改善協議会、備前市、総社市
H29	岡山県勝英保健所、備前市、総社市

・岡山県との連携

保健福祉行政：保育所での栄養管理や食育推進に関する研修会で講師を務めた。

食の安心安全推進委員会委員として、食の安心と地産地消の推進に関する業務に携わった。

栄養教諭免許更新講習会の実施（主催岡山県立大学）
H29 岡山県栄養教諭・学校栄養職員研修会
H29 岡山県乳児栄養管理者研修会講師
H29　第 2 次健康おかやま 21 推進会議委員

教育行政：教職課程担当教員を中心に栄養教諭免許更新講習を主宰し、栄養教諭のリカレント教育の機会を提供するとともに講師を務めた。

C．保健福祉学科

（1）教育状況

複雑化・高度化された社会において、人々が抱える生活問題に十分に対応するためには、保健と福祉の両面の政策・サービスが融合された、新しい制度・サービスの構築が必須である。このような時代背景のもと、保健福祉学科は、日本で初めて保健福祉学の名称を用いた学科として平成 5 年 4 月に開学した。伝統的な社会福祉学に加え、保健学（健康科学）、心理学、障害科学分野の教員も加わり、新しい保健福祉学の創造と発展、現代的ニーズにマッチした知識と技術を有する社会福祉士の育成に力を注いできた。以来、多数の優秀な人材を福祉分野に輩出しており、彼らの中には現在では、それぞれの職場や地域で管理職・リーダーとして活躍している者も少なくない。また、平成 9 年度からは大学院修士課程を、平成 15 年度からは博士課程を設置し、高度専門職や教育・研究者を社会に送り出している。施設長、職場の管理職・リーダー、団体代表、大学教員などとして活躍している卒業生の中には、全国レベルで活動している者や、帰国後母国で保健福祉学の教育・実践に携わっている者も多い。さらに、平成 25 年度からは、保健福祉学科は「社会福祉学専攻」「子ども学専攻」の 2 専攻に分かれ、それぞれの教育理念に基づき、社会福祉士と介護福祉士、幼稚園教諭と保育士の養成を柱として、少人数制教育による本格的な専門職育成および大学院における高度専門職・研究者育成に取り組んでいる。

社会福祉学専攻の中に設定されている介護福祉士養成教育では、平成 5 年に岡山県立大学短期大学部で養成教育が始まり、13 期生までに約 650 名の介護福祉士を養成してきた。卒業生の中には、大学の教員や施設管理者等、介護福祉の現場でリーダーとして活躍している者が多い。平成 19 年には、短期大学部を発展的に改組し、保健福祉学部保健福祉学科に介護福祉コースを設置し、4 年制教育を開始している。公立 4 年制大学で介護福祉士を養成しているのは、全国でも 5 校のみである。今後深刻化する高齢社会の様々なニーズに対応するため、専攻では「ケアチームリーダー」「ケアマネジメント力」「介護福祉の専門性の向上」「介護福祉士としてのリーダー」等の人材養成に向けたカリキュラムを構築している。講義・演習では、基本的なケア技術の習得に加え、ケア技術の根拠となる原理原則を演習のなかで実験的に検証し、研究に発展させている。介護実習においては、eラーニングを導入し、実習巡回時の対面指導と遠隔指導を組み合わせ、さらに積極的に学習効果を上げる指導体制を整えている。

子ども学専攻は岡山県における保育士養成事業の伝統を受け継ぐものである。日本では戦後間もない昭和 23 年に児童福祉法が施行され、児童の健全な育成を担う施設としての保育所等の児童福祉施設や、保育に従事する専門職としての保育士（当時は保母）資格の法的基盤が整備された。岡山県における保育士養成事業は、他県の 11 校とともに全国で最も早く、岡山県立保育専門学園において昭和 25 年から開始されている。保育士養成課程が岡山県立短期大学に移行された昭和 43 年からは、幼児の健全育成に携わるもう 1 つの柱である幼稚園教諭の養成課程を設置して、岡山県立大学短期大学部での教育を経て現在に至っている。卒業生の多くは幼稚園・保育園の職員として就職する。その中には、現在では園長などの指導的立場で活躍している者も多い。大学・専門学校で教員研究に従事している者もいる。行政機関で児童育成や子育て支援に関わり、教育委員会の仕事をして

いる卒業生もいる。そして、平成 19 年からは保健福祉学科の中で保育者育成を行っており、児童養護施設や障害児施設、子育て支援センターに勤務する者も増えている。今後は、未就学児に教育と保育を一体的に提供する認定こども園など、卒業生の活躍の場はますます広がっていくことが期待されている。このような本学科における高い教育力は、実績としても高い就職・進学率、社会福祉士国家試験合格率となって現れている。

（2）就職・進学状況

保健福祉学科の就職率は、直近 3 年間（平成 28-30 年）ではほぼ 100%である。平成 30 年度社会福祉学専攻の場合、①公務員 14 名、②医療ソーシャルワーカー5 名、③社会福祉協議会 3 名、社会福祉施設 14 名、④大学事務員 1 名、⑤企業 5 名、⑥大学院進学 1 名、合計 43 名である。

子ども学専攻の場合、①公務員 1 名、②公務員(幼稚園・保育所・子ども園関連)9 名、③公務員(非正規)2 名、④社会福祉法人(保育所)2 名、⑤社会福祉法人(施設)1 名、⑥企業 4 名、⑦大学院進学 1 名、合計 20 名である。

就職活動へのサポートとしては、①本学就職資料室及び就職相談（カウンセラー）の利用に関する情報提供及び本学就職ガイダンス開催の案内、②本学求人 NAVI システム利用に関する指導、③学科就職担当教員による個別就職相談対応及び指導、④医療・福祉事業所合同就職説明会の開催、⑤3 年次生就職ガイダンス（4 年生就職体験談）の実施、⑥就職掲示板への求人票の掲示やメール等による求人情報の提供など積極的に実施している。

（3）その他

・社会福祉士国家試験合格状況

社会福祉士の国家試験において、本学科はこれまで全国的にも高い合格率を示している（右表）。学科では、国家試験合格に向けて模擬試験の実施、学生による自主的な学習会のサポート等を行うなど、国家資格取得に向けた学生の意欲向上に努めている。

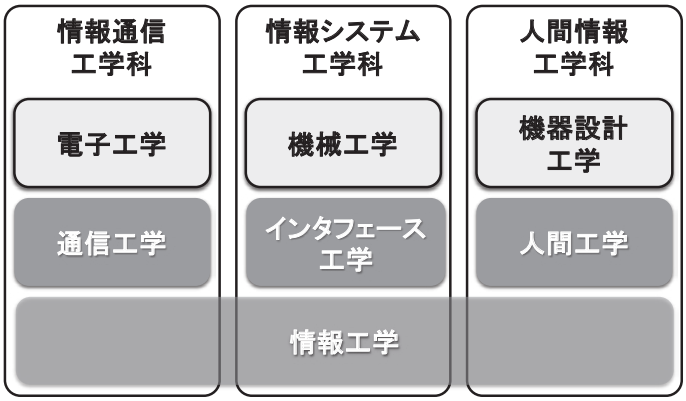
	合格率（%）	全国福祉系大学内順位（10 人以上受験校）	全体合格率（%）
平成 25 年度	84.5	10/216	27.5
平成 26 年度	76.8	8/219	27.0
平成 27 年度	82.8	10/215	26.2
平成 28 年度	71.8	22/212	25.8
平成 29 年度	79.5	13/214	30.2

表　過去 5 年間の社会福祉士合格率

※合格率は新卒、全国福祉系大学内順位は新卒と既卒を合わせたものである。

2．5－2　情報工学部・大学院情報系工学研究科

情報工学部では、情報技術を活用して、人間および自然との調和を図りながら高度情報化社会の持続的発展に貢献できる技術者の育成を目指し、3 つの学科を設置している。すなわち、3 学科に共通する基盤技術としての情報工学に加え、各学科の関連工学分野の知識と、それらを応用できる能力を育成することで、将来を見据えた技術者人材を輩出しており、平成 29 年度末までに 2,662 名の卒業生を世に送り出している。



3 学科の工学分野

大学院情報系工学研究科では、情報工学部における学士課程の教育目標の延長線上にその教育目標を置き、情報技術を活用して、人間及び自然との調

和を図りながら高度情報化社会の持続的発展に大いに貢献できるグローバル人材の育成を目指している。本研究科には博士前期課程(2 年)および、それに続く博士後期課程(3 年)を設置しており、平成 29 年度末までに 954 名に対して修士(工学)の学位を、63 名に対して博士(工学)の学位を授与している。

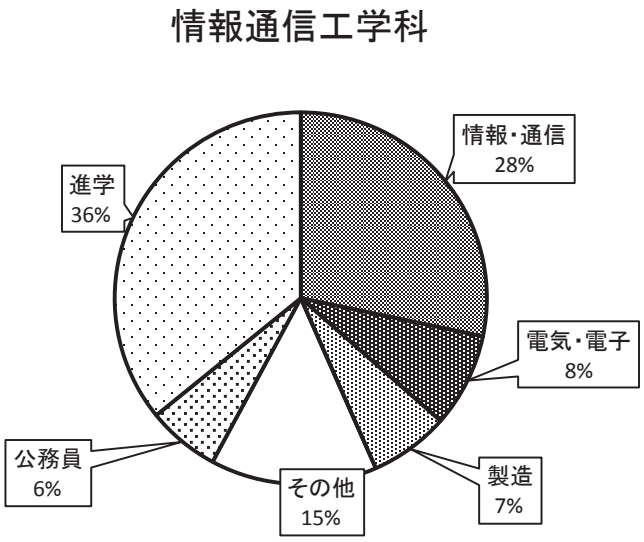
A．情報通信工学科

（1）教育状況

情報通信工学科は、日々進歩し続ける情報通信技術(ICT)を支えている情報工学、通信工学、電子工学の 3 つの学問領域を共通の基盤として、各種情報システムの知能化等に必要となるソフトウェア技術及びシステムの超高速化等に欠かせないハードウェア技術を有し、情報通信技術(ICT)の利用者視点を理解するとともに、グローバルな視野に立って社会に貢献できる人材の育成を目指している。平成 30 年 5 月 1 日現在の在学者数は 248 名である。

（2）就職・進学状況

平成29年度には、57名が卒業し、その内、進学者は18名、就職者は37名であり、就職希望者に対する就職率は94.6%である。岡山県内への就職者は 18 名(就職者の約 49%)である。就職先業種は、下図(平成 27～29 年度の実績)に示すとおり、情報通信工学科の育成方針に沿った情報・通信業および電気・電子関係が中心である。



情報通信工学科の就職・進路内訳

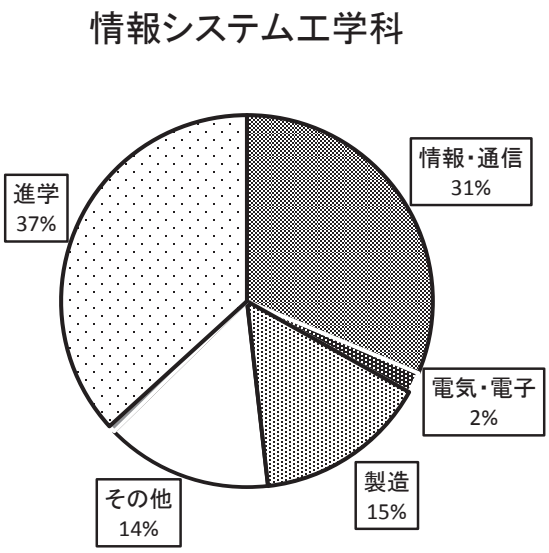
B．情報システム工学科

（1）教育状況

情報システム工学科は、コンピュータの発展に貢献できる情報工学、力学に基礎を置くものづくりのための機械工学、人間と機械やコンピュータを結び付けるインタフェース工学などの学問を身に付け、領域横断型のエンジニアとしてのセンスを持って、新たな工学的価値の創出に積極的に参加できる人材の育成を目指している。平成 30 年 5 月 1 日現在の在学者数は 226 名である。

（2）就職・進学状況

平成29年度には、49名が卒業し、その内、進学者は18名、就職者は29名であり、就職希望者に対する就職率は93.5%である。岡山県内への就職者は 15 名(就職者の約 52%)である。就職先業種は、下図 (平成 27～29 年度の実績)に示すとおり、情報システム工学科の育成方針に沿った情報・通信業および電気・電子、機械、製造業が中心である。



情報システム工学科の就職・進路内訳

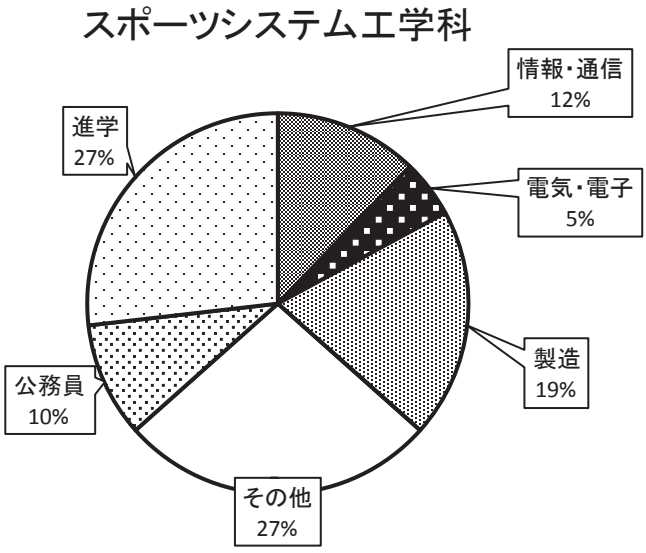
C．人間情報工学科（スポーツシステム工学科）

（1）教育状況

人間情報工学科の教育研究のキーワードは「人間中心の設計思想」である。身体とその「うごき」を扱う人間系のサイエンス並びに情報・コミュニケーションと密接に関連する情報系のエンジニアリングを融合的に学び、使う人の様々な特性やニーズの視点に立った「もの」や「サービス」の設計能力を身に付けた人材の育成を目指している。平成 30 年 5 月 1 日現在の在学者数は 191 名である。

（2）就職・進学状況

平成 29 年度には、37 名が卒業し、その内、進学者は 8 名、就職者は 29 名であり、就職希望者に対する就職率は 100%である。岡山県内への就職者は 16 名（就職者の約 55%）である。就職先業種は、次ページ図（平成 27～29 年度の実績）に示すとおり、半数は、スポーツシステム工学科の育成方針に沿った情報・通信業および製造業であるが、残りの半数は、その特性に応じて、公務員、サービス業となっている。しかし、教育プログラムを工学にシフトした効果が徐々には現れている。



スポーツシステム工学科の就職・進路内訳

D．大学院情報系工学研究科

（1）教育状況

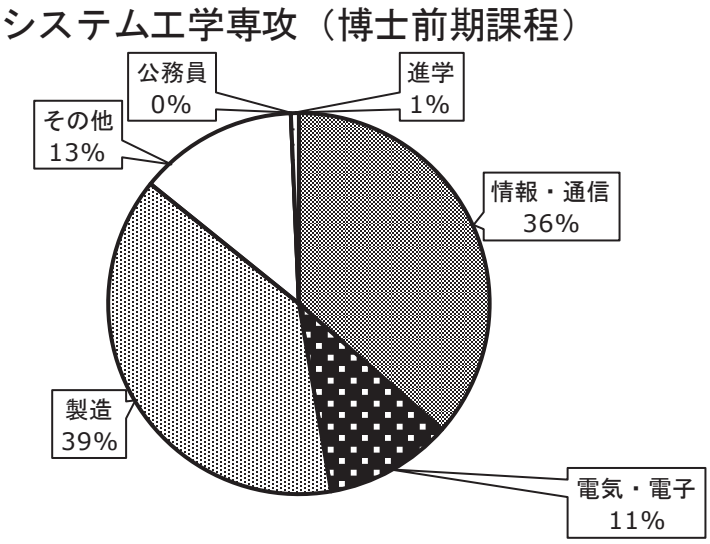
システム工学専攻（博士前期課程）では、研究者あるいは技術者の立場から、高度情報化社会の中枢となって産業社会の発展を支えていく人材、幅広い技術的基盤を基に「実システム」の創造的な設計ができる人材、豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた人材、環境変化や産業構造の変化に柔軟に適応できる判断力とコミュニケーション能力を持つグローバル人材の育成を目指している。平成 30 年 5 月 1 日現在の在学者数は 88 名である。

システム工学専攻（博士後期課程）では、今後ますます多様化、複雑化する社会からの要請に応えるべく、公的研究機関のみならず民間企業において、情報系の学術分野を現実課題の解決に適応できる研究者及び高度専門技術者を養成することを目標に、専門領域の深化と統合を通じて、新たな問題を発掘し解決する能力を持つグローバル人材の育成を目指している。平成 30 年 5 月 1 日現在の在学者数は 9 名であり、その大部分は社会人である。

（2）就職・進学状況

システム工学専攻（博士後期課程）では在学生の大部分が社会人のため、就職・進学状況は省略する。

システム工学専攻（博士前期課程）では、平成 29 年度末に 48 名が修了し、その内の 47 名が就職した。就職希望者に対する就職率は 100%である。岡山県内への就職者は 18 名（就職者の 38%）である。就職先業種は、次ページ図（平成 27～29 年度の実績）に示すとおり、システム工学専攻（博士前期課程）の育成方針に沿った情報・通信業および製造業が中心である。



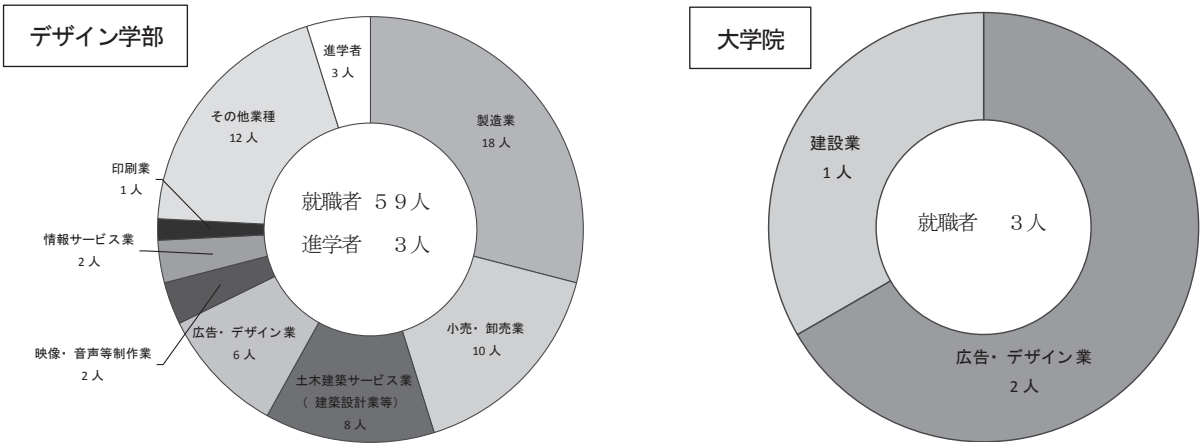
システム工学専攻（博士前期課程）の就職・進路内訳

2．5－3　デザイン学部・大学院デザイン学研究科

（1）教育状況

デザイン学部では、本学の理念に沿う実学の体現者として、豊かな教養と深い専門性を備え、新しい時代を切り拓く人材の育成を通じて、グローバルな視点で地域や社会の学術文化の進展及び産業の振興に貢献できる人材の育成を目指している。大学院デザイン学研究科は、グローバルな視野と感性を持ち、社会を的確にとらえ時代の変化を洞察することで、将来予想される問題を優れたデザインの創出により解決し、豊かで新しい便利な生活と文化に寄与できる人材の育成を目指している。

（2）就職・進学状況



平成 29 年度には、76 名が学部を卒業、5 名が大学院（修士課程）を修了した。就職率は 88.1%（大学院 75.0%）で、このうち岡山県内への就職者は学部生 16 名（就職者の約 27%）、大学院修了生 0 名となっている。大学院への進学は景気の回復基調とともに減少傾向である。卒業生は、岡山県内のみならず、日本全国各地での活躍が期待されているが、近年、一般企業からの求人も多く、就職先業種は、一般企業の広報部門からデザインの専門職まで多岐にわたっている。中には、起業や作家活動をする卒業生もいる。今後とも、岡山県内だけでなく、日本全国あるいは世界に向けた信頼されるグローバルな活躍ができるデザイナーの育成に取り組んでいく。

A．デザイン工学科・デザイン工学専攻

（1）教育状況

デザイン工学科では、共通教育に加えて、製品・情報デザイン領域あるいは建築・都市 デザイン領域での専門教育により、これらの関係性を知識・技能の修得を通じて学ぶことで、地域社会・国際社会の持続的発展のために、その能力を長きにわたって発揮できる、 デザイナー・建築家等の実務担当者の育成を目指している。

デザイン工学専攻は、地域社会と産業界の要請に応えられる、高度な専門的知識・技能・技術をベースにした総合的な思考力を有する高度専門職業人として多様な価値創造 が可能なデザイナー及び研究者の育成を目指している。

また、デザイン工学科では、各デザイン領域のインターンシップ授業において、デザイン関連企業や地域（自治体）関連のデザインプロジェクトに取り組み、実社会におけるデザインワークの体験的な理解を深めることや初年次学生対象の「フレシュマンセミナー」において、外部講師として、OB・OGデザイナーだけでなく、インターンシップ受入先から講師および社会で活躍するデザイン専門家を招聘した特別講義等を行っている。

（2）就職・進学状況

平成 29 年度には、35 名が学部を卒業、1 名が大学院（修士課程）を修了した。就職率は 90.0%（大学院 100%）で、このうち岡山県内への就職者は学部生 5 名（就職者の約 19%）、大学院修了生 0 名となっている。

主な就職先は、都市部を中心に、製造業、土木建築サービス業のほか、印刷業、広告・デザイン業まで幅広い分野への人材輩出を行っているが、近年の傾向として、県内の中堅企業への就職も増加している。

B．造形デザイン学科・造形デザイン学専攻

（1）教育状況

造形デザイン学科では、共通教育に加えて、ビジュアルデザイン領域あるいは造形デザイン領域における専門教育により、これらの関係性を知識・技能の修得を通じて学ぶことで、地域社会・国際社会の持続的発展のために、その能力を長きにわたって発揮できる、 デザイナー・造形スペシャリスト等の実務担当者の育成を目指している。

造形デザイン学専攻は、造形デザイン学の理論と技術を修得する教育研究を行い新たな造形デザイン構築において諸問題を総合的な視点から解決し、社会に貢献することのできる高度専門職業人としてのデザイナー及び研究者を育成することを目指している。

また、造形デザイン学科では、地域との協働プロジェクトを授業課題に積極的に導入し、インターンシップ受入れ先を授業として開拓し学生に体験させるなど、専門的デザインスキルの向上やキャリアプランを強く意識させる場を多様なかたちで設け、将来を担うデザイナーとしての意識と能力向上を目指している。

（2）就職・進学状況

平成29年度には、41名が学部を卒業、4名が大学院（修士課程）を修了した。就職率は学部で86.5%（大学院66.7%）で、このうち岡山県内への就職者は学部生11名（就職者の約34%）、大学院修了生0名となっている。

主な就職先は、都市部を中心に、広告・デザイン業、印刷業、映像・音声等制作業のほか、製造業、小売業まで幅広い分野への人材輩出を行っており、近年の傾向として、製造業、小売業への就職が増加している。

２．６　その他の貢献

２．６－１　各種委員等への派遣（行政関係以外）

本学における平成 30 年度の各種委員の応嘱の状況は、次のとおりである。

区　分	教育機関	協議会・ 各種団体等	計
保健福祉学部	4	69	73
情報工学部	6	26	32
デザイン学部	1	18	19
合　計	11	113	124

本学における平成 30 年度の講師派遣の状況は、次のとおりである。

区　分	教育機関	協議会・ 各種団体等	計
保健福祉学部	20	73	93
情報工学部	2	12	14
デザイン学部	1	5	6
合　計	23	90	113

本学における平成 30 年度の非常勤医師、非常勤講師及び役員の派遣の状況は、次のとおりである。

区　分	非常勤医師	非常勤講師	役　員	計
保健福祉学部	7	29	2	38
情報工学部	0	18	3	21
デザイン学部	0	9	0	9
合　計	7	56	5	68

２．６－２　職員表彰

学外表彰

保健福祉学部	教授	高戸　仁郎	Best Poster Award 15TH International Conference on Mobility and Transport for Elderly and Disabled Persons (TRANSED2018)
情報工学部	教授	金川　明弘	The 14th International Conference on Industrial Management Excellent Paper Award
情報工学部	准教授	滝本　裕則	The 14th International Conference on Industrial Management Excellent Paper Award
情報工学部	教授	渡辺　富夫	日本機械学会設計工学・システム部門賞（功績賞）
情報工学部	助教	芝　世弐	第 28 回世界コンピュータ将棋選手権優勝 文部科学大臣賞受賞
情報工学部	准教授	山内　仁	The 14th International Conference on Industrial Management Excellent Paper Award
大学教育開発センター	特任教授	田内 雅規	Best Poster Award 15TH International Conference on Mobility and Transport for Elderly and Disabled Persons (TRANSED2018)

※職名は受賞当時のものです。

３．　県立大学の各組織での活動

３．１　地域共同研究機構

３．２　産学官連携推進センター

３．３　地域連携推進センター

３．１　地域共同研究機構

３．１－１　体制

地域共同研究機構は、平成 17 年 10 月、県立大学の社会貢献体制を見直した結果、地域貢献活動を全学横断的に強力かつ効率的に推進するために発足した。発足以来、本学の教育研究活動を活性化し、地域社会や行政機関との連携を深め、地域産業の振興や福祉の充実を図るために様々な活動を行ってきた。また、地域連携推進センターを中心に、文部科学省の COC＋事業に併せて、本学と自治体との関係の強化に取り組んでいる。平成 30 年度地域共同研究機構の体制は以下のとおりである。

所　属		役 職	氏 名	職 名	学 部 名
地域共同研究機構		機構長	佐 藤　洋 一 郎	教 授	情報工学部
		副機構長	伊 藤　信 之	教 授	情報工学部
			佐 藤　和 順	教 授	保健福祉学部
			村 木　克 爾	教 授	デザイン学部
	産学官連携推進センター	センター長	伊 藤　信 之	教 授	情報工学部
		副センター長	山 本　登 志 子	教 授	保健福祉学部
			村 木　克 爾	教 授	デザイン学部
		幹 事	實 金　栄	准教授	保健福祉学部
			村 社　卓	教 授	保健福祉学部
			國 島　丈 生	准教授	情報工学部
			市 川　正 美	准教授	情報工学部
			春 木　直 人	教 授	情報工学部
			中 西　俊 介	准教授	デザイン学部
	地域連携推進センター	センター長	佐 藤　和 順	教 授	保健福祉学部
		副センター長	久 保 田　恵	教 授	保健福祉学部
			石 井　裕	准教授	情報工学部
			三 原　鉄 平	准教授	デザイン学部
		幹 事	佐 々 木　純 子	准教授	保健福祉学部
			名 越　恵 美	准教授	保健福祉学部
			原 野　か お り	准教授	保健福祉学部
			柏　ま り	准教授	保健福祉学部
			若 林　秀 昭	准教授	情報工学部
			綾 部　誠 也	准教授	情報工学部
			北 山　由 紀 雄	准教授	デザイン学部

３．１－２　重点領域研究

「人間尊重と福祉の増進」という本学建学の理念、「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」という教育研究の理念に基づいて、平成 19 年度から、研究と社会貢献活動のレベルアップを目指した異分野複数教員の連携による「領域・研究プロジェクト」活動を推進してきた。平成 29 年度から「重点領域研究」と名称を改め本学として設定した「健康・福祉」、「地域・環境」、「モノ・コトづくり」の 3 重点領域を設定し、平成 30 年度は次の 7 研究を推進している。

平成 30 年度「重点領域研究」

領　域	■プロジェクト名、「研究課題」 メンバー（○：代表者）	内　　容
福祉・健康	■加齢による生理機能低下予防を目指した機能性食品の開発 「加齢に伴う骨格筋の萎縮および生活習慣病の発症を予防する機能性食品に関する研究」 ○山下広美 川上貴代、入江康至、綾部誠也、丸田ひとみ	加齢に伴う骨格筋系の老化、代謝低下ならびに生活習慣病発症の予防を目的とした機能性食品の開発を目的として、以下の研究を行う。 1 短鎖脂肪酸の一つである酢酸の骨格筋萎縮予防の作用機序の解明 2 骨格筋の老化を遅延させ、代謝改善に作用する食品機能成分の解析 3 機能性成分を含有する食品形態の検討
福祉・健康	■米粉の幅広い応用に関する研究 「米粉を利用した加工品の基礎的および応用的研究」 ○田中晃一 伊東秀之、山下広美、久保田恵、山本登志子、中島伸佳、新田陽子、中西俊介、田淵真愉美、井上里加子、我如古菜月	米の消費拡大を狙った米粉食推進を行うことを目的として以下の研究を行う。 1 米粉のさらなる応用研究 2 機能性米粉の基礎的研究 3 米粉を利用したメニュー開発 4 県内特産物との組合せによる加工品の開発
モノ・コトづくり	■ディープラーニングラボ 「岡山県産業振興のためのディープラーニングの研究」 ○岩橋直人 菊井玄一郎、但馬康宏、杉村藍、アンソニー・ブルネリ、山﨑大河	ディープラーニングに関する基本的な研究・開発環境、先端的な技術の発展により、産業への応用に関するコンサルティング、支援、提案を可能とし、岡山県の産業振興に貢献する。 1 ディープラーニングの基本的な研究・開発環境の整備 2 ディープラーニングの最先端技術の基礎研究 3 ディープラーニングの産業応用についての検討
モノ・コトづくり	■ディジタルエンジニアリング 「ものづくりを支援する数値解析法に関する研究」 ○尾崎公一 末岡浩治、佐藤洋一郎、福田忠生、 山内仁、瀬島吉裕	複数分野の解析技術を融合して高いレベルの実学を創造するとともに、地域企業の解析ニーズに応えることを目的とする。さらには、新たな数値解析技術を開発し、実用化することも目指す。 本年度は、次の 4 つのサブテーマに取組む。 1　材料試験分野における画像計測への適用 2　演算時間性能向上に向けた改良 3　超解像度用画像エンジンへの適用 4　3 次元姿勢変化観測における変形対応手法の検討

領　域	■プロジェクト名、「研究課題」 メンバー（○：代表者）	内　　容
モノ・コトづくり	■身体的コミュニケーション技術 「身体的引き込み技術を応用したオラリティコミュニケーションシステムの研究開発」 ○渡辺富夫 佐藤洋一郎、石井裕、瀬島吉裕、西田麻希子、高林範子、小川浩基（インタロボット/コアテック）、Irini Giannopulu（Bond 大学）	うなずきや身振りなどの身体的引き込みをロボットや CG キャラクタのメディアに導入することで一体感が実感できる身体的コミュニケーション技術と、メディアの場にはたらきかけることで場を盛り上げる身体性メディア場の生成・制御技術を開発展開・統合・実用化して、生活基盤システム・環境としての本格的な感情移入インタフェースを構築する。
モノ・コトづくり 福祉・健康	■QOL の向上に向けた産学官連携 「産学連携による生活の質の向上に資する生活支援機器の効果検証」 ○綾部誠也 尾崎公一、佐藤洋一郎、齋藤誠二、大山剛史、久保田恵、井上里加子、	企業と自治体のブリッジ役になることにより、県内企業の活性化と住民の健康づくりの両者を達成し、県内の活性化につなげることを目的とする。具体的には、企業連携により身体機能の向上を意図した運動支援機器の改良と歩行支援のための機器・衣服の開発・改善、自治体連携により開発した支援策を応用した QOL 向上に対する効果検証を行う。
地域・環境 モノ・コトづくり	■MoDD lab. 「自社製品の開発を目指すものつくり企業を支援する実践的共同研究」 ○村木克爾 山下明美、髙戸仁郎、山本登志子、アンソニー・ブルネリ、三原鉄平、市川正美、上田篤嗣	MoDD ネットに参加・賛同するものつくり企業を中心に、提案型共同研究をベースとするプログラムの実施を試みる。また、異業種間協調型の多角的共同研究を実施することで、新たなローカルブランドの創出・定着を図る。 これらの成果は講演会、セミナーなどの各種メディアを通じて本学での事例を外部へと積極的に発信する。

３．１－３　ＯＰＵフォーラム 2018

教員の研究紹介や地域の企業・団体・市民との交流促進を目的として、毎年開学記念日頃に OPU フォーラムを開催している。平成 30 年度は「オカヤマケンの想・像・力～知的好奇心、ここにあり☑。～」をテーマとし、本学体育館、講堂において、研究ポスター展示、特別講演、交流会などが行われ、約 850 名の来場があった。また、特別講演は、PR プロデューサー　殿村美樹氏が「地方から国民的ブームをつくる方法」をテーマに講演を行った。

○開催概要

日　時　　平成 30 年 5 月 29 日（火）　13:00～17:00

テーマ　　オカヤマケンの想・像・力　～知的好奇心、ここにあり☑。～

プログラム

■特別講演会 13:10～14:10（講堂）

演　題：「地方から国民的ブームをつくる方法」　―人がみずから動く仕組みをつくる―

講演者：株式会社 TM オフィス代表取締役　PR プロデューサー　殿村美樹　氏

■研究展示会　14:20～17:00（体育館）

展示数 178 件（教員研究 141 件,企業・団体 29 件,センター活動 8 件）

■地域の食　11:00～売り切れまで（野外テント）

OPU フォーラム 2018　展示テーマ一覧

学科	No	テーマ名	担当者名
看護学科	1	擦式手指消毒薬を用いた手指衛生における看護学生の消毒薬使用量の検討	佐藤美恵、髙林範子、佐々木新介、山口三重子
	2	サーモグラフィを活用したバスキュラーアクセス（シャント）の新規観察方法の開発	佐々木新介、中村友樹
	3	より安全な手術看護を目指して～体位固定具が体圧と血圧に及ぼす影響～	高橋　徹、徳山葉月
	4	看護ケアが身体知覚と自律神経に及ぼす影響	住吉和子、山口三重子、荻野哲也、佐藤美恵　他
	5	若年成人の骨密度と体組成との関連	荻野哲也
	6	身体性アバタを介した看護コミュニケーション教育支援システム	髙林範子、渡辺富夫、石井　裕
	7	RCAに基づいたインシデントレポートの分析と医療安全文化の変化	沖本克子、髙林範子、犬飼智子、網野裕子　他
	8	地域連携事業：ELNEC-J コアカリキュラム看護師養成プログラム	名越恵美、井上かおり、山形真由美、犬飼智子　他
	9	日本語版病気侵害尺度による外来化学療法を受けるがん患者の特徴	名越恵美、難波峰子、松本啓子
	10	治療中のがん患者へのケアに関する地域病院看護師の困難感とジレンマ	名越恵美、山形真由美、吉田雄太、津曲真弥　他
	11	高齢者看護における看護師の倫理的悩みに関するプロセスモデルの検討	實金　栄、萬木早苗
	12	認知症外来における認知症告知後の支援に関する研究	井上かおり、實金　栄
	13	地域との協働による認知症カフェの実践	二宮一枝、笹尾友香、中田弥沙、中村友樹　他
	14	医療処置を担う主介護者が抱いている感情	山形真由美、名越恵美
	15	脳卒中急性期患者の家族によるハイリスク治療の代理意思決定への支援	犬飼智子
	16	精神保健教育を子どもたちにどのように教えるか―豪州で行われている学校精神保健教育―	井上幸子
	17	注意欠如・多動性障害特性をもつ母親の育児困難感とサポートニーズ	網野裕子、沖本克子
	18	産後うつの要因の検討―産後１か月の母親の睡眠に焦点を当てて	池田理恵、岡田優希、三嶋浩子
	19	女性のライフサイクルにおける健康支援を目的とした思春期の月経教育教材の評価	岡﨑愉加
	20	EAP から ESP へ ―内容を重視した外国語教育―	高橋幸子、池田理恵、山口三重子、Jane O'Halloran
栄養学科	1	サルコペニア患者の腸内細菌叢についての検討	入江康至、森　博信、井上里加子、小川亜紀　他
	2	米麹甘酒摂取による腸内環境への影響	入江康至、井上里加子、小川亜紀、山下広美　他
	3	ヒトにおける羅漢果抽出物による食後血糖値上昇抑制作用	井上里加子、小川亜紀、平松智子、入江康至　他
	4	遅い夕食摂取は分食することで血糖コントロール改善の可能性がある	平松智子、中尾有希、入江康至、住吉和子
	5	高齢社会に対応した健康寿命の延伸のための栄養学的支援の検討	久保田恵、井上里加子、平松智子
	6	在宅での栄養食事支援システムに関する研究	川上貴代、平松智子、田淵真愉美、多田賢代
	7	乳汁中脂質メディエーターの分析ならびに乳腺炎との関係	山本登志子、川上祐生、高橋吉孝、岡﨑愉加　他
	8	ロイコトリエン合成系を標的とした食品の抗アレルギー作用の解明	川上祐生、山本登志子、伊東秀之、高橋吉孝　他
	9	慢性炎症性疾患の新規治療法開発に向けた基礎研究	高橋吉孝、川上祐生、山本登志子、神崎圭太　他

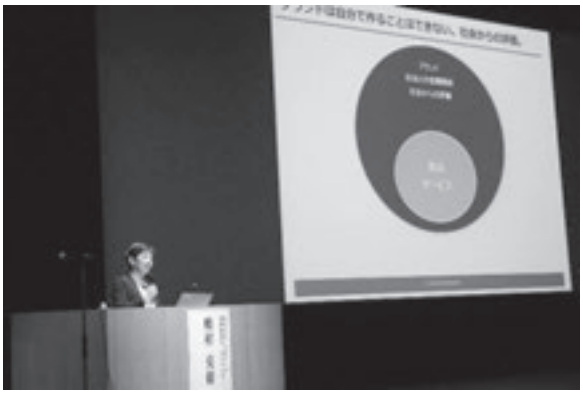
学科	No	テーマ名	担当者名
栄養学科	10	瀬戸内海沿岸で養殖されたマガキ含有成分の解析及び機能性に関する研究	山下広美、寺尾美貴、礒野千晶、丸田ひとみ 他
	11	ビフィズス菌発酵乳の肥満抑制効果に関する研究	山下広美、天満晴菜、丸田ひとみ、馬 芸 他
	12	ヒシの抗糖化性ポリフェノール成分	鈴木勝一、加藤奈々、我如古菜月、伊東秀之 他
	13	抗糖化作用を有するタカキビのポリフェノール成分	伊東秀之、渡辺紗希、我如古菜月、三尾健斗 他
	14	米粉を利用した加工品の基礎的および応用的研究	伊東秀之、山本登志子、久保田恵、新田陽子 他
	15	米粉パンの発酵に適した野生酵母の探索	田中晃一、桶谷芽衣、日名口七海
保健福祉学科	1	視覚障害者が道路横断開始時に方向定位できる触知標示の設置形態の検討	髙戸仁郎、中村孝文、田内雅規
	2	医療ソーシャルワーカーを対象としたアセスメント実践に関する研究	竹本与志人、倉本亜優未、杉山京、仲井達哉
	3	児童生徒の抑うつ状態と問題行動―追跡調査（最終年）による検証―	周防美智子
	4	認知症による徘徊によって行方不明になった者の特徴	井上祐介、鄭丞媛 他
	5	高齢者のストレス耐性・対処力の認知/心理基盤の検討	澤田陽一
	6	初期アルツハイマー病における比喩理解の障害	中村 光、京林由季子、藤本憲正
	7	岡山県地域子育て支援拠点事業における活動プログラムの構築	中野菜穂子、周防美智子
	8	就学前保育の実践課題に応えるカンファレンスによる地域貢献研究	池田隆英、楠本恭之
	9	地域に向けて現代舞踊の魅力を発信する公演とワークショップの一体的展開	新山順子、岡本悦子
	10	「積極的なかかわり」を視点とした保育の質の指標化及び変容に関する研究	佐藤和順、柏 まり
	11	子どもの主体的・対話的学びを意図した実践「まっくらワールド」の取り組み	京林由季子、柏 まり、樟本千里、髙戸仁郎 他
	12	保健福祉学部の「チームガバナビリティ演習」－改良したプログラムと課題－	中村 光、竹本与志人、桐野匡史、澤田陽一 他
	13	後期高齢者における排尿障害と遂行機能との関係	原野かおり、澤田陽一
	14	4 年制養成課程を卒業した介護福祉士が実践する認知症ケアの現状	佐藤ゆかり、松田実樹、趙敏廷、原野かおり 他
	15	家族介護者の「介護」と「仕事」の役割間葛藤の実態と特徴	桐野匡史
	16	英国介護政策におけるチャリティの第三者アドヴォカシーのコミッショニング体制	岩満賢次
	17	岡山孤児院の創設者、石井十次と冨田象吉の関係性	井村圭壮
	18	アメリカ、イギリス、フランス、韓国における子どもの貧困政策に関する研究	近藤理恵
情報通信工学科	1	ディープラーニングを用いた米式手話認識法の確立	金川明弘、滝本裕則、山内 仁、スルファヤンティ
	2	深層学習に基づく目立ちの可視化技術	滝本裕則、勝俣翔吾、金川明弘
	3	深層学習を用いた写真を対象とした審美性推定に関する研究	滝本裕則、山内 仁、大森史耶、岩崎貴大 他
	4	人間との協調を学ぶ人工知能	岩橋直人
	5	データ工学の観点からのブロックチェーン技術の学術的検証	國島丈生
	6	無線マルチホップ通信における協調中継方式の提案とその性能評価	榊原勝己、髙林健人、井上隼貴、大室祐斗 他

学科	No	テーマ名	担当者名
情報通信工学科	7	無線ボディエリアネットワークにおける不正端末の検出とその対策に関する研究	高林健人、大室祐斗
	8	ジャイレータを装荷した周期構造による非可逆右手／左手系複合伝送線路の検討	大久保賢祐、石原雅之、小松原拓矢
	9	ポスト壁導波路を用いた 5.8GHz 帯マイクロ波アプリケータの設計	岸原充佳、西江 裕、漆原弘之
	10	高速かつ高信頼な通信システムの実現に関する基礎研究	稲井 寛、若林秀昭、荒井 剛、泉宮彰人 他
	11	広帯域マルチキャリア伝送の安定化と可視光通信への応用に関する研究	荒井 剛、若林秀昭、稲井 寛
	12	3D-Striped Inductor を用いたミリ波発振器の低位相雑音化	伊藤信之、坂本裕太
	13	高周波 ALL Digital VCO に関する研究	伊藤信之、八木希知
	14	FPGA を用いた Neural Network のハードウェア実装に関する研究	森下賢幸、平松照清、石田泰明、西森祐介
	15	ZYNQ プロセッサにおけるハードウエアライブラリに関する研究	小椋清孝
	16	積層型人工誘電体の THz 透過特性の測定	徳田安紀、坂口浩一郎、加藤康作、中嶋誠
	17	ガウシアンビーム光学を用いた共振器モード近似解の精度に関する研究	福嶋丈浩
	18	円筒型音響クローキングの精度と共鳴モードの関係	坂口浩一郎、徳田安紀、堂前直人
	19	新しい材料計算“箱庭法”の開発と太陽電池用半導体への適用	末岡浩治
	20	英語スピーキング学習を支援する教授法の開発に向けた学習モデルの構築(その 2)	杉村 藍
情報システム工学科	1	「ロボットは東大に入れるか？」(続)―深層学習で入試問題を解く―	菊井玄一郎、磯崎秀樹
	2	電子化されたレシピ情報のマイニング	但馬康宏、久保田恵、井上里加子
	3	コンピュータ将棋ソフト shotgun の紹介	芝 世弐
	4	流体解析ソフト OpenFOAM の応用	芝 世弐
	5	岡山オープンソース技術研究会の紹介	芝 世弐、天嵜聡介、荒井 剛
	6	組込みシステムの高性能化・高信頼化に関する研究	有本和民、横川智教
	7	ものづくりを支援する数値解析法に関する研究	尾崎公一、末岡浩治、佐藤洋一郎、福田忠生 他
	8	予混合射出成形したマグネシウム合金の静的強度特性評価	福田忠生、木口佳祐 他
	9	地域の交通と再生可能エネルギー統合型スマートシステム	中川二彦、戸村喜樹、白髪直樹他
	10	非可換環の準分離拡大の特徴付け	小松弘明
	11	種々のバナッハ空間における幾何学的定数の研究	三谷健一
	12	汎用性と適応性を考慮した人間の運動制御機構の研究	山﨑大河、忻 欣、泉 晋作
	13	2 台のメトロノームの同期現象解析：実機実験による検証	泉 晋作、忻 欣、山﨑大河
	14	劣駆動ロボットの制御系の新たな設計と解析法	忻 欣、山﨑大河、泉 晋作
	15	三角結線変圧器の励磁突入電流波形に遺伝的アルゴリズムを用いた機器定数推定	徳永義孝
	16	小規模・短期開発型を想定した効率的プロジェクト管理のための支援技術開発	天嵜聡介
	17	アバタコミュニケーション場における身体的インタラクション設計	石井 裕
	18	身体的引き込み技術を応用したオラリティコミュニケーションシステムの研究開発	渡辺富夫、石井 裕、佐藤洋一郎、瀬島吉裕 他

学科	No	テーマ名	担当者名
人間情報工学科	1	そうじゃ健康応援プロジェクト：片山工業(株)・総社市との産学官連携事業	犬飼義秀、綾部誠也、齋藤誠二、大山剛史 他
	2	瞳孔反応を用いたセラピーロボットの開発	瀬島吉裕、佐藤洋一郎
	3	中脳橋被蓋交連ニューロンの化学的性質	柳原 衞
	4	定常状態観測に基づく異常検知システムのアルゴリズム改善および構築に関する研究	山内 仁、村山良治
	5	歩容が歩行中の足部形状変形に与える影響	齋藤誠二
	6	身体生理負担評価のための生体情報の処理アルゴリズムの開発	綾部誠也
	7	車両運転時の踏み違え事故抑制のための足運動にかかわる認知特性に関する研究	大山剛史
	8	効率的な熱エネルギー輸送技術実現に関する研究	春木直人
	9	熱と流れの相似性に着目した着衣素材の対流熱伝達特性把握の試み	島﨑康弘、山本哲郎
	10	圧縮性流体と非線形素材を用いた力学特性を制御なスマートセルに関する研究	大田慎一郎、中村優志、山本晃寛
	11	高齢者の歩行支援のための自律移動杖型ロボットの開発	井上貴浩
	12	ゴルフパッティング動作におけるクラブヘッドの三次元運動計測	穂苅真樹
デザイン工学科	1	パンチングメタル技術を活用した用途開発支援に関する研究Ⅲ	森下眞行、金丸敏彦、村木克爾、上田篤嗣 他
	2	パーソナルモビリティによる行動を促すインターフェースデザインの提案	森下眞行、小野英志、益岡 了、三原鉄平 他
	3	ウエットティッシュ用プラスチック容器のデザイン開発	三原鉄平
	4	地域材を活用した木育玩具の研究開発	林 秀紀、中原嘉之
	5	新コンセプトブックカバーの共同研究	林 秀紀
	6	陣屋町足守・湯浅邸 実測・改修提案	西川博美、真世士マウ、フェルナンド・C・ガメッツ 他
	7	シザーズ構造を用いた展開型立体グリッド骨組構造に関する基礎的研究	津田勢太、中原嘉之、河野純平
	8	赤瀬川原平《模型千円札》とその理論形成における主体性の問題	河合大介
	9	総合病院と小児専門病院における小児療養環境の違いに関する研究	畠 和宏
	10	本学・地域コミュニティクラスのための Moodle インターフェース改善	アンソニー・ブルネリ
	11	地域資源を活かした持続可能なコミュニティの実現に向けて	朴 貞淑
	12	地域活性化に資する産学共同研究の促進に関する調査研究	村木克爾、山下明美、アンソニー・ブルネリ、三原徹平 他
造形デザイン学科	1	竹久夢二の俳句研究の視点	柴田奈美
	2	地域医療における「ケア」を共有する広報デザイン	山下明美、十河浩史、與田睦子、向井久美香
	3	中小 FBF(家族経営型企業)におけるデザインマネジメントの活用と教育への応用	助川たかね
	4	共同研究「現代日本陶芸のデザインと技法」	久保田厚子、豊福 誠、作元朋子、栗原 慶 他
	5	実物の立体を素材とした抽象グラフィックス	野宮謙吾
	6	間伐材を使用した造形物のサイズによる見え方の差および新たな機能についての研究	南川茂樹
	7	プリンティング表現の教育・普及に関する研究	関﨑 哲
	8	空間におけるテキスタイル造形表現に関する研究	島田清徳
	9	ガラス乾板写真の高精細画像化とその活用	北山由紀雄

学科	No	テーマ名	担当者名
造形デザイン学科	10	地方におけるボトムアップ型 PR 戦略の研究	中西俊介
	11	エクアドル中南部における伝統的土器づくり	真世土マウ
	12	災害時の個別的な避難行動を検討するための要素の研究	齋藤美絵子
	13	総社市英語特区における幼・小接続のための授業研究と英語指導者支援	風早由佳
	14	タブレット端末用映像展示アプリの開発および鑑賞者に及ぼす効果について	山下万吉
	15	学外文化施設との連携によるキャリア形成への取り組み	作元朋子、難波久美子、島田清徳、久保田厚子 他
	16	タッチスクリーン式携帯電話のボタン輪郭がユーザーの操作行動するに与える影響	石 王美
	17	シルクスクリーンプリント技法を扱った演習科目の指導方法について	岡本汐加
教育力向上支援事業	1	情報工学部・デザイン学部合同による協働教育プログラムの実践	齋藤美絵子、山下万吉、菊井玄一郎, 但馬康宏
	2	キャリア形成支援のためのポートフォリオセミナー及び企画提案力向上を目的とした教育プログラムの実施	山下万吉、難波久美子、島田清徳、齋藤美絵子 他
	3	大学間連携によるキャリア教育プログラムの実践	野宮謙吾、森下眞行、三原鉄平、林 秀紀 他
	4	ワークショップを活用した学生のキャリア形成プログラム	島田清徳、難波久美子、真世土マウ、作元朋子 他
	5	デザインパテントコンテストを活用した実践型創造力創出教育プログラムの開発	森下眞行
	6	機械系科目の接続を考慮した学習教材の開発	瀬島吉裕、井上貴浩、福田 忠生
	7	実用的課題の実験科目への導入とメカトロ教育への実践	井上貴浩
	8	地域資源を活用したスポーツ授業の開発と効果検証	髙戸仁郎、綾部誠也、犬飼義秀
	9	リアリティショックを克服し就業継続できる力量を有した保育者養成のプログラム開発	佐藤和順、中村光、吉永早苗、中野菜穂子 他
地域協同演習(学生発表)	1	英語を使った夏祭りを企画し、成功させること(総社市:英 PLAY B グループ)	
	2	あつまれ～！！楽しい英語の夏祭り(総社市:英 PLAY Aグループ)	
	3	街道を歩く(総社市:商工観光課)	
	4	YO～MA～ブランディング(備前市:NPO 法人ふれあいサポートちゃていず)	
	5	木山寺での活動(真庭市:木山郷土保存会)	
	6	農業・漁業・海洋資源を生かした観光ルートの提案(笠岡市:大島まちづくり協議会・六島まちづくり協議会)	
企業・団体展示	展示	(株)英田エンジニアリング、井原精機(株)、インタロボット(株)、片山工業(株)、(社福)クムレ、倉敷木材(株)、クラブン(株)、コアテック(株)、興南設計(株)、松陽産業(株)、(株)スマイルラボ、セイテック(株)、(株)テオリ、ナカシマプロペラ(株)、(有)バサラ、冨士ベークライト(株)、(株)フジワラテクノアート、(株)ベネッセインフォシェル、円岩盤石開発センター(株)、(株)丸善、(有)まるみ麹本店、ユアサシステム機器(株)、両備グループ、ローム・ワコー(株)、岡山県、笠岡市、総社市、備前市、真庭市	
	地域の食	ｺﾒｺ Deli Returns(岡山県立大学栄養学科)、お好み焼 三枝(みえ)、グローバルフーズ CO,、社会福祉法人クムレ、矢掛家具センター、にいみ茶屋、お好み焼きあっちゃん、片山工業(株)	

《開催の様子》



３．１－４　情報発信

社会貢献活動の展開においては、本学の研究シーズ等の外部への発信と、学内の教員等の外部情報入手・共有が極めて重要となる。本年度は、以下の取り組みを行った。

（１）県内での本学の研究シーズ等の外部発信

研究シーズ等の情報発信では、各種産学連携イベントで積極的に行っている。教員の研究シーズを発信したものとしては、次のとおりである。

本年度は、6 つのイベントで延 20 名の教員が発表を行った。

県内での産学連携イベント等での研究シーズ情報発信（学会等の発表を除く）

第 9 回　川崎医科大学　学術集会 日時：平成 30 年 8 月 4 日(土)　10:30～15:10 場所：川崎医科大学　校舎棟	
振動乗り心地評価のための幼児の理論モデルに関する研究	大田慎一郎　准教授
周期的伸展刺激装置を用いた慢性肝疾患の新しい in vitro モデルの研究	入江　康至　教授

勝央工業団地　オープンファクトリー2018 日時：平成 30 年 10 月 27 日(土)　10:00～15：00 場所：勝央町勤労者体育センター及び周辺エリア	
ふしぎなカメラと糸電話であそんでみよう　（実演）	滝本　裕則　准教授

KMS メディカルアーク 2019 with MTO

日時:平成 31 年 2 月 7 日(木) 10:00～18:00

場所:川崎医科大学付属病院 本館

※プレゼンテーション実施

快適な靴設計のための足部動的特性に関する研究	※	斎藤 誠二 准教授
イソマルトデキストリンの血糖上昇抑制作用		平松 智子 准教授
サーモグラフィを活用した表在血管の可視化に関する検討		佐々木新介 准教授
身体性アバタを介した看護コミュニケーション教育支援システム		高林 範子 助教

第 23 回岡山リサーチパーク研究・展示発表会

日時:平成 31 年 2 月 15 日(金) 13:00～16:30

場所:テクノサポート岡山(岡山市北区芳賀 5301)

※プレゼンテーション実施

マイクロ波ドップラーセンサを用いたレベルスイッチ		吉田智哉 准教授
車いすの段差乗り越え時の介助者負担を軽減する新機構の開発		高戸仁郎 教授
次世代医療・ヘルスケア標準規格「SmartBAN」の性能評価と今後の展望		高林健人 助教
ハナビラタケ由来ゲル化剤の開発		新田陽子 准教授
教育効果のある木育玩具の研究開発	※	林 秀紀 助教
尿失禁ケア用品主観的満足度尺度の開発とデザイン評価への適用		三原鉄平 准教授

岡山県立研究機関協議会 第 11 回研究交流発表会

日時:平成 31 年 2 月 26 日(火) 12:40～16:00

場所:岡山県立大学 学部共通棟

※プレゼンテーション実施

ヘルムホルツ共鳴器の結合効果を用いた吸音技術	※	坂口浩一郎 助教
看護師の理論的悩みと組織風土		實金 栄 准教授
汎用ドローン搭載用超小型センシングシステム～気の利く小さな農作物モニタ AI～		有本 和民 教授
人にやさしいインタフェースのための視覚と左右の手との対応に関する研究		大山 剛史 助教
台湾における武徳殿の建築経緯と地域再生		西川 博美 准教授
板倉構法による木造仮設住宅の移築・再利用に見る可能性		畠 和弘 助教

次世代産業に関わる大学・高専シーズ発信会

日時:平成 31 年 3 月 15 日(金)13:00～17:00

場所:岡山ロイヤルホテル

※印プレゼンテーション実施

数値シミュレーションを併用した部品開発事例	※	福田 忠生 准教授

（2）県外での情報発信の取り組み

本年度は、次のとおり情報発信を行った。(2 つのイベントで 4 件の発信)

イノベーション・ジャパン 2018 日時：平成 30 年 8 月 30 日(木)31 日(金) 9:30～17:30 場所：東京ビッグサイト(東京都江東区有明 3－11－1)	
人を引き込む身体的インタラクション・コミュニケーション技術	渡辺　富夫 教授
食品に含まれるタンニンの代謝と機能性	伊東　秀之 教授
低価格米粉の特性を活かした食品の開発	田中　晃一 教授

さんさんコンソ「情報・通信新技術説明会」＆「ライフサイエンス新技術説明会」 日時：平成 30 年 11 月 8 日(木) 10:25～15:25 場所：JST 東京本部別館ホール(東京都千代田区五番町 7)	
瞳孔反応を用いた情報処理システム	瀬島　吉裕 助教

３．２　産学官連携推進センター

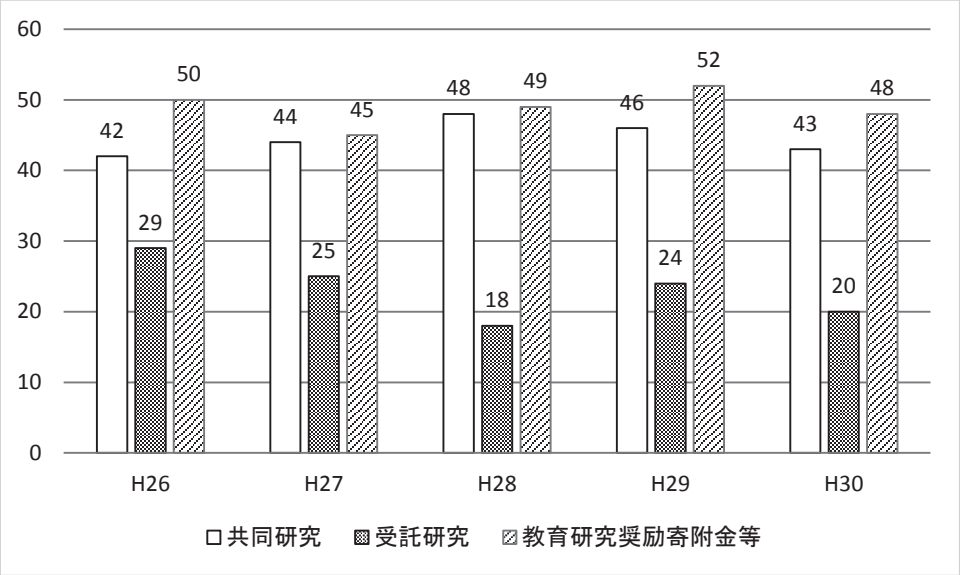
３．２－１　企業等と連携した研究活動

平成 30 年度は第2期中期計画の 6 年目であり最終年度に当たる。中期計画の各研究の目標件数は、それぞれ年平均で共同研究 40 件、受託研究 40 件、教育研究奨励寄附金等 40 件である。

平成 30 年度の目標件数と実績については下図に示すように、共同研究は目標 40 件に対して実績 43 件、受託研究は目標 40 件に対して実績 20 件、教育研究奨励寄附金等は目標 40 件に対して実績 48 件、全体で目標 120 件に対して 111 件となった。金額面においても全体で目標 110,000 千円に対して 89,189 千円と及ばず、共同研究、教育研究奨励寄附金の件数及び金額については、目標値を上回った。

共同研究の様子

共同研究、受託研究、教育研究奨励寄附金件数の全体に対する県内比率は約 56%、その中で県内中小企業は約 48%であり、共同研究、受託研究、教育研究奨励寄附金金額の全体に対する県内比率は約 17%、その中で県内中小企業は約 48%となっている。県内の中小企業においては未だ経営環境が厳しく、交流会などでコーディネータへの相談も減少の傾向があり共同研究又は受託研究に繋がるものは依然として多くない。県内中小製造業の売り上げは上向き傾向になっているものの収益状況は良くない。今後とも、地域に根ざした大学としての本学の存在感を出すべく、活発な産学官連携活動を進めるとともに、相談に対して『敷居の低い大学』として地元企業に認められるよう、平成 30 年度に設立された岡山県立大学協力会等を活用して、一層の努力をしていく必要がある。



共同研究、受託研究、教育研究奨励寄付金の実績件数

（１）共同研究

産学官連携推進センターは普段から自治体、支援機関、金融機関、経済団体等が主催する各種交流会、セミナー及び展示会に参加することにより企業ニーズを探求してきた。近年、金融機関が産学金官の連携に注力していることから、金融機関からの紹介件数が増えている。各教員の学会活動や企業との交流会などの地道な努力により、本年の共同研究の件数は 43 件であった。

（2）受託研究

受託研究は公的機関からの委託研究や民間企業と共同で公的競争的資金獲得に基づくものが多い。この研究は 30 年度を含む 5 年間の平均は 23.2 件である。民間企業からは製品力を高めるデザインの検討や栄養関係での成分分析及びデータ解析などの受託研究が多かった。

（3）教育研究奨励寄附金等

教育研究奨励寄附金は外部の企業・団体から本学の教育・研究奨励のために寄付されるもので、本学の日ごろの社会貢献活動が反映されているとも言える。また、本件数には各種財団の助成金を含んでいる。本年度の件数は 48 件で、目標値の 40 件を上回った。これは各教員が行う研究課題が、喫緊の社会課題に見合った実学的研究であることを示している。今後とも社会情勢を反映した、ニーズに合った研究を通して社会貢献に取り組みたい。

（4）外部競争的資金への応募支援

産学連携コーディネータが関与する外部競争的資金としては JST（科学技術振興機構）の S-STEP 支援（試験研究並びに実証研究）、中国地域創造研究センターの新産業創出研究会などが該当する。

3．2－2　アクティブ・ラボ

アクティブ・ラボ（出前研究室）は教員、コーディネータが企業・団体に出向き、本学研究シーズの紹介並びに訪問先企業の抱えている課題のヒアリングや情報交換を行う場で、地域社会に役立つ実学を行う場として位置づけられている。訪問先は日常的な技術相談や産業支援機関からの紹介で決まる場合が多い。事前に企業情報を入手して概略の把握をしてから訪問している。訪問先で意見交換をする中でニーズとシーズがマッチして共同研究や受託研究に至るケースもある。

アクティブ・ラボ実施状況

中期計画におけるアクティブ・ラボの目標件数は 50 件であり、本年度は目標件数 50 件に対して 50 件の訪問で、60 名の教員が参加した。学部別では保健福祉学部が 14 件・16 名、情報工学部が 21 件・17 名、デザイン学部が 20 件・20 名であった。なお、この件数は異なる学部の複数の教員がひとつの企業を訪問した場合もあるため、各学部件数の和と総件数は合致しない場合がある。

アクティブ・ラボについては、訪問した教員の実数が全教員の 17%程度であり、今後の共同研究の拡大のためには、訪問教員数の増加が必須であると考えられる。

平成 30 年度 アクティブ・ラボ実績

（凡例）（保）:保健福祉学部、（情）:情報工学部、（デ）:デザイン学部

回	訪問日	教員名	回	訪問日	教員名	回	訪問日	教員名
1	4月11日	林秀紀 助教（デ）	19	7月27日	佐藤洋一郎 教授（情）	36	12月10日	井上貴浩 准教授（情）
2	4月13日	滝本裕則 助教（情）	20	7月30日	林秀紀 助教（デ）	37	12月11日	津田勢太 准教授（デ）
3	4月25日	林秀紀 助教（デ）	21	8月28日	野宮謙吾 教授（デ）	38	12月26日	入江康至 教授（保） 井上里加子 助（保）教
4	5月8日	滝本裕則 助教（情）	22	8月31日	入江康至 教授（保） 山下広美 教授（保）			
5	5月10日	西田麻希子 准教授（デ）				39	1月9日	山本登志子 教授（保）
6	5月10日	野宮謙吾 教授（デ）	23	9月3日	佐藤洋一郎 教授（情）	40	1月11日	中西俊介 准教授（デ）
7	5月14日	益岡了 准教授（デ）	24	9月26日	山内仁 准教授（情） 滝本裕則 准教授（情）	41	1月29日	髙戸仁郎 教授（保）
8	5月18日	尾崎公一 教授（情）				42	2月8日	西川博美 准教授（デ）
9	5月19日	金川明弘 教授（情） 山内仁 准教授（情） 滝本裕則 助教（情）	25	10月4日	池田理恵 准教授（保）	43	2月22日	芝世弐 助教（情）
			26	10月17日	難波久美子 教授（デ）	44	2月27日	佐藤洋一郎 教授（情）
			27	10月22日	山本登志子 教授（保）	45	2月27日	佐藤洋一郎 教授（情）
10	6月11日	野宮謙吾 教授（デ）	28	10月26日	山本登志子 教授(保) 中西俊介 准教授(デ)	46	2月27日	田中晃一 教授（保）
11	6月21日	佐藤洋一郎 教授（情）				47	3月5日	田中晃一 教授（保）
12	7月2日	林秀紀 助教（デ）	29	10月31日	林秀紀 助教（デ）	48	3月6日	三原鉄平 准教授（デ）
13	7月3日	平松智子 准教授（保）	30	10月31日	林秀紀 助教（デ）	49	3月7日	佐藤洋一郎 教授（情）
14	7月3日	入江康至 教授（保）	31	11月9日	國島丈生 准教授（情）	50	3月15日	福田忠生 准教授（情）
15	7月4日	尾崎公一 教授（情）	32	11月14日	山本登志子 教授（保）	51	3月15日	福田忠生 准教授（情）
16	7月5日	野宮謙吾 教授（デ）	33	11月17日	津嘉山泉 助教（保）	52	3月20日	田中晃一 教授（保）
17	7月19日	西川博美 准教授（デ）	34	11月29日	伊藤信之 教授（情）	53	3月20日	佐藤洋一郎 教授（情）
18	7月27日	尾崎公一 教授（情）	35	11月30日	伊藤信之 教授（情）	54	3月25日	林秀紀 助教（デ）

３．２－３　学外組織との連携・協働活動

産学官連携推進センターでは各金融機関、経済団体、産業支援機関等が主催するセミナー、交流会、相談会等のイベントに積極的に参加した。これらの活動を通じて本学シーズと社会ニーズとのマッチング、情報収集並びに人的交流を行っている。

（１）各種支援機関との協働

① 岡山・産学官連携推進会議（会長：岡山県知事）

本会議は産学官の連携・協働の動きを強化し、県民力を結集して産業振興を図るための組織として、経済団体、行政、支援機関及び大学等県内の主要機関（20 機関）が連携して平成 15 年に設立されたものである。「交流の場の提供」、「企業人材の育成事業」、「インターンシップ制度の充実」、「産学官連携情報提供」などを行っており、産業界 6、大学等 13、行政 4、その他 6 機関の計 29 機関で構成されている。

【本年度の活動】

◆コーディネート力向上セミナー　平成 30 年 5 月 22 日（火）

◆産学官連携交流会（和気町）　平成 30 年 11 月 20 日（火）

◆岡山・産学官連携推進会議幹事会（第 2 回）（岡山市）　平成 31 年 2 月 12 日（火）

② 岡山リサーチパーク研究・展示発表会

岡山リサーチパークに関係する企業、大学、研究機関の研究成果を発表する。また、その成果を県内に広めるため交流・相談の場を提供し、事業化に向けた積極的な産学官連携を推進し、県内の産業に貢献することを目的として毎年行われている。第 23 回を迎えた本年は本学から 6 件の展示を行い、うち 1 件のプレゼンテーションを行った。なお、今年はテクノサポート岡山で開催された。

【本年度の活動】

◆研究・展示発表会

平成 31 年 2 月 15 日(金) 13 時～16 時 30 分　合計展示数:59 件

③ 県内支援機関

ア 岡山県産業振興財団

【本年度の活動】

◆コーディネート力向上セミナー　岡山市 (平成 30 年 5 月 22 日(火))

◆OTEX2019　コンベックス岡山 (平成 31 年 1 月 24 日(木)、25 日(金))

◆支援制度説明会　2 回 (平成 31 年 2 月 津山及び岡山、津山では大学プレゼンあり)

◆産学官金フォーアップセミナー　岡山市 (平成 31 年 2 月 4 日(月))

イ 岡山県中小企業団体中央会、岡山市商工会議所

④ 金融機関との連携活動

本学は平成 20 年に中国銀行、トマト銀行、おかやま信用金庫の三つの金融機関と包括協定を同時に提携し、県内の中小企業を中心に産学連携活動を行っている。本年は中国銀行及びおかやま信用金庫のビジネス交流会に参加し、県内の信用金庫が合同で行う「しんきん合同ビジネス交流会」及び「しんくみビジネスマッチング」にも参加した。

【本年度の活動】

◆おかやましんきんビジネス交流会

平成 30 年 4 月 13 日(金) 岡山コンベンションセンター

◆トマト銀行 トマト・アグリフードフェア 2018

平成 30 年 7 月 10 日(火) 岡山コンベンションセンター

◆しんきん合同ビジネス交流会

平成 30 年 9 月 12 日(水) (コンベックス岡山)

◆しんくみビジネスマッチング(笠岡)

平成 30 年 11 月 15 日(木) 笠岡総合体育館

◆中国銀行 産学官大学シーズ発表会(岡山市委託事業)

平成 30 年 9 月 15 日(土) 「食について」 中国銀行本店

平成 30 年 12 月 12 日(水) 「製造業について」 中国銀行本店

しんきん合同ビジネス交流会

⑤ 県立研究機関協議会

岡山県立研究機関及び地方独立法人法により設置される研究機関の試験研究に関する情報交換、技術交流等を通じて、技術の向上、研究開発の推進と研究機関の活性化を図り地域振興に資するため設置された協議会である。

今年は 2 年に一度開催される「研究交流発表会」が本学で開催された。

参加機関:環境保険センター、農業研究所、生物化学研究所、工業技術センター、畜産研究所、森林研究所、水産研究所、家畜保険衛生所、岡山県立大学

【本年度の活動】

◆一般会議(2 回)　平成 30 年 5 月 31 日(木)、平成 30 年 11 月 19 日(月)

◆機関長会議(1 回)　平成 30 年 10 月 17 日(水)

◆第 11 回研究交流発表会　平成 31 年 2 月 26 日(火) 岡山県立大学

⑥ さんさんコンソ（中国地域産学官連携コンソーシアム）

文部科学省のイノベーションシステム整備事業大学等産学官連携自立化促進プログラム（機能強化支援型）に、岡山大学、鳥取大学が共同で応募し採択され、平成 20 年度から同受託事業として実施されてきた。平成 24 年度をもって文科省事業としては終了したが、平成 25 年度以降も両校が中心となり事業を継続し、中国地域の産学官連携活性化の一翼を担うべく活動している。

【本年度の活動】

◆中国地域産学官連携コンソーシアム運営会議　　平成 30 年 5 月 18 日（金）

◆新技術説明会　　平成 30 年 11 月 8 日（木）（1 名発表）

⑦ その他

その他に以下の機関が主催した交流会やセミナーに参加した。

◆岡山市

◆西日本医系大学知的財産管理ネットワーク

◆津山産業支援センター

◆岡山県医用工学研究会

（2）技術分野別産学官連携組織・研究会などの協働

ミクロものづくり岡山推進会議

ミクロものづくり岡山推進協議会は、精密生産技術を核とするミクロものづくり産業クラスターの形成に向け、ミクロものづくりに関係する企業、大学、産業支援機関等で構成されている。地域の総力をあげた取り組みを円滑かつ効果的に展開するため、関係者の意識の統一を図るとともに、事業推進に当たっての基本方向について協議決定することを目的として、平成 16 年 8 月に設立された団体である。

技術別の活動としては「半導体ネットおかやま」、「解析シミュレーションネットOKAYAMA」、「おかやま次世代産業関連技術研究会」、「おかやま生体信号研究会」などのサブネットがある。

ア　解析シミュレーションネットOKAYAMA

本学情報工学部の福田忠生准教授が副会長を務める会で、本年度は岡山県立大学協力会主催で、本学におい「画像解析に関する技術講習会」を開催した。

【本年度の活動】

◆「画像解析に関する技術講習会」　　平成 30 年 11 月 22 日（金）（参加者 16 名）

平成 31 年 3 月 25 日（日）（参加者 15 名）

イ　おかやま生体信号研究会

本会は、ヒトの動き・脳波・筋電・心電・血圧など、ヒトをはじめとする生き物に由来する信号の総称である「生体信号」に関連する技術の研究を対象としている。具体的には、生体信号の計測・処理技術，生体信号による機器制御技術、生体信号の診断応用・評価、並びにその応用技術などの研究を行っている。

【本年度の活動】

◆第 9 回総会、第 30 回例会　　平成 30 年 6 月 8 日（金）　講演 4 件

（岡山大学鹿田キャンパス）

◆第 31 例会　　平成 30 年 11 月 29 日（木）　講演 4 件

（岡山県立大学）

ウ　おかやま次世代産業関連技術研究会

【本年度の活動】

◆総会、講演会、交流会　　平成 30 年 10 月 10 日(水)

◆セミナー及び半導体ネット岡山例会　　平成 30 年 12 月 13 日(木)

３．２－４　岡山県立大学協力会

（１）設立の背景

岡山県の製造業に分類される企業は約 3,500 社であり、その 90%強は従業員数 100 名未満の中小企業である（岡山県平成 26 年工業統計調査結果確報（平成 28 年 2 月 29 日公表））。特に、中小企業においては、オリジナル製品の開発や今後成長が見込まれる医療、環境分野への進出等、大企業への依存度の低減に向けた活動が行われているものの、それを推進するために、下記のような課題があるとの報告がある。

◇研究・開発に係る技術者人材の不足

◇アイデアの不足

◇アイデアがあってもそれを活かすためのプロジェクトマネージメント力の不足

◇デザイン力，ブランド力，マーケッティング力の不足

◇技術動向の情報不足

◇IoT，ビッグデータ，AI 等革新的技術の迅速な導入が困難　　等

このような課題の解決に向けて、大学や公的研究機関からの支援を望む声が多いものの、大学に対しては“敷居の高さ”を意識し依頼を躊躇する、との意見がある。

岡山県立大学は、その建学の理念の中で、地域の産業の振興に寄与することを目的の一つに掲げている。しかし、ミクロものづくり岡山、岡山県食品新技術応用研究会、つやまデザインカレッジ等での教員個別の活動が大部分であり、大学としての主体的かつ組織的な取組みは十分でない状況にある。また、開発者人材の輩出について十分な状況にはない。例えば、製造業系企業に就職する学生が最も多い情報工学部では、約 50%の学部生が県内企業に就職しているものの、絶対数は 40～50 名程度である。平成 29 年 3 月 2 日に本学で開催した合同企業説明会への参加企業が 80 社強であることを考えると、県内企業への就職率をさらに向上させる必要があり、そもそも、本学学生への県内企業の情報の周知が不十分であることも問題の一つにあげられる。このように、大学としても、下記のような課題があると考えている。

◇共同研究、技術相談等の能動的・組織的な取組みへの展開

◇工学教育への地元企業の参加による地域志向教育の取込みと実践的人材育成の推進

◇本学学生の地元企業への就職支援

◇研究シーズだけでなく教育シーズの有効活用

（２）目的

本会の目的は、次の通りである。

「県内中小企業が感じている大学の敷居の高さを軽減し、本学に対して技術相談、共同研究等を依頼しやすい環境を整え、卒業生の就職も含め、県内中小企業と本学との強い連携・協働を促進すること」

また、本会の活動を通して期待される効果としては、

Ⅰ．インターシップ、企業説明会を通した本学学生（OB・OG も含む）への魅力発信による地元企業への人材輩出の促進及びセミナーの開催や社会人ドクター受入等による産業人材の育成と確保

Ⅱ．共同研究の推進、技術研究会等による企業の技術開発力の向上及び共 同研究への学生参加による実践的人材育成（当該企業への就職も期待）

Ⅲ．革新的最新技術の導入のためのセミナーや異業種間共同研究の推進に よる新規産業の創成

を想定している。

（３）運営体制

本会は、企業会員を中心とする正会員と団体を中心とする賛助会員で構成される。本会の会議は、総会、運営委員会及び事業推進委員会である。運営委員会は、会長（1 名）、副会長（若干名）、理事（10 名以上）及び監事（2 名）で構成し、本会の事業を企画し、これを執行する。事業推進委員会は、本学に置き、本学地域共同研究機構長、保健福祉学部長、情報工学部長、デザイン

学部長、産学官連携推進センター長及び同幹事で構成し、運営委員会からの指示に基づいて、事業の具体的な計画・立案・実施を行う。事務局も本学に置き、本会の活動にかかわる諸事務を行う。

平成 30 年度の運営員会及び事業推進委員会の委員名簿を、それぞれ、表 3.2-4-1 及び 3.2-4-2 に示す。

表 3.2-4-1:運営員会名簿

役員等	運営委員会	所 属	役 職	氏 名
会 長	委員長	(株)英田エンジニアリング	代表取締役社長	万殿 貴志
副会長	副委員長	コアテック(株)	取締役	山本 卓二
副会長	副委員長	岡山県経済団体連絡協議会	事務局長	神崎 浩二
副会長	副委員長	岡山県立大学	地域共同研究機構・機構長	佐藤 洋一郎
理 事	委員	板野機工(株)	代表取締役会長	板野 恒一
理 事	委員	オーエム産業(株)	業務本部 経営企画室室長	久保 藍良
理 事	委員	(公財)岡山県産業振興財団	総務部長	横田 尚之
理 事	委員	(一社)岡山工業会	専務理事(事務局長)	上田 哲也
理 事	委員	(一社)システムエンジニアリング岡山	事務局長	楠戸 國正
理 事	委員	ヒルタ工業(株)	取締役常務執行役員	小田 崇之
理 事	委員	両備ホールディングス(株)	人財本部 グループリクルート部 アソシエイト	内田 次俊
理 事	委員	岡山県立大学	情報工学部・学部長	尾﨑 公一
理 事	委員	岡山県立大学	地域共同研究機構・副機構長	村木 克爾
理 事	委員	岡山県立大学	産学官連携推進センター・センター長	伊藤 信之
監 事	委員	シャープタカヤ電子工業(株)	総務部長	今井 眞二
監 事	委員	岡山県立大学	名誉教授	亀山 嘉正

役員等	運営委員会	所 属	役 職	氏 名
顧 問	―	岡山経済団体連絡協議会	座長	中島 博
顧 問	―	岡山県立大学	理事長・学長	辻 英明
顧 問	―	岡山県立大学	理事・副学長(産学官連携担当)	沖 陽子

表 3.2-4-2:事業推進委員会名簿

所 属	職 名	氏 名
地域共同研究機構・機構長	委員長	佐藤 洋一郎
情報工学部・学部長	副委員長	尾﨑 公一
産学官連携推進センター・センター長	副委員長	伊藤 信之
地域共同研究機構・副機構長	副委員長	村木 克爾
地域連携推進センター・センター長	副委員長	佐藤 和順
産学官連携推進センター・副センター長	委 員	山本 登志子
産学官連携推進センター・運営委員	委 員	春木 直人
産学官連携推進センター・運営委員	委 員	市川 正美
産学官連携推進センター・運営委員	委 員	中西 俊介

所 属		職 名	氏 名
保健福祉学部・教授		委 員	田中 晃一
情報工学部・教授		委 員	渡辺 富夫
情報工学部・准教授		委 員	福田 忠生
情報工学部・准教授		委 員	山内 仁
企画広報室長		委 員	井上 知章
事務局	地域共同研究機構・機構長	事務局長	佐藤 洋一郎
	産学官連携推進センター・センター長	副事務局長	伊藤 信之
	企画広報室長	副事務局長	井上 知章
	コーディネータ		森安 賢治
	コーディネータ		浦上 良巳
	コーディネータ		武田 吉弘
	コーディネータ		渡邉 守
	企画広報室員		橋本 宣士
	企画広報室員		青山 佳矢
	企画広報室員		島津 あい子
	企画広報室員		増田 康平
	事務員		赤木 貴子

（4）活動計画

(1)産学官連携関係者間の情報交換及び交流並びに研究開発支援にかかわる事業

A. 教員及び学生による会員企業への訪問

B. 会員、教員及び学生を対象とした交流会の開催

(2)講演会、講習会、セミナー等の開催にかかわる事業

A. 最先端技術に関する講演会の開催

B. 画像技術講習会の開催

C. 講演会、講習会、セミナー等のテーマに関するニーズ調査

(3)県内産業の発展に資する人材の確保・育成にかかわる事業

A. 業種説明会の開催

B. 会員企業による会社説明会

C. 人材確保. 育成に関するニーズ調査

(4)岡山県立大学の専門教育の充実に関する支援にかかわる事業

A. 学部及び大学院学生を対象とした技術者教育の計画

B. 企業参加型PBL教育の計画

C. 大学教育への要望に関する調査

(5)本会の情報管理や活動の企画・実施のための環境整備及び広報にかかわる事業

A. 本会のホームページの開設及び更新

B. 会報の発行

C. 事業実施報告書の作成

(6)会議等

A. 運営委員会の開催:6 月(第 1 回)及び 3 月(第 2 回)に 2 回開催する。

・第 1 回:事業計画の具体化、入会の勧誘等

・第 2 回:事業報告

B. 事業推進委員会の開催:4 回(1 回／3 ヶ月程度)開催する。

(5) 活動実績

平成 30 年度の活動実績の一覧を表 3.2-4-3 に示す。

表 3.2-4-3:活動一覧

日 時	内 容	場 所	参 加 者 等
3 月 16 日	設立記念式	メルパルク岡山	
5 月 29 日	総会	サンロード吉備路	
6 月 2 日	企業間相互訪問	㈱英田エンジニアリング	㈱英田エンジニアリング・萩原工業㈱ 交流会
6 月 15 日	事業推進委員会 (第 1 回)	岡山県立大学	
7 月 30 日	運営委員会	岡山県立大学	
8 月 27 日	会員企業訪問	シャープタカヤ電子工業㈱	情報工学部 伊藤教授 集積回路工学研究室 学生 4 名
9 月 7 日	会員企業訪問	萩原工業㈱	情報工学部 尾﨑教授、滝本准教授 岡山県立大学大学院 保健福祉学研究科 学生 1 名 ハサヌディン大学(インドネシア)学生 39 名、引率教員 1 名
9 月 19 日	事業推進委員会 (第 2 回)	岡山県立大学	
9 月 29 日	企業間相互訪問	萩原工業㈱	㈱英田エンジニアリング・萩原工業㈱ 交流会
10 月 5 日～ 10 月 6 日	会員企業訪問	㈱英田エンジニアリング	デザイン学部 村木教授
10 月 5 日～ 10 月 29 日	ニーズ調査		正会員企業を対象とするアンケートを実施
11 月 22 日	画像技術講習会 (基礎編)	岡山県立大学	講師:情報工学部 山内准教授、 和歌山大学 中村教授、 大阪電気通信大学 小枝准教授 12 社 16 名参加(うち会員企業 10 社 14 名)
12 月 21 日	第 1 回業種説明会	岡山県立大学	情報工学部生、大学院生(情報系工学研究科)計 40 名 説明企業 6 社(50 音順) ㈱英田エンジニアリング 井原精機㈱ 内山工業㈱ サノヤス造船㈱ ㈱システムエンタープライズ みのる産業㈱
2 月 22 日	最先端技術講習会	倉敷化工㈱	講師:情報工学部 芝助教 演題「AI 技術によるコンピュータ将棋」 参加者 30 名
3 月 1 日	学内合同会社説明会	岡山県立大学	参加学生 65 名(主として情報工学部) 参加企業 36 社
3 月 25 日	画像技術講習会 (応用編)	岡山県立大学	講師:情報工学部 山内准教授、 和歌山大学 中村教授、 大阪電気通信大学 小枝准教授 10 社 15 名参加(うち会員企業 9 社 14 名)

ア. 岡山県立大学協力会　平成 30 年度総会

日時:平成 30 年 5 月 29 日(火)17 時 15 分～17 時 55 分

場所:国民宿舎　サンロード吉備路　会議室

出席者:正会員(34 名)、賛助会員(7 名)、大学関係者(20 名)

【審議事項】

第一号議案　役員の選任について

第二号議案　平成 30 年度活動計画について

第三号議案　平成 30 年度予算について

【報告事項】

岡山県立大学協力会設立記念式について

イ. 情報交換・研究開発支援事業(企業間相互訪問・コラボ)

「株式会社英田エンジニアリングと萩原工業株式会社との企業相互訪問活動(第 1 回)」

日時:平成 30 年 6 月 2 日(土)13:00～15:00

場所:株式会社英田エンジニアリング本社、工場

参加者:50 名

・萩原工業株式会社:取締役常務執行役員　笹原義博氏　他 40 名

・株式会社英田エンジニアリング:代表取締役社長　万殿貴志氏　他 10 名

内容:萩原工業株式会社の社員が英田エンジニアリング本社及び工場を訪問し、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躾)活動をどう進めているのか、どのような職場環境を整えているのか、お互いに参考になるところを見つけ、また改善点をお互いに出す事を目的とした。また、デザイン的な交流という意味合いもあり、英田エンジニアリングのデザインについての取組を紹介した。

ウ. 企業訪問

日　時:平成 30 年 9 月 7 日(金)14:00～16:00

場　所:萩原工業株式会社

参加者:教員;教授　尾崎　公一、准教授　滝本　裕則

学生;インドネシア　ハサヌディン大学　39　名、岡山県立大学大学院　保健福祉学研究科 1 名

内　容:インドネシア　ハサヌディン大学より本学を訪問中の学生と教員、本学大学院　保健福祉学研究科学生の計 41 名と共に萩原工業株式会社を訪問し、工場を見学させていただいた。工場見学に先立って、浅野社長よりご挨拶を頂戴した。その後、笹原取締役より企業概要、インドネシア工場(PT.HAGIHARA　WESTJAVA INDUSTRIES)についてご説明をいただいた。さらに、詳細な事業内容に関して、笹木部長より通訳を介さずインドネシア語にてご説明をいただいた。その後、敷地内の工場へ移動し、化学繊維を効率的に巻き取る装置、化学繊維を用いてシートや袋を織る装置、ブルーシート製造工程などを見学させていただいた。最後に質疑の時間を設けていただき、学生からはインドネシア工場でのインターンシップや就職に関する多くの質問があった。学生だけではなく教員にとっても大変有意義な企業訪問であった。

エ. 第 1 回業種説明会

全学部全学科を対象とした第 1 回業種説明会を開催し、学生 40 名の参加がありました。各業界・業種を代表する会員企業の

方に来学いただき、自社の置かれている業界の将来の展望・方向性や重点的取組み内容が説明され、参加学生は熱心に聴講していました。当該企業からは、英語力・世代を超えたコミュニケーション能力・レクリエーション活動等を通した連帯感が大変重要であると説明されました。学生からは、将来の進路決定・企業選定の上で大変参考になったとの意見が寄せられました。今後は協力会の行事として、定期的に開催することを計画しています。内容は以下のとおりです。

日時:平成 30 年 12 月 21 日(金)14:30～17:30

場所:岡山県立大学　学部共通棟(南)　8206 室

参加企業

:機械　　井原精機株式会社

:農業機械メーカー　みのる産業株式会社

:ソフトウェア　株式会社システムエンタープライズ

:造船　　サノヤス造船株式会社

:設備　　株式会社英田エンジニアリング

:化学　　内山工業株式会社

説明企業【機械】 井原精機株式会社
管理部総務グループ　チームリーダー
江村 俊庸 氏

説明企業【農業機械メーカー】 みのる産業株式会社
総務本部 経営管理部 部長
岩藤 和行 氏

説明企業【ソフトウェア】
株式会社システムエンタープライズ
代表取締役社長　三宅 一郎 氏

説明企業【造船】
サノヤス造船株式会社
人事部 田中 郁也 氏

説明企業【設備】株式会社英田エンジニアリング
NIC 製造部
小野 力 氏

説明企業【化学】内山工業株式会社
総務部総務グループ
穴吹 竜也氏

オ. 最先端技術講習会

日時:平成 31 年 2 月 22 日(金) 13:00～16:00

場所:倉敷化工株式会社

参加者:30 名

講師:岡山県立大学 情報工学部 情報システム工学科 芝 世弐 先生

演題:「AI 技術によるコンピュータ将棋」

カ. 2020 年 3 月卒業・修了予定者向け学内合同会社説明会

全学部全学科を対象とする合同会社説明会を開催しました。本学学生(主として情報工学部計 65 名)の就職希望者に対して、参加企業(会員企業 計 36 社)から募集要項等の説明が個別ブースで行われました。

日時:平成 31 年 3 月 1 日(金)学生受付 10:00～、説明会 10:15～12:15

30 分毎に 4 回開催(説明・質疑:25 分、移動:5 分)

場所:岡山県立大学 情報工学部棟 2202～2204 講義室、学部共通棟(北)8203 室

参加企業:

	会社名(50 音順)	業種(事業内容)	本社所在地
1	株式会社英田エンジニアリング	各種産業機械製造	美作市
2	アサゴエ工業株式会社	金属製品製造	岡山市南区
3	株式会社アステア	自動車部品製造	総社市
4	板野機工株式会社	金属加工品販売	岡山市北区
5	井原精機株式会社	自動車部品製造	井原市
6	内山工業株式会社	自動車部品製造	岡山市中区
7	オーエム機器株式会社	金属製品製造	総社市
8	オーエム産業株式会社	表面処理加工	岡山市北区
9	株式会社岡山情報処理センター	情報処理・ソフトウェア開発	岡山市北区
10	片山工業株式会社	輸送用機械器具製造	井原市
11	倉敷化工株式会社	ゴム製品製造	倉敷市
12	株式会社ケイエスピイ	ソフトウェア開発	岡山市北区
13	コアテック株式会社	各種産業機械製造	総社市

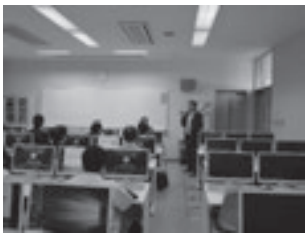
	会社名(50 音順)	業種(事業内容)	本社所在地
14	サノヤス造船株式会社	造船	大阪市北区
15	三陽機器株式会社	各種産業機械製造	浅口郡里庄町
16	山陽電研株式会社	電気機械器具製造	岡山市中区
17	株式会社システムエンタープライズ	ソフトウェア開発	岡山市北区
18	株式会社システムズナカシマ	ソフトウェア開発	岡山市東区
19	株式会社システムタイズ	ソフトウェア開発	岡山市北区
20	シャープタカヤ電子工業株式会社	電子部品製造(半導体)	浅口郡里庄町
21	セリオ株式会社	ソフトウェア開発	岡山市中区
22	タカヤ株式会社	電気機器製造	井原市井原町
23	株式会社トンボ	衣料品製造	岡山市北区
24	株式会社ナイカイアーキット	金属製品製造・建築・土木	倉敷市
25	株式会社ナテック	各種産業機械製造	倉敷市
26	株式会社NICS	ソフトウェア開発	玉野市
27	萩原工業株式会社	合成樹脂加工製品と産業機械の製造・販売	倉敷市
28	ピープルソフトウェア株式会社	ソフトウェア開発	倉敷市
29	株式会社ビザビ	広告、出版、人材サービス	岡山市北区
30	ヒルタ工業株式会社	部品製造	笠岡市
31	冨士ベークライト株式会社	プラスチック製品製造	小田郡矢掛町
32	株式会社ベネッセインフォシェル	情報処理・ソフトウェア開発	岡山市北区
33	みのる産業株式会社	農業機械開発・製造	赤磐市
34	ユアサ工機株式会社	エンジン部品製造	岡山市北区
35	ユアサシステム機器株式会社	各種産業機械製造	岡山市北区
36	株式会社両備システムズ	情報サービス	岡山市南区

キ. 第 7 回「画像解析に関する技術講習会」

日時:平成 31 年 3 月 25 日(月)10:00～16:00
場所:岡山県立大学　学部共通棟南　1 階 8122 室
スケジュール

10:00～10:10　開会
10:10～12:00　OpenCV の紹介
　　WinPython と OpenCV を用いた画像処理(応用編 1)
12:00～13:00　昼食休憩
13:00～15:30　WinPython と OpenCV を用いた画像処理(応用編 2)
15:30～16:00　質疑応答・閉会

講習内容:可視光カメラだけでなく、距離画像センサー(被写体までの距離を画像化するセンサー)を使用した高度な技術講習会となりました。画像工学の研究に携わっている方だけでなく、関心を持っている企業の方々へも有意義な講習会となり、熱心な質疑応答がなされるなど、関心の深さを強く感じました。また、製造工程に画像処理を既に導入されている企業の方にも大いに参考となり、大変有意義であったとの感想が多く寄せられました。



開会挨拶
岡山県立大学 地域共同研究機構
機構長 佐藤 洋一郎 氏

講師紹介
大阪電気通信大学 総合情報学部
准教授　小枝 正直 氏

講師紹介
和歌山大学システム工学部
教授　中村恭之氏

３．３　地域連携推進センター

３．３－１　地域連携事業・企業人材育成事業

本学における地域連携活動の推進及び産学官連携活動を通じた企業の人材育成に寄与する活動の支援を目的に平成 29 年度から新設した「地域連携推進事業」「企業人材育成事業」を実施し、支援を行った。

（１）地域連携推進事業

岡山県内において本学と連携協力に関する協定を締結する自治体又はそれ以外の自治体を活動拠点とし、本学教員及び学生が行政機関、大学、経済団体、地域団体（社会福祉協議会、特定非営利活動法人、自治会等）と連携して実施する、①健康福祉関連、②子ども関連、③まちづくり関連、④アート・食育・ICT関連について、大学活動委員会で事業計画を承認し、支援を実施している。

（２）企業人材育成事業

岡山県内において本学教員が行政機関、大学、経済団体、企業、地域団体（ミクロものづくり岡山、解析シミュレーションネット OKAYAMA 等）と連携して実施する、岡山県内に所在する企業等の、①技術力向上に資する育成プログラムの開発と実施、②技術力向上に資する講演会の開催、③技術力向上に資する技術講習会の開催、④その他学長が必要と認めた活動について、大学活動委員会で事業計画を承認し、支援を実施している。

（３）申請・採択実績

平成 30 年度分については、平成 30 年 1 月 12 日（金）～2 月 9 日（金）まで募集を行い、申請のあったものについて査定を行い、3 月 25 日開催の大学活動委員会において次のとおり採択された。

名称	申請件数	採択件数	配分額合計
地域連携推進事業	12 件	12 件	2,751,000 円（※）
企業人材育成事業	2 件	2 件	351,200 円

※　平成 31 年 2 月 13 日付けで変更申請を 1 件承認したことにより、当初決定額から 94,000 円減少した。

①地域連携事業　事業一覧

学部	学科	職名	氏名	活動名	共同実施者数
保健福祉学部	看護学科	教授	沖本克子	RCA 研修会	4 人
保健福祉学部	看護学科	准教授	名越恵美	ELNEC-J コアカリキュラム in 岡山県立大学―質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアのために―	3 人
保健福祉学部	看護学科	准教授	佐々木新介	過疎化・高齢化社会に対する地域志向型人材の育成（第 2 期）	0 人
保健福祉学部	看護学科	准教授	岡﨑愉加	思春期の子育て支援	0 人
保健福祉学部	栄養学科	准教授	平松智子	糖尿病にならないための　いきいきプログラム	0 人
保健福祉学部	保健福祉学科	教授	近藤理恵	中学・高校生のための学習・体験プログラム	3 人
保健福祉学部	保健福祉学科	准教授	中野菜穂子	県大そうじゃ子育てカレッジ「親子で楽しむ音楽会―0歳児からのコンサート」による親子の文化体験と交流の提供	8 人
情報工学部	情報システム工学科	助教	芝　世弐	岡山オープンソース技術研究会	2 人
情報工学部	人間情報工学科	准教授	綾部誠也	おかやま健康応援プロジェクト	3 人
デザイン学部	デザイン工学科	准教授	津田勢太	笠岡市の空き家改修・活用セミナー	0 人
デザイン学部	デザイン工学科	助教	林　秀紀	西粟倉村の間伐材を活用した木育玩具の研究開発	0 人
デザイン学部	デザイン工学科	助教	畠　和宏	総社市昭和地区における既存ストック活用促進プロジェクト	0 人

②企業人材育成事業　事業一覧

学部	学科	職名	氏名	活動名	共同実施者数
情報工学部	情報システム工学科	教授	尾崎公一	岡山新材料技術融合フォーラム	1 人
情報工学部	情報システム工学科	准教授	福田忠生	解析シミュレーションネット OKAYAMA　技術講習会	2 人

３．３－２　各種連携活動

（１）地（知）の拠点大学による地方創生推進事業について

①COC＋における地域連携推進センターの役割

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」は、若者の東京一極集中に歯止めをかけ、地域に定着させることを目的として、高等教育機関、自治体、企業、NPO 等と協働して、学生にとって魅力ある雇用を創出・開拓すると同時に、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援するものである。本学が代表校として採択された事業は、「地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業」であり、教育改革、域学連携及び産学連携の３つの主要な活動で構成される（詳細は、本誌 2.1「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」を参照）。

地域連携推進センターが主に担当するのは、域学連携であり、以下の項目の実施が計画されている（詳細は、本誌 2.1-3 を参照）。

ア　地域創生コモンズの設置と運営

本学と包括連携協定を締結している連携自治体（総社市、笠岡市、備前市、真庭市、赤磐市、岡山市）に、域学連携、教育改革及び産学連携の場となる「地域創生コモンズ」を設置した。

イ　地域の課題の掘り起こしと解決

大学、自治体、NPO 及び地域住民が、公開講座や地域協働講座を開催することで、課題の掘り起しや解決策の検討を行った。

ウ　研究シーズの有効利用による地域の活性化

研究シーズの有効利用として、地域創生コモンズ等を活用したワークショップや研修会を開催することで地域貢献への道筋を議論した。重点テーマとしては、「子どもの余暇活動、子育て支援・学習支援」、「疾病予防・健康増進に向けた高齢者健康増進支援」「地域資源を活用した食・アート・ICT による教育支援」及び「まちづくり・まちおこし支援」等が挙げられる。

②COC＋に係る活動実績

ア　実施体制の整備について

COC＋における域学連携活動は、COC＋推進企画委員会の下に設置された域学連携 WG が主体となって推進することとなっている。域学連携 WG の業務は、本学が進める域学連携事業の開発に関することであり、

①地域連携推進センターセンター長（グループ長）
②地域連携推進センター幹事（副グループ長）
③地域連携推進センター幹事（3 名）
④COC＋推進室員

により構成した。平成 30 年度は、平成 30 年 5 月 1 日（火）に第 1 回目を開催し、以後、6 月 5 日（火）、9 月 4 日（火）、11 月 22 日（木）、3 月 11 日（月）の計 5 回開催した。

イ　地域創生コモンズについて

地域創生コモンズを開設した（詳細は、本誌 2.1-3-1 を参照）。

ウ　研究シーズの有効利用による地域の活性化について

以下のような活動を実施した（詳細は、本誌 2.1-3-1、2 を参照）。

・コモンズキャンパス：連携自治体における研究シーズを活用したワークショップの開催
・子育て支援プロジェクト：連携自治体における学生主体による地域連携活動

・食育支援事業：備前市における地域連携活動による食育の推進

（２）地域連携活動について

主な地域連携活動は以下のとおりである。

① コモンズキャンパス

COC＋の域学連携の一環として、本学の地域連携推進センターが主体となり、地域創生コモンズの利用促進を目的に一般的な教員の講演だけでなく、学生も参加し、地域住民との関わりをもった講座を実施した。学生にとっては学外でのコミュニケーションを育む機会となり、充実な学びを得ることができた。また、実技を含む講座も設計したことで、参加した地域住民に対して、より有意義なプログラムを提供することができた（詳細は、本誌 2.1-3-2(1)を参照）。

② 子育て支援プロジェクト

COC＋の域学連携と連携して、本学の保健福祉学科子ども学専攻の学生が主体となり、子育て支援プログラムの企画立案・運営を担い、地域創生コモンズを設置した連携自治体にて、地域 NPO 法人等と協働・実施するプロジェクトを実施した。学生主体といっただけでなく、COC＋参加大学との連携もあり、大きな成果となった（詳細は、本誌 2.1-3-2(2)を参照）。

（３）まとめと今後の課題

本年度も継続して、COC＋の域学連携に係わる活動を行っており、COC＋に対して、貢献できたことは大きな成果と言える。また、「岡山県立大学地域連携事業」により、本学教員による地域貢献活動も活発なものになりつつある。

また、本学教員の域学連携活動を認識できていない現状を打破するため、昨年度から実施した域学連携活動の報告制度によって、大学全体の活動の見える化が進められた。さらに、今年度は域学連携活動に関する知（地）のシーズ集を作成しており（平成 31 年 4 月発行）することにより、地域に対して大学全体の域学連携活動の見える化を図る。

しかし、これまですべての地域のニーズに応え切れていない現状や他大学との協働も十分行えているとは言えない状況である。

以上から、平成 31 年度に向けた主な課題を以下に列挙する。

◇COC＋における「域学連携」活動との他大学との連携強化
◇岡山県立大学の地域連携活動の積極的な見える化
◇地域連携活動の新たなプロジェクトの模索
◇地域創生コモンズの利用促進
◇小さな地域連携活動の掘り起こしと支援

３．３－３　糖尿病相談室

（１）概要

糖尿病相談室は、糖尿病患者および予備群とその家族を対象とした個別相談と深井喜代子先生による痛み相談を開催した。

（２）活動実績

①　糖尿病相談（個別相談＋痛み相談）の利用者

今年度は6回開催予定で開始したが、7月の西日本豪雨災害の影響で会場が使用でいないこと、避難所でのニーズがあったため、開催場所を一部変更して実施した。

8月 21日	（火）	9:00～13:00	昭和公民館	5名	
9月 10日	（月）	13:30～16:00	総社市保健センター	➡昭和公民館	6名
10月 1日	（月）	13:30～16:00	総社市保健センター	2名	（痛み相談 2名）
11月 20日	（火）	9:30～13:00	昭和公民館	0名	
12月 1日	（土）	9:30～13:00	昭和公民館	1名	
2月 4日	（月）	13:30～16:00	総社市保健センター	3名	（痛み相談 4名）
電話相談 3名					

合計　26名

②　避難所での健康チェック

毎週木曜の夕方に避難所の入居者の健康チェックを保健師に同伴して行い、希望者に血圧測定や血糖値の測定を行った。

今年度は、出張相談の希望がある美袋地区への出張相談を2日間計画していたが、7月の災害の被災地でもある美袋地区での開催が4日間となった。糖尿病相談の「個別相談」は、糖尿病のみでなく健康維持の情報を提供するような場として、避難所で足浴と合わせて情報を提供することができた。被災地の訪問は、毎週木曜日の夕方保健師に同伴して行い、希望がある場合に血糖値などを測定した。その結果、糖尿病や高血圧の既往がなくても時間の経過とともに血圧や血糖値が上昇傾向にあることがわかり、避難所の生活が体調に大きな影響を与えていることが確認できた。

（３）今後の展望と課題

糖尿病患者の大半は、教育システムにない医療機関に通院しているため、医師から病気や治療の説明を聞く機会はあってもセルフケア向上のための支援を受ける機会があるとは限らない。そこで、糖尿病看を専門とする看護師が地域の医療機関と協同して患者教育を担当する看護師の出張システムを構築しようと試みている。対象者は、予備群から透析予防にかかわる重症化予防まで担当できる相談室として発展することを目指している。

３．３－４　各種研究会活動

（１）地域看護学研究会

①　概要

本研究会は、地域看護の実践現場で遭遇する課題を研究的な視点から捉え、実践力を高めることを通して、地域の人々へのより適切な支援に資することを目的としている。

本年度は、地域看護の現場におけるトピックスをとりあげ、研究的な視点から意見交換し、実証に必要な統計の基礎と応用を学んだ。また、今までの学びを活かして、中山間地域における地域包括ケアシステムの課題について関係者と検討した。

②　実績

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第1回	6月9日(土) 10 ～15時 岡山県立大学保健福祉学部棟 6511教室	地域看護のトピックスと統計	新見公立大学 健康科学部 看護学科 矢嶋祐樹 准教授	地域看護の現場におけるトピックス(児童相談所保健師の能力、保健師の連携協働能力、病院看護師の退院支援実践能力など)をとりあげ、研究的な視点から意見交換し、実証に必要な統計の基礎と応用を学んだ。この成果は、現場関係者に還元できるよう整理しているところである。	9名
第2回	3月7日(木) 13時～17時 岡山市御津老人福祉センター	御津地域における地域包括ケアシステムの現状と課題	保健センター及び地域包括支援センター保健師、社会福祉協議会関係者等	過疎化する岡山市北区(旧御津町)の保健・医療・福祉等関係者と共に現状と課題を明らかにする検討を行った。	9名

③　今後の展望と課題

過疎化する岡山市北区御津地域における地域包括ケアシステムの構築・推進をめざし、保健・医療・福祉・教育・労働等、包括的な取り組みを検討し、住民主体による互助を核とした社会資源の開発をめざす。

（２）コミュニティ家族ケア研究会

①　概要

本研究会は、多職種が連携し(IPE)、地域や学校で生活している子どもとその家族の心身の健康を支援することを目的として活動している。支援策を検討するために調査を行い、その成果を基に具体的な支援策を立案し、実施後の効果を測定している。また、研究や実践の成果を学会等で公表することにより、社会に貢献している。現在のメンバーは、大学や高校に勤務している助産師・看護師・養護教諭5名である。

今年度は、昨年度日本学校保健学会にて発表した研究「月経が女子高校生の学校生活に与える影響と教育的支援の検討」を学会誌に投稿するための活動と高校生のメンタルヘルスに関連した研究を主に行い、生活訓練事業所所長の講演会を開催した。高校生への調査結果は次年度に学会発表予定、また、結果を基に健康教育リーフレットの作成をして高校生の健康教育に役立てる予定である。

② 実績

	日・場所	内容	参加者
第1回	4月28日(土)12:30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	今年度の活動計画の検討	5名
第2回	5月19日(土)12:30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	高校生のメンタルヘルスに関する研究について、 論文投稿について、リーフレット作成について	5名
第3回	6月30日(土)12:30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	論文投稿の内容について、 高校生のメンタルヘルスに関する研究について	5名
第4回	7月21日(土)12:30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	高校生のメンタルヘルスに関する研究について、 投稿論文の検討	5名
第5回	9月8日(土)12:30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	高校生のメンタルヘルスに関する研究について、 投稿論文の検討、HPの更新について	5名
第6回	10月13日(土)12:30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	「地域版シーズ集」作成に係る原稿作成について、 高校生のメンタルヘルスに関する研究について、 投稿論文の検討	4名
第7回	11月18日(日)12:30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	平成30年度研修会計画、 高校生のメンタルヘルスについて、投稿論文の検討、 「地域版シーズ集」への原稿提出について	3名
第8回	12月22日(土)12:30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	高校生のメンタルヘルスケア研究の進捗状況、 今年度の予算執行について	3名
第9回	1月27日(日)12:30～ 平成30年度研修会の実施 岡山県立大学共通棟(東) 8901講義室	講演「子どもと家族のメンタルヘルスケア～地域の事例を通して感じていること～」生活訓練事業所所長大西万理子氏、交流会。第9回研究会開催、高校生のメンタルヘルスに関する研究の進捗状況確認と調査計画	8名
第10回	2月16日(土)12:30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	投稿論文の検討、 高校生のメンタルヘルスに関する研究の進捗状況確認と調査計画について	5名
第11回	3月30日(土)12:30～ きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン	今年度予算執行報告、 次年度活動計画について	4名

③ 今後の展望と課題

次年度は、高校生のメンタルヘルスに関する調査の実態と分析、研究成果の学会発表、論文作成、月経教育に関する教材(リーフレット)作成も予定している。また、研修会では、外部講師を招いた講演会の実施を検討している。課題は、研究会メンバーの増員である。

（３）岡山医療安全研究会

①　概要

本研究会は、研究会の開催、研究活動、会員相互の緊密な交流及び情報交換をとおして、地域の医療安全の推進に努めることを目的とした研究会である。

本年度は、昨年度に引き続き RCA 手法をテーマとした研修会と、認知症患者の転倒予防をテーマとしたシンポジウムを開催した。県内全域の医療施設から多数の参加者がみられた。

研究会スタッフとして、倉敷・総社・井原地域の医療施設における医療安全管理者 6 名に企画・運営の活動に継続的に加わっていただいている。シンポジウムのテーマの検討や研究について実行委員会を開催し、地域との幅広い交流を行っている。

②　実績

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第1回	12 月 8 日（土） 岡山県立大学	RCA 手法を学ぶ！第 4 弾	平本 美津恵氏 （川崎医科大学総合医療センター 看護部看護副部長）	インシデントの分析ツールである RCA（Root cause analysis）の基礎的知識に関する講義後、5～6 名のグループに分かれて演習を行った。演習は、インシデント事例を RCA に基づいて分析し、対策を立て、最後に、その成果を発表し、参加者全員で共有した。	65 名
第2回	3 月 16 日（土） 岡山国際交流センター	認知症患者の転倒予防～医療安全の視点から～	藤原 康人氏 （パラマウントヘルスケア総合研究所 主席研究員） 梅原 里実氏 （高崎健康福祉大学看護実践開発センター 専任教員・認知症看護認定看護師） 寺田 整司氏 （岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学教室 准教授）	「転倒・転落の予防対策～メーカーの立場から」 「認知症患者の転倒を予防する～看護師のアセスメントとケア」 「認知症患者の転倒予防～専門医の視点から～」	148 名

③今後の展望と課題

次年度は、引き続き「転倒予防」をテーマとしたシンポジウムの開催を予定している。平成 29 年度「多職種で取り組む！転倒転落予防」、平成 30 年度「認知症患者の転倒予防～医療安全の視点から～」をテーマとして取り組んでおり、継続的に「転倒予防」に向けた活動を行っていく。また、研究会スタッフとして、倉敷・総社・井原地域の医療施設における医療安全管理者 6 名に企画・運営の活動に継続的に加わっていただいており、現場の視点に基づいた企画、研究の検討を進めていきたい。

（４）メンタルヘルス研究会

① 概要

岡山県内の福祉・行政・教育関係者と当事者のメンタルヘルスの現状に関する情報の共有と相互支援ネットワーク構築をねらいとして、サロン活動と研修会を開催した。

② 実績

スヌーズレン歌声広場（会場：県立大学　チュッピー広場他）

多感覚刺激装置（スヌーズレン）と集団歌唱を活用した発達障害児のストレスマネジメント支援の実践方法を子育て関係者、保護者と共有することをねらいとして、年 4 回実施した。

場所：チュッピー広場　時間：13 時から 15 時

※本学講堂「人と人がつながるコンサート 2018」に出演

参加者、子どもと保護者　計 15 名程度、教員 2 名

第 1 回　5 月 12 日（土）

第 2 回　9 月 22 日（土）

※第 3 回 10 月 19 日（土）

第 4 回　1 月 26 日（土）

③ 今後の展望と課題

本年度は、家族の要望で歌遊びを中心とした乳幼児向けのプログラムを実施した。

来年度は、一部音楽ボランティアとの共催を企画・運営する。

（５）エンド・オブ・ライフ・ケア研究会

① 概要

本研究会は、エンド・オブ・ライフ・ケア（最後の日々の痛みや苦しみが充分に治療され、本人が望むとおりにすごせるように支援する）に関する基本事項を網羅的に学習して、受講者自身の看護実践能力を高め、患者・家族に質の高い緩和ケアやエンド・オブ・ライフ・ケアを提供することができることを目的としている。本研究会の交流を通して認定看護師・看護師・介護士・学生が共に学び合える場となるよう事例検討や共同研究、外来講師による学習会を行い、施設を超えてつながりも強まってきた。今年度は、アドバンスケアプランニング（以下 ACP）に焦点化した。

② 実績

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第1回	5月19日(土) 13:30～15:00	1. オリエンテーション 2. 事例検討	名越恵美 (岡山県立大学)	1. 今年度の予定 2. 事例検討:アドバンスケアプランニング(ACP)	10名
第2回	7月14日(土) 13:30～15:00	在宅での(ACP)	豪雨災害により中止		
第3回	9月29日(土) 13:30～15:00	アドバンスケアプランニングにおける多職種連携	江田純子 (訪問看護ステーション連絡協議会 会長)	「在宅看護における ACP と多職種連携」 ・在宅移行への意思決定を支えるための方略と多職種連携の在り方について 事例を交えながら講義された。	9名
第4回	1月26日(土) 13:30～15:00	がん患者のアドバンスケアプランニング	藤田千尋 (倉敷市立市民病院・緩和ケア認定看護師)	「がん患者の意思決定を支える ACP」 エンド・オブ・ライフ期のがん患者の QOL を高めるために ACP をどのように実施しているか事例を交えて講義された。	33名
第5回	3月9日(土) 13:30～15:00	1. 研究発表	1. 奥田美香 (岡山県立大学大学院) 2. 行本加奈子・瀬尾友里恵(岡山県立大学) 3. 津曲真弥 (岡山県立大学大学院)	1.「肝がん患者の母を支える娘の体験に関する研究」 2.「訪問看護師の在宅看取りにおける家族支援―家族支援の構造化―」 3.「看護師が臨床判断力を向上する過程」	11名

③　今後の展望と課題

地域包括ケアシステムにより、在宅看取りが増加しつつあり、意思決定を支援するための方略を考え続けることが必要である。また、利用者様に関わる職種は介護士・ソーシャルワーカー・リハビリテーション療法士と多岐におよぶ。来年度は、今年度の継続としてACPのみならず、多職種連携を強化していく。

（６）　看護事例研究会

①　概要

患者へのかかわり方に解決志向アプローチを用いた効果について、平成25年から認定看護師教育センターの修了生を中心に、多施設で共同研究を行っている。継続して、その効果について共有し、新たなかかわり方を工夫する場として、2カ月に一度の事例検討会を継続している。臨床での疑問を研究疑問にして、看護研究の支援を行っている。

本学の教育課程を修了した糖尿病看護認定看護師を対象とした年1回の継続研修会を開催している。

②　実績

1. 事例研究会

①5月28日（月）　11名　事例検討会
②7月24日（火）　 9名　事例検討会
③7月28日（土）　 5名　事例検討会
④10月2日（火）　 7名　事例検討会
⑤3月26日（火）　 6名　事例検討会

2. 認定看護を対象としたフォローアップ研修　　参加者　56名

日時：3月9日（土）10:00～15:00
会場：岡山県立大学8903教室
講演1「糖尿病患者のセルフケア能力を活かす支援について」
講師：清水安子先生（大阪大学大学院　教授）
講演2「これからの医療で求められる糖尿病看護認定看護師の役割」
講師：岡﨑真由美先生（入退院支援室長　糖尿病看護認定看護師）

③ 今後の展望と課題

臨床の看護師が困難と感じる事例について、解決志向アプローチを用いて検討することで、理論と実践の融合を実感できる貴重な機会となり、看護師の思考の変化が看護の質向上に寄与している。また、事例検討を継続することで、現場の問題を多方向から検討し、研究的にまとめる機会になっている。

（７）子ども福祉研究会

①　概要

子ども福祉の領域は、様々な専門家や支援者がかかわる領域であり、支援の共有、他職種理解といったところに課題が生じやすい。そこで、研究会では、子ども・子育て支援にかかわる福祉・教育関係者を対象に、地域の子ども・子育てのニーズを共有し、研究的な視点から子ども・子育て支援のあり方を見直し、課題を探求し、子ども・子育て支援のスキルアップにつなげていくことを目的として活動する。

とりわけ平成30年度は、「評価」「効果」をキーワードに、実践における支援評価（効果）について検討することを目的に研究会を開催し、開催毎に参加者の実践活動を通した効果的支援要素やアウトカム、課題の抽出を図り、支援

評価(効果)の検討を深めていった。

② 実績

	日・場所	テーマ	内容	参加者
第1回	5月30日(水) 18:30～20:30 保健福祉学部棟 6514教室	効果的支援の意識づけ (講師) 保健福祉学科 周防美智子	支援評価について講話をしたのち、現場事例を通して、評価項目を抽出した。評価項目の抽出することで効果的支援の意識付け、支援者としての客観的評価について再確認を行った。	11名
第2回	6月27日(水) 18:30～20:30 保健福祉学部棟 6514教室	支援目的と目標について	支援目的・目標について参加者で協議する。フィールドによる支援目的・目標の定義化を図る。効果的支援要素の検討を行い、評価項目を抽出した。効果的支援要素を検討することで、日頃の支援を客観的に捉えることを促した。	8名
第3回	11月22日(木) 18:30～20:30 保健福祉学部棟 6514教室	評価項目の確認、評価フィールドの選定	前回までに抽出された評価項目の確認を行った。支援のフィールド別に評価のための効果的支援要素抽出した。後半の研究会での研究フィールドを選定(地域子育て支援拠点)し、研究スケジュールを作成。実践と研究がつながり、支援評価(効果)を検討することで支援の質の向上を図る。	8名
第4回	12月21日(金) 16:30～18:30 保健福祉学部棟 6514教室	地域子育て支援拠点における支援評価の検討	地域子育て支援拠点の実践について事例を通して協議し、支援効果と課題について抽出を行った。課題の改善について必要な活動ツールを検討した。	9名
第5回	1月25日(金) 14:00～16:30 保健福祉学部棟 6514教室	地域子育て支援拠点活動の効果と課題	地域子育て支援拠点の実践について事例を通して協議し、支援効果と課題について抽出を行い、支援評価票作成の検討を行った。今後の研究の方向性を参加者で共有した。	9名
第6回	1月30日(水) 14:00～16:30 きらめきプラザ会議室	地域子育て支援の効果と課題 (講師) 保健福祉学科 周防美智子	地域貢献助成費(2017)「岡山県の地域子育て支援拠点の支援に関する研究」の結果をもとに「地域子育て支援の効果と課題」についての研修を行った。研修後、6グループに分けて、支援の目標や課題などについて検討し整理した。	29名

	日・場所	テーマ	内容	参加者
第7回	2月28日(木) 14:00～16:30 保健福祉学部棟 6514教室	アセスメントシートの検討	他領域のアセスメントシートを整理し、地域子育て支援拠点の視点を活かしたアセスメントシートについて検討した。	8名
第8回	3月29日(金) 14:00～16:30 保健福祉学部棟 6514教室	アセスメントシートの検討	アセスメントシートの項目を検討し試作する。試作シートを現場で使用し、次回の研究会で検討を行いシートの作成を目指す。	9名

③　今後の展望と課題

本年度は、「評価・効果」をキーワードに研究を進め、アセスメントシートの作成を目指した。来年度は、アセスメントシートの検討を進め、支援に活用できるアセスメントシートの作成を目指す予定である。

３．３－５　岡山県立大学子育てカレッジ

（１）概要

大学を核とした産・学・官・民協働による子育てカレッジは、岡山県独自の子育て支援の取組である。開設 9 年目となる今年度は、親子交流広場と授業との連携や親子交流のための企画を推進し、また専門的な学びの機会である「保育ステップアップ講座」、地域の子育て支援活動を支えるネットワーク研修会等を実施した。

（２）実績

①　子育てカレッジの実施体制

子育てカレッジを地域連携推進センターの事業に位置づけ、その運営は「県大そうじゃ子育てカレッジ実行委員会」が中心となって実施している。実行委員会は、本学教職員、地域子育て支援者、総社市、備中県民局、チュッピーひろば利用者等で構成され本年度は計 4 回の実行委員会を開催し事業の充実を図った。

②　子育てカレッジの取組内容

1. 大学の学生が参加して実施する親子交流等
2. 保育士、幼稚園教諭、地域の子育て支援サービスの提供者に対する質的向上の取組
3. 子育てや子育て支援に関する相談の実施
4. 子育てや子育て支援に関する情報発信
5. 子育て支援に関するボランティア・NPO や企業の活動への支援
6. 地域の子育て支援関係者の情報交換
7. その他子育て関連事項の調査等

③　親子交流広場の設置

親子交流広場（チュッピーひろば）を週に 1 回程度、年間 54 日開設し、481 組の親子（総社市内：371 組、市外：110 組）の利用があった。

また、ひろばと連携して栄養学科、保健福祉学科子ども学専攻学生の実習や、授業成果発表会等を実施した。

○協働授業

日	テーマ	授業との関係	担当教員
6 月 5 日（火）	おはなしの会 2018	「保育内容Ⅰ（言葉）」とひろばとの協働授業	樟本千里
8 月 2 日（木）	子どものためのアートパフォーマンス 2018	「保育内容Ⅱ（総合表現）」「音楽Ⅰ（声楽）」「体育Ⅰ（表現運動）」など、表現系授業の成果発表会	新山順子 岡﨑順子 樟本千里
9 月 14 日（金）	チュッピーひろばの夏まつり	「保育内容Ⅰ（健康）」とチュッピーひろばとの協働授業	新山順子
10 月～11 月のひろば開設日	チュッピーひろばの参観	「保育内容 I（人間関係）」とひろばとの協働授業	京林由季子
11 月 21 日（水）	チュッピーひろばでからだわくわく遊び	授業「体育Ⅱ」（運動遊び）」とひろばとの協働授業	新山順子
12 月 11 日（火）	親子で楽しむミニミニクリスマス	「保育内容Ⅰ（人間関係）」とチュッピーひろばとの協働授業	京林由季子

日	テーマ	授業との関係	担当教員
7 月 27 日(金)	赤ちゃん先生	「乳児保育Ⅱ」とチュッピーひろばとの協働授業	柏まり

ほか

○公衆栄養学実習Ⅰ

日　時:平成 30 年 9 月 4 日(火)、6 日(木)、11 日(火)

場　所:岡山県立大学学部共通棟(西)5128 遊戯室(チュッピーひろば)、5127 会議室

内　容:ライフステージ別演習の一環として備中県民局及び総社市の子育て支援事業の現状や支援体制への理解と母子の実態について学ぶため、子育てひろばのスタッフや参加している母親及びその子どもとの交流を図った。

参加者:親子 31 組(3 日間延べ)、栄養学科 3 年生 4 年生 42 名

担　当:保健福祉学部栄養学科　久保田恵

○スヌーズレン歌声広場

ア　定例会

日　時:平成 30 年 5 月 12 日(土)、6 月 10 日(日)、9 月 22 日(土)、10 月 6 日(土)、
平成 31 年 1 月 26 日(土)　　13:00～15:00

場　所:チュッピーひろば

内　容:童謡やわらべうた、音楽遊び等による交流

参加者:毎回 15 名程度

イ　人と人がつながるコンサート

日　時:10 月 20 日(土)

場　所:講堂

内　容:歌、楽器演奏等による交流

参加者:26 名

担　当:保健福祉学科　岡崎順子　坂野純子

④　保育ステップアップ講座

子育てカレッジの取組内容 2 として、保育士、幼稚園教諭、その他の子育て支援者に対し、今日的なテーマや課題、現場の保育に直結する実践的な講座を大学内で開催した。

平成 30 年度保育ステップアップ講座

日　時:平成 30 年 7 月 21 日(土)16:00～17:30

場　所:岡山県立大学　リズムダンス室

テーマ:子どものための打楽器演奏と指導法を学ぶ音楽ワークショップ
Sa･Ru パーカッションデュオとともに

講　師:　Sa･Ru パーカッションデュオ　　ハンス･ルドルフ　出井紗希子

参加者:一般 20 名･子ども学専攻学生 15 名･本学教員 2 名

⑤　総社市委託：子育て支援者研修事業

総社市から委託を受け、親子支援および子育て支援者研修事業として下記の事業を実施した。

ア　NP(ノーバディーズパーフェクト)プログラム

日　時:平成 30 年 9 月 7 日(木)、14 日(木)、21 日(木)、28 日(木)、
10 月 5 日(木)、12 日(木)、平成 30 年 2 月 27 日(火)　計 7 日 10:00～12:00

場　所:岡山県立大学　講堂内会議室

参加者:12 名(延べ 61 名)、延べ託児数:71 名、学生ボランティア 26 名

イ　親子で楽しむ音楽会　～0歳児からのコンサート～

日　時:平成 30 年 11 月 25 日(日)11:00～12:10

場　所:岡山県立大学　講堂

内　容:乳幼児期の子育て期にある親子に、音楽および歌を通じた親子交流の大切さを伝えることを目的に、岡山フィルハーモニック管弦楽団の協力を得て親子で楽しめるクラシックコンサートを開催した。モーツァルトが作曲したオペラ「フィガロの結婚」、ヨハン・シュトラウス 2 世作曲の「ポルカ観光列車」などのクラッシックの名曲の演奏に加え、楽器のお話やビゼー作曲の「カルメン」を子どもが指揮する体験コーナーなどもあり、オーケストラによる美しい楽器の響きや豊かな音量による生演奏を鑑賞した。子ども学専攻の学生は全体の司会進行を務めると共に、「ミッキーマウスマーチ」や「さんぽ」などの子どもたちにも馴染みのある曲をみんなで元気よく歌うコーナーに歌のお兄さんお姉さんとして登場し、舞台上やフロアーでオーケストラの伴奏のもと歌や踊りを披露した。学生が扮するチュッピー、ももっち、うらっちが登場し愛嬌を振りまくなど、会場も大いに盛り上がった。

参加者:約 610 名

ウ　総社市子育て支援ネットワーク研修会

日　時:平成 31 年 3 月 15 日(金)　10:00～12:00

講　師:岡山県立大学　保健福祉学部保健福祉学科　准教授　中野菜穂子
子育て応援こっこ　代表　福光節子

場　所:岡山県立大学　学部共通棟(西)　5108 講義室

内　容:「ネットワークで創る子どもの安心・安全～西日本豪雨から考える」をテーマに、中野准教授から「安心・安全って何だろう」のタイトルで講話を行い、福光氏から「被災地の子どもの安全・安心な居場所提供事業について」の報告があった。その後、参加者全員でのワークショップにより安心・安全とネットワークについて理解を深めた。平素のネットワーク形成が災害時の助け合いに機能することがそれぞれの被災時の体験の交流を通して共有・確認できた。

参加者:17 名

⑥　備中県民局関連事業

ア　備中子育てカレッジネットワーク事業

日　時：平成 30 年 9 月 28 日（金）場　所：早島町児童館

講　師：岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科　准教授　柏まり

テーマ：子どもの心に寄り添う「子育ち」支援

対　象：児童館利用児童保護者、サポート会員及び近隣の保育者

イ　備中子育てカレッジ学生ネットワーク推進事業

日　時：平成 30 年 10 月 8 日（月・祝）　10:00～12：00

場　所：笠岡市民会館

テーマ：遊ぼう・笑おう・やってみよう！集まれももっこキッズ

内　容：製作遊び、コーナー遊び、ダンス、親子ふれあい遊びなど

日　時：平成 30 年 11 月 23 日（金・祝）　10:00～12：00

場　所：早島町町民総合会館「ゆるびの舎」

テーマ：遊ぼう・笑おう・やってみよう！集まれももっこキッズ

内　容：製作遊び、コーナー遊び、ダンス、親子ふれあい遊びなど

⑦　視察等

ウソン大学スタディツアー

日　時：平成 30 年 7 月 10 日（火）

場　所：チュッピーひろば及びリズムダンス室

内　容：本学の特徴と子育てカレッジの概要について説明した後、チュッピーひろばへ案内した。ひろばでは本学の 2 年生が、協同授業（「お話の会」）の模擬として保育活動を行った。チュッピーひろばに参加して子どもや保護者とともに、手遊び歌や、ペープサート劇、制作遊びに参加してもらい乳幼児とのかかわりをもつ時間や、保護者や広場のスタッフに質問をする時間等を設けた。その後、本学学生との交流として、2 年生の 5 名と大学の様子や、授業や実習等の様子、将来についての展望について、話す時間を設けた。

（３）評価と来年度の課題

開設 9 年目の今年度も、これまでの産・学・官・民の協働による取り組みを引き続き行ったが、これまでの取り組みの実績が確認されたとともに、その実績をもとに新たな展開を作ることができた。

大学構内に開設した「チュッピーひろば」は、「親子への支援」と「学生の学びの実践」の両面による有効な活用への評価が定着しつつあると考える。「親子で楽しむ音楽会～0歳児からのコンサート～」は乳幼児対象の希少な音楽会として盛況であり、参加者からも継続を臨む声が多いが、今後は経費面も含め継続可能な音楽会の在り方について検討したいと考えている。「保育ステップアップ講座」では、今年度の「保育ステップアップ講座」は、海外で活躍されている音楽家を迎えて、講師のミニ・パフォーマンス鑑賞や参加者全員での演奏など、楽しく実践的な講座を開催することができた。現職保育者の保育の質向上に直結する内容で、事後アンケートにおいても大変好評であった。

また「総社市子育て支援ネットワーク研修会」のように、地域の子育て支援活動を支える取り組みが学内で行われることの意義は大きい。「おかやま子育てカレッジ」備中県民局管内ネットワーク会議には、本年度も実行委員会および学生が参加し、他大学との意見交換が活発になされた。併せて「備中子育てカレッジ学生ネットワーク推進

事業」に子ども学専攻 3・4 年生有志学生が企画段階から参加し、カレッジ間ネットワークの推進を図るとともにカレッジのない備中管内市町において子育て応援イベントを行い、好評を得た。

今年度特筆すべき成果は、平成 30 年西日本豪雨被害後の被災地支援として、岡山県子ども未来課が実施した「被災地児童の安心・安全な居場所提供事業」に子育てカレッジの資源を提供し被災地の子ども支援を行ったことである。子どもの居場所としての機能を備えたチュッピーひろば(5227 遊戯室)をメイン会場として提供し、チュッピーひろば運営団体の子育て応援こっこ代表者が保育の責任者となった。また、子ども学専攻の学生が学生ボランティアとして連日子どものケアにあたった。迅速な対応と子ども主体の支援内容は、利用親子をはじめ各方面から高く評価された。平素より地域と連携した子育て支援の向上にむけた取り組みの蓄積が災害時における大学機能を活用した支援に応用できることが示された。

今後も、協働による地域貢献と学生の学びの「場」の創造を念頭に、学生の更なる参加の推進と産・官・学・民一層の連携を視野に事業展開する必要がある。

４．　外部資金

４．１　平成 30 年度の実績

４．２　科学研究費

４．３　今後の課題

４．１　平成 30 年度の実績

本学の外部資金は、科学研究費、共同研究費、受託研究費、教育研究奨励寄附金等の 4 つに分類される。平成 19 年度から平成 30 年度までの合計獲得実績は、図 1 と表 1 のとおりで、平成 30 年度は、前年度と比較して獲得件数は少し減少したものの、獲得金額は、増加した。

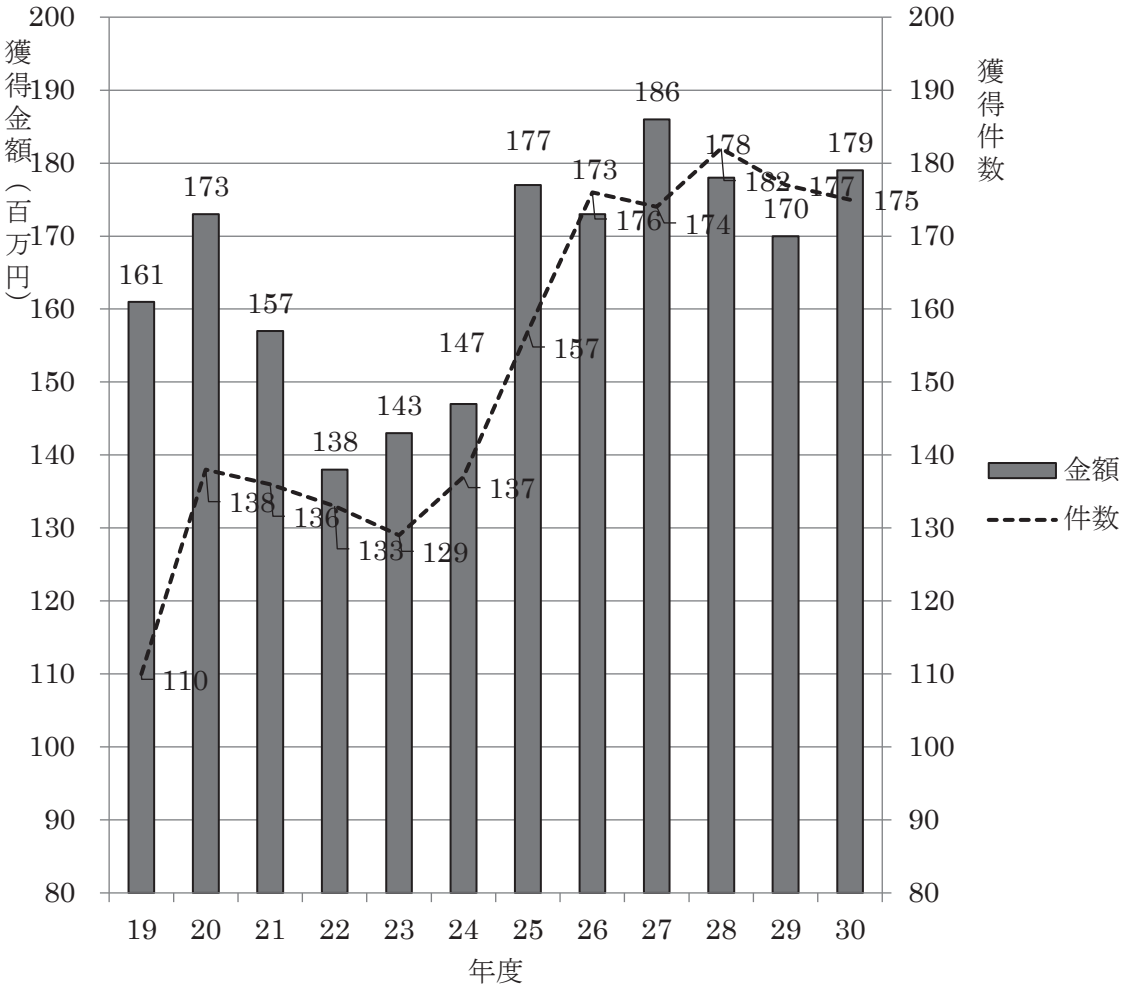


図 1　外部資金獲得実績の推移

表 1　外部資金獲得実績の推移（金額の単位は百万円、それ未満は四捨五入）

年　度	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
件　数	110	138	136	133	129	137	157	176	174	182	177	175
金　額	161	173	157	138	143	147	177	173	186	178	170	179

外部資金の種類別のデータは表 2 のとおりである。

表 2　外部資金獲得実績（金額の単位は千円で、千円未満切捨）

年 度	科学研究費		共同研究		受託研究		教育研究奨励寄附金等		合計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
19	34	73,725	23	11,575	21	61,499	32	13,782	110	160,581
20	39	84,503	31	12,100	38	62,248	30	14,636	138	173,487
21	35	67,376	31	12,125	45	67,397	25	9,639	136	156,537
22	42	70,110	33	13,490	26	39,027	32	15,427	133	138,054
23	47	73,177	24	8,338	26	40,633	32	20,873	129	143,021
24	51	84,727	32	10,288	26	35,514	28	16,012	137	146,541
25	57	87,100	38	20,928	23	43,923	39	25,453	157	177,404
26	55	90,381	42	24,536	29	32,592	50	25,787	176	173,296
27	57	82,917	46	31,649	27	52,959	44	18,153	174	185,678
28	67	89,440	48	21,000	18	45,926	49	21,716	182	178,082
29	55	78,151	46	24,366	24	38,781	52	29,632	177	170,930
30	**64**	**90,675**	**43**	**17,872**	**20**	**48,678**	**48**	**22,639**	**175**	**179,864**

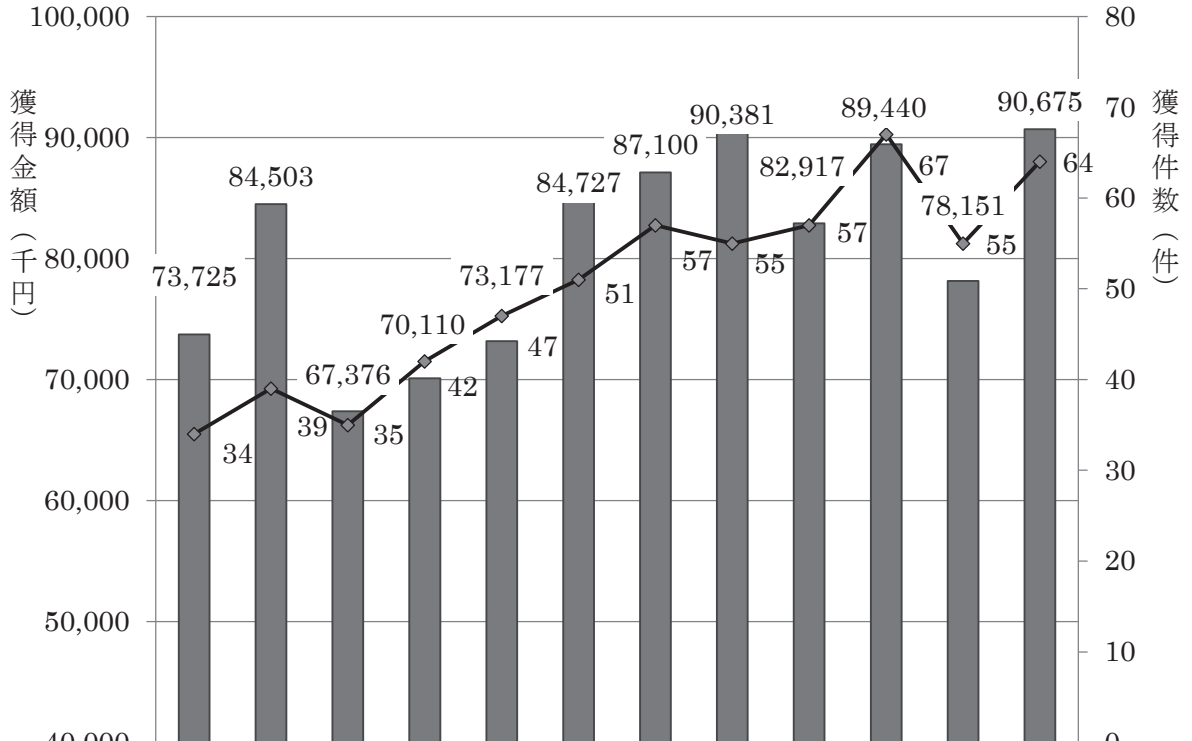
表 2 中で網掛けの部分が過去最高の件数と金額であるが、科学研究費の獲得金額は過去最高になった。第 2 期中期計画、平成 30 年度計画及び獲得実績の一覧は表 3 のとおりである。平成 30 年度計画と獲得実績を比べると、共同研究及び教育奨励寄付金等の件数は目標を達成したが、獲得金額は目標に及ばなかった。受託研究は、件数、獲得金額ともに目標に及ばなかった。

表 3　中期計画および年度計画の目標との比較（金額の単位は千円）

種別	中期計画(最終年度:)H30)		H30 年度計画		現状	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	40 以上	16,000 以上	40 以上	30,000 以上	43	17,872
受託研究	40 以上	70,000 以上	40 以上	55,000 以上	20	48,678
教育研究 奨励寄附金等	40 以上	16,000 以上	40 以上	25,000 以上	48	22,639
合計	120 以上	102,000 以上	120 以上	110,000 以上	111	89,189
科学研究費	90 以上	124,000 以上	55 以上	78,151 以上	64	90,675

４．２　科学研究費

科学研究費は獲得件数、獲得金額の推移は図 2 のとおりであり、平成 30 年度は、前年度と比較すると、獲得件数、獲得金額はともに増加した。



	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
金額	73,7	84,5	67,3	70,1	73,1	84,7	87,1	90,3	82,9	89,4	78,1	90,6
件数	34	39	35	42	47	51	57	55	57	67	55	64

図 2　科学研究費の獲得推移

４．３　今後の課題

これまで述べたとおり、本学の外部資金は、平成 30 年度は、前年度と比較して獲得件数は少し減少したものの、獲得金額は、増加した。科学研究費の獲得金額は、過去最高になった。

今後、運営費交付金等の削減に伴う研究資金不足により研究の質を低下させないためにも、外部資金及び競争的資金の獲得をさらに進めるための環境づくり・組織づくりを継続していく必要がある。

巻末資料

２．３－３　各種委員の応嘱（行政関係）

講師派遣（行政関係）

２．６－１　各種委員の応嘱（行政関係以外）

講師派遣（行政関係以外）

非常勤医師（行政関係以外）

非常勤講師・役員（行政関係以外）

参考資料

２．３－３　各種委員の応嘱（行政関係）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
池田　隆英	岡山県・岡山市教育委員会	岡山県・岡山市教員等育成協議会委員
池田　理恵	総社市	平成 30 年度総社市妊産婦支援検討会議スーパーバイザー
伊東　秀之	岡山県	岡山県環境審議会委員
		岡山県農林水産総合センター生物科学研究所外部評価委員会委員
井上　幸子	岡山市教育委員会	岡山市問題行動等対策委員会委員
	総社市	総社市障害者施策推進協議会委員
		総社市障害支援区分認定審査会委員
井村　圭壮	総社市	総社市国民健康保険運営協議会委員
岩満　賢次	愛知県小牧市	小牧市高齢者保健福祉計画推進委員会の委員
川上　祐生	岡山県	岡山県農林水産総合センター農業研究所外部評価委員会委員
京林　由季子	総社市	総社市人権教育推進協議会委員
桐野　匡史	総社市	総社市障害支援区分認定審査会委員
		総社市障がい者千五百人雇用委員会委員
久保田　恵	岡山県	岡山県食の安全・食育推進協議会委員
近藤　理恵	岡山県	岡山県人権政策審議会委員
		岡山県公益認定等委員会委員
	総社市	総社市特別職報酬等審議会委員
		総社市子ども・子育て会議委員
		平成 30 年度全国屈指福祉会議
		平成 30 年度総社市総合計画審議会委員
	笠岡市	笠岡市子ども・子育て推進会議委員
坂野　純子	岡山県	岡山県職業能力開発審議会委員
	総社市	総社市男女共同参画推進審議会委員
佐々木　純子	岡山県	岡山県建築審査会委員（公衆衛生分野）
佐藤　和順	（独）大学改革支援・学位授与機構	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構学位審査会専門委員
	岡山県	岡山県子ども・子育て会議委員
		岡山県備中県民局協働事業審査委員会委員
	真庭市	真庭市保育園・幼稚園整備計画検討委員会委員

氏名	従事先	従事内容
佐藤　ゆかり	浅口市	浅口市介護認定審査会委員
周防　美智子	岡山県	「顔が見える子どもの人権サポーター事業」に係る子どもの人権サポーター
		「スクールソーシャルワーカーを活用した行動連携推進事業」におけるスーパーバイザー
	岡山県危機管理課	岡山県国民保護協議会委員
	岡山県教育庁	不登校・長期欠席対象者支援検討委員会委員
	総社市	総社市都市計画審議会委員
		総社市立地適正化計画策定委員会委員
	奈良県教育委員会	奈良県スクールソーシャルワーカー活用事業に係るスーパーバイザー
	奈良県生駒郡三郷町	三郷町介護保険運営協議会委員
	滋賀県高島市教育委員会	新旭南小学校第三者委員会にかかる委員
住吉　和子	岡山市	岡山市国民保護協議会委員
		岡山市防災会議委員
高戸　仁郎	岡山県	倉敷、井笠地区福祉有償運送運営協議会
		岡山地区福祉有償運送運営協議会会長
		備前市・赤磐市・和気郡和気町福祉有償運送運営協議会委員及び会長
	岡山市	岡山市スポーツ推進審議会委員
	倉敷市	倉敷市バリアフリー市民会議委員
	浅口市	浅口市障害支援区分認定審査会委員
高橋　　徹	岡山県	岡山県公衆浴場入浴料金審議会委員
高橋　吉孝	総社市	総社市復興ビジョン委員会
竹本　与志人	美作市	美作市介護保険事業計画策定委員会委員
	早島町	認知症初期集中支援チーム検討委員会委員
中野　菜穂子	岡山県	岡山県社会福祉審議会委員
中村　　光	岡山県	岡山県介護保険審査会委員
二宮　一枝	岡山県	岡山県自然環境保全審議会委員
		岡山県医療審議会委員
		岡山県都市計画審議会委員
		岡山県医療費適正化推進協議会委員
		岡山県備中保健所運営協議会委員
	総社市	総社市建築審査会委員
		総社市医療費適正化推進委員会委員

氏名	従事先	従事内容
二宮　一枝	総社市	総社市介護保険運営協議会委員
		総社市自殺対策連絡協議会委員
		平成 30 年度全国屈指福祉会議
	吉備中央町	吉備中央町地域福祉計画策定委員会
	早島町	早島町子ども・子育て会議委員
平松　智子	岡山県	健康おかやま 21 推進会議委員
		第 1 回おかやま健康づくりアワード 2018 出席
	総社市	総社市働く婦人の家運営委員会委員
藤井　保人	総社市	総社市男女共同参画推進審議会委員
村社　　卓	岡山県保健福祉部	岡山県介護保険審査会委員
		岡山県介護保険制度推進委員会委員
		岡山県保健福祉部指定管理者候補選定委員会委員
	総社市	総社市生涯現役推進協議会
山下　広美	岡山県	岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議委員
山本　登志子	岡山県農林水産総合センター	外部知見活用型・産学官連携研究事業に係る評価委員
樂木　章子	総社市	日本語教育事業運営委員会委員

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
稲井　　寛	岡山県	岡山県高度情報化推進協議会幹事
	岡山市	岡山市文書管理システム及び情報公開システム等構築・保守等包括外部委託総合評価一般競争入札に係る学識経験者
		岡山市ホームページ管理システム構築･保守等包括外部委託総合評価一般競争入札に係る学識経験者
尾崎　公一	岡山県	岡山県大規模小売店舗立地審査会委員
	総社市	総社市環境審議会委員
菊井　玄一郎	総務省GCP研究開発委員会	「多言語音声翻訳技術」研究開発運営委員会委員
	(独)日本学術振興会	平成 30 年度特別研究員審査会委員
	岡山県	岡山県高度情報化推進協議会幹事
		おかやま IoT 推進ラボ協議会委員
		岡山県本人確認情報保護審議会委員
	井原市	井原市情報化推進懇話会委員

氏名	従事先	従事内容
齋藤　誠二	内閣府政策統括官	平成 30 年度心の輪を広げる障害者理解促進事業(「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」)審査委員
佐藤　洋一郎	備前市	行政評価市民委員会市民委員
滝本　裕則	文部科学省　科学技術・学術政策研究所	科学技術専門家ネットワーク専門調査員
但馬　康宏	文部科学省　科学技術・学術政策研究所	科学技術専門家ネットワーク専門調査員
渡辺　富夫	岡山県	岡山県工業技術センター外部評価委員会委員

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
岩本　弘光	真庭市	真庭市指定管理者選定審議会委員
嘉数　彰彦	岡山県	岡山芸術文化賞選考委員会委員
	瀬戸内市	瀬戸内市景観審議会委員
北山　由紀雄	岡山県	「宇野港フォトコンテスト 2018」審査員長
齋藤　美絵子	岡山市	岡山市浸水対策推進協議会委員
		岡山市景観審議会委員
		岡山市都市・消防政策審議会委員
		路面電車乗り入れを含めた岡山市駅前広場デザイン検討業務委託企画競争審査委員会委員
		岡山市本庁舎整備検討会委員
		路面電車乗り入れを含めた岡山市駅前広場のあり方検討会　デザイン部会委員
	総社市	総社市放送番組審議会委員
	浅口市	浅口市都市計画審議会委員
柴田　奈美	岡山県	岡山県文化振興審議会委員
	美咲町教育委員会	「第 21 回さくらのうた」俳句部門選者
西川　博美	岡山県	岡山県建築士審査会委員
	岡山市	岡山市環境影響評価審議会委員
	倉敷市	倉敷市都市計画審議会委員
		倉敷市都市景観審議会委員
	総社市	総社市立地適正化計画策定委員
	総社市	総社市空家等対策協議会委員
	早島町	早島町都市計画審議会委員
西田　麻希子	岡山県	「平成 30 年度岡山県統計グラフコンクール」審査員
		「禁煙啓発ポスターコンクール」審査員

氏名	従事先	従事内容
朴　貞淑	倉敷市	STOP 温暖化くらしき実行委員会委員
	三重県亀山市	亀山市総合環境研究センター研究員
福濱　嘉宏	岡山市	岡山市景観審議会委員
	倉敷市	倉敷市都市景観審議会委員
		倉敷市少年自然の家PFI事業選定委員会委員
		倉敷市琴浦公民館建替事業者選定委員会委員
森下　眞行	岡山県	おかやまUDシニアアドバイザー会議委員
		岡山県環境審議会（景観部会）委員
	総社市	総社市吉備線整備方針等検討委員会委員
山下　明美	岡山県	岡山県都市計画審議会委員
		岡山県土地開発審査会委員
		岡山県環境影響評価技術審査委員
	倉敷市	倉敷市都市景観審議会委員
吉原　直彦	岡山県	岡山県屋外広告物審議会委員
	総社市	総社市総合計画審議会委員

２．３－３　講師派遣（行政関係）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
井村　圭壯	岡山県消防学校	消防学校教育課程「社会福祉原論」講師
柏　まり	岡山県備中県民局	早島児童館研修会講師
	岡山市岡山っ子育成局	平成 30 年度岡山市教職員研修講座講師
	美作市教育委員会	美作市子育て講演会及び幼保合同研修会講師
	総社市教育委員会	就学前教育研修会講師
川上　貴代	備中保健所井笠支部	給食施設研修会講師
川下　菜穂子	兵庫県明石市	平成 30 年度新生児訪問等の講師
	新見市	妊孕性講座及び性教育講演会の講師
佐藤　和順	総社市教育委員会	総社市教育研修所幼児教育班研修会講師
	徳島市保育事業協議会	徳島市保育事業協議会理事研修会講師 「今どきの子育てと保育士・保育教諭の役割」
周防　美智子	岡山保護観察所	処遇困難事例に関する事例研究講師 社会復帰調整官及び保護観察官対象講師
	岡山県総合教育センター	岡山県総合教育センター教職員研修講師
	岡山県備中県民局	平成 30 年度備中県民局主任児童委員研修会講師「地域における児童虐待予防と子育て支援」
	津山市教育委員会	津山市教育相談センター鶴山塾「教育講演会」講師
	奈良県立教育研究所	思春期の家庭教育支援研究講座講師
	奈良県 PTA 協議会	平成 30 年度家庭教育研修会講師
	滋賀県高島市子ども未来部	高島市内公私立保育園・幼稚園・認定こども園等職員研修会講師
髙戸　仁郎	岡山市保健所	健康市民おかやま 21 中央地域推進委員会講演会講師
	岡山市保健所健康づくり課	平成 30 年度健康運動指導者研修会講師
竹本　与志人	倉敷市保健福祉局	平成 30 年度社会福祉法人役員研修会講師
新山　順子	岡山県備中県民局	「小田わかばクラブワークショップ」の講師
	岡山市岡山っ子育成局	平成 30 年度岡山市教職員研修講座講師
二宮　一枝	岡山市保健所	平成 30 年度岡山市保健師連携会議の研修会講師
	岡山市保健所	岡山市保健師キャリアラダー検討会講師
平松　智子	総社市	総社市栄養協議会栄養委員研修会講師
	美作市	美作市栄養委員会の研修会講師

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
綾部　誠也	笠岡市	「健康まつり in かさおか」への協力
	岡山県備中保健所	平成 30 年度備中保健所管内総社・早島栄養改善協議会研修会講師
	備前市立吉永地域公民館	吉永地域公民館高齢者学級、女性学級合同研修会講師

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
齋藤　美絵子	岡山県	景観アドバイザー
島田　清徳	岡山県立美術館	こんにちは美術事業 講師
関﨑　　哲	倉敷市立美術館	「銅版画・石版画」実技講座(前期)
		「銅版画・石版画」実技講座(後期)
	総社市教育委員会	「子ども美術館 夏休みスケッチ体験」講師
南川　茂樹	岡山県立美術館	こんにちは美術事業 講師
森下　眞行	岡山県	景観アドバイザー

２．６－１　各種委員等の応嘱（行政関係以外）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
池田　隆英	矢掛町立山田小学校	平成 30 年度専門評価委員
池田　理恵	(公社)岡山県看護協会	社会経済福祉委員会委員
		平成 30 年日本看護協会通常総会・全国職能別交流集会に参加する予備代議員の研修会
		平成 30 年日本看護協会通常総会・全国職能別交流集会出席
		平成 30 年度岡山県看護協会通常総会運営用務
伊東　秀之	(一社)全国栄養士養成施設協会	全国栄養士養成施設協会理事会及び各部会出席
井上　かおり	(公社)岡山県看護協会	日本看護学会ーヘルスプロモーションー学術集会運営協力
井上　祐介	総社市社会福祉協議会	評議員会
井村　圭壯	(福)岡山県共同募金会	評議員・配分委員
	中国四国社会福祉史学会	論文・機関誌等の掲載の審査
		学会理事
	日本福祉図書文献学会	評議員
		「福祉図書文献研究」査読委員
	日本仏教社会福祉学会	「日本仏教社会福祉学会年報」査読委員
岡﨑　愉加	(公社)岡山県看護協会	第 49 回日本看護学会　ヘルスプロモーション学術集会抄録選考委員
荻野　哲也	岡山大学医学部	岡山大学病理専門研修プログラム管理委員会委員
沖本　克子	岡山県看護教育施設代表者会	岡山県看護教育施設代表者会議
	(公社)岡山県看護協会	平成 30 年度岡山県看護協会通常総会出席
桐野　匡史	(福)岡山県社会福祉協議会	岡山県福祉・介護人材確保対策推進協議会委員
	(一社)日本認知症ケア学会	「日本認知症ケア学会誌」査読委員
	(一社)日本社会福祉学会	機関誌「社会福祉学」等査読委員
久保田　恵	(特非)日本栄養改善学会	平成 30 年度管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成療育での人材育成」管理栄養士部会委員
佐々木　純子	(公社)岡山県看護協会	平成 30 年日本看護協会通常総会・全国職能別交流集会に参加する予備代議員の研修会
		平成 30 年日本看護協会通常総会・全国職能別交流集会出席
	岡山県訪問看護ステーション連絡協議会	課題検討委員会委員
佐々木　新介	(公社)岡山県看護協会	学会委員会
周防　美智子	岡山県立岡山盲学校	いじめ対策委員会指導・助言

氏名	従事先	従事内容
住吉　和子	(一社)日本糖尿病教育・看護学会	一般社団法人日本糖尿病教育・看護学会　理事
		一般社団法人日本糖尿病教育・看護学会 理事・編集委員会委員・研究推進委員会委員
関根　紳太郎	(一社)日本メディア英語学会	学会理事会
髙戸　仁郎	中四国学生ハンドボール連盟	男子第 57 回・女子第 45 回西日本学生ハンドボール春季・秋季リーグ戦運営委員・副委員長
	西日本学生ハンドボール連盟	男子第 57 回・女子第 48 回中国四国学生ハンドボール選手権大会役員
高橋　吉孝	(公財)ウエスコ学術振興財団	ウエスコ学術振興財団評議員
	(一社)日本経済団体連合会	「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」今後の採用とインターンシップの在り方に関する分科会委員
竹本　与志人	日本学術会議	日本学術会議連携会員
	(一社)日本社会福祉学会	日本社会福祉学会機関紙「社会福祉学」査読委員
	(一社)日本認知症ケア学会	第 14 回認知症ケア専門士認定試験審査員
		各種褒章等委員
	日本在宅ケア学会	日本在宅ケア学会査読委員
		日本在宅ケア学会実践・研究助成委員会委員
	(公社)日本医療社会福祉協会	社会福祉振興・試験センター助成事業「ソーシャルワーク・ケアワークの専門性に関する研究事業」委員
	弘文堂	「保健医療サービス」第 4 版改定
	中央法規出版(株)	社会福祉士国家試験模擬問題作成・解説作成
中野　菜穂子	岡山県立成徳学校	岡山県立成徳学校苦情解決要領に基づく第三者委員
中村　　光	(一社)全国保育士養成協議会	常任理事会・理事会(理事)
	日本コミュニケーション障害学会	理事
		「コミュニケーション障害学」編集委員
	(一社)日本言語聴覚士協会	代議員選挙管理委員
		学術誌編集委員会委員
		生涯学習部部員
	日本高次脳機能障害学会	日本高次脳機能障害学会代議員
	総社市社会福祉協議会	第三者委員(苦情解決委員)
名越　恵美	(公社)岡山県看護協会	研究倫理審査委員会委員
		第 49 回日本看護学会　ヘルスプロモーション学術集会抄録選考委員
	(一社)日本看護研究学会	日本看護研究学会雑誌専任査読委員
二宮　　一枝	(公社)日本看護協会	平成 30 年日本看護協会通常総会・全国職能別交流集会出席
	(公社)岡山県看護協会	平成 30 年度看護大会特別記念講演会の総合座長

氏名	従事先	従事内容
二宮　一枝	(公社)岡山県看護協会	第 35 回岡山県母性衛生学会総会・学術集会座長
		公益社団法人岡山県看護協会理事
		会長・副会長会議及び訪問看護ステーション運営会議委員
		保健師職能委員会委員
		平成 30 年日本看護協会通常総会・全国職能別交流集会に参加する代議員の研修会
		平成 30 年全国職能委員会出席
		「岡山市子どもを虐待から守る条例」(案)意見聴取会
	(一社)日本地域看護学会	日本地域看護学会第 21 回学術集会査読委員
	岡山県老人クラブ連合会	健康づくり推進委員会委員
原野　かおり	(福)岡山県社会福祉協議会	岡山県福祉・介護人材確保対策推進協議会 実務者会議「認証・評価制度構築検討会議」
		岡山県福祉・介護人材確保対策推進協議会 実務者会議「情報提供・普及啓発部会会議」
		岡山県福祉・介護人材確保対策推進協議会 実務者会議、親会出席
實金　　栄	(公社)岡山県看護協会	日本看護学会ーヘルスプロモーションー学術集会委員
		介護保険施設看護管理者育成研修の講師打ち合わせ
村社　　卓	(福)吉備の里	評議員委員
	(福)岡山県社会福祉協議会	岡山県福祉人材センター運営委員会

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
伊藤　信之	(一社)電気学会	「高周波集積回路の高機能・多様化技術調査専門委員会」委員
稲井　　寛	(財)八雲環境科学振興財団	(財)八雲環境科学振興財団選考委員会選考委員
大久保　賢祐	新居浜工業高等専門学校	人事選考委員会委員
	(一社)電子情報通信学会	マイクロ波研究会: 「TJMW2018 実行委員会」実行副委員長 兼 財務委員長 「TJMW2019 実行委員会」実行委員長
	(一社)電子情報通信学会	「2018 年アジア・パシフィックマイクロ波会議実行委員会」財務委員長
	(一社)電子情報通信学会	2018 Microwave Workshops and Exhibition ワークショップ講演
	IEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers (米国公益法人))	MTT-S (Microwave Theory and Techniques Society) Japan Chapter: Vice Chair(副委員長) (2017.1-2018.12)
	IEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers (米国公益法人))	Hiroshima Section (広島支部) Chair(支部長) (2019.1-2020.12)

氏名	従事先	従事内容
尾崎　公一	カロス出版(株)	「アルトピア」2018 年 6 月号のダイカスト CAE 特集執筆
菊井　玄一郎	岡山県立大安寺中等教育学校	学校評議員
岸原　充佳	(一社)電気学会	「量子ビームによるナノ構造形成とその医療・バイオ応用技術調査専門委員会」委員
國島　丈生	(一社)情報処理学会	論文誌データベース編集委員
齋藤　誠二	(一社)日本人間工学会	日本人間工学会第 6 期編集委員
坂口　浩一郎	日本表面真空学会関西支部	平成 30 年度第 2 回表面委員会委員
佐藤　洋一郎	岡山県立総社南高等学校	学校評議員
	岡山大学	岡山大学利益相反マネジメント委員会委員
	川崎医科大学	川崎医科大学特別推進研究・研究ブランディング事業に係る外部評価委員
末岡　浩治	(一社)日本経済団体連合会	「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」 地域活性化人材育成分科会委員
杉村　藍	日本英文学会中国四国支部学会	「学会誌中国四国英文学研究」の編集委員
瀬島　吉裕	レスキューロボットコンテスト実行委員会	第 18 期および第 19 期レスキューロボットコンテスト実行委員会実行委員
高林　健人	電子情報通信学会中国支部	学生会顧問
滝本　裕則	レスキューロボットコンテスト実行委員会	第 19 期レスキューロボットコンテスト実行委員会実行委員
但馬　康宏	IEEE 広島支部	IEEE 広島支部理事
	情報処理学会中国支部	H30 年度第 3 回情報処理学会中国支部運営委員
春木　直人	(公社)日本伝熱学会	第 57 期理事(中国四国支部) 第 57 期学生会委員会幹事
	日本熱物性学会	第 12 期編集委員会委員
福田　忠生	レスキューロボットコンテスト実行委員会	第 18 期および第 19 期レスキューロボットコンテスト実行委員会実行委員
山内　　仁	レスキューロボットコンテスト実行委員会	第 18 期および第 19 期レスキューロボットコンテスト実行委員会実行委員
渡辺　富夫	関西大学大学院	博士課程後期課程授業科目担当資格審査
	(一社)日本経済団体連合会	「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」 Sosiety5.0 人材育成分科会委員
	(公財)ウエスコ学術振興財団	研究活動助成選考委員

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
岩本　弘光	(社)日本建築学会 中国支部	日本建築学会中国支部・設計審査委員会委員
河合　大介	(独)国立文化財機構 東京文化財研究所	国立国際美術館で現代美術資料についての調査研究
		科研課題「ポスト 1968 年表現共同体の研究」の遂行上必要な研究協力
北山　由紀雄	夢二郷土美術館	「夢二のふるさとフォトコンテスト」の審査員

氏名	従事先	従事内容
柴田　奈美	みつ朝日学園 朝日塾中等教育学校	朝日塾“ゆめ”俳句大賞選考会選考委員長
	(特非)日本語検定委員会	日本語検定研究委員
	(公社)岡山県文化連盟	岡山県文学選奨審査員
	(公社)俳人協会岡山県支部	公益社団法人俳人協会岡山県支部　幹事会出席
		第 22 回倉敷市民文学賞俳句部門審査委員会
島田　清徳	岡山県天神山文化プラザ	天プラ・セレクション推薦委員
助川　たかね	(公財)日米教育交流振興財団	公益財団法人日米教育交流振興財団評議員
	(公財)ウエスコ学術振興財団	研究活動助成選考委員
津田　勢太	(一社)岡山県建築士事務所　協会	岡山県建築物耐震診断等評価委員会委員
	岡山県建築住宅センター(株)	構造計算適合性判定専門委員
野宮　謙吾	岡山県高等学校PTA連合会	シンボルマーク応募作品の審査員長
樋笠　勝士	新プラトン主義協会	新プラトン主義協会理事および会長
	美学会	美学会委員及び編集委員会委員長
	中世哲学会	常任理事
森下　眞行	龍の仕事展実行委員会委員	龍の仕事展実行委員会委員

２．６－１　講師派遣（行政関係以外）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
網野　裕子	(一社)岡山県訪問看護ステーション連絡協議会	小児訪問看護研修会講師
池田　隆英	岡山県保育協議会	保育会人権研究部における研究助言
		人権保育研究部における研究指導
池田　理恵	岡山県看護研修センター	教育研修講師「看護研究の実践」
	(公財)大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院	平成 30 年度看護研究講師
井上　かおり	(公社)岡山県看護協会	岡山豪雨被災地域の熱中症対応活動ボランティア
井上　幸子	(一社)日本産業カウンセラー協会中国支部	産業カウンセラー養成講座実技指導者
	(公社)岡山県看護協会	平成 30 年度岡山県看護協会教育研修講師
井上　里加子	(株)タニタヘルスリンク	岡山淳風会タニタ食堂カウンセラー
井村　圭壯	岡山県立倉敷鷲羽高等学校	講師「福祉・保育・看護・栄養系に進む高校生に伝えたいこと」
	岡山県立井原高等学校	講師「進路を決める指針～保健福祉・医療系の仕事～」
	岡山県立邑久高等学校	講師「社会福祉系学部で学べること、社会福祉士、看護師の仕事内容,高校時代にやっておくこと.」

氏名	従事先	従事内容
井村　圭壯	岡山県立高梁高等学校	医療・福祉系を目指す生徒を対象にしたキャリア教育講演会
	岡山商科大学附属高等学校	履修科目「産業社会と人間」での講義
	広島県立西城紫水高等学校	総合的な学習の時間「多様な職種の魅力とその責任性ー特に、社会福祉・介護福祉の仕事内容と魅力を基本としてー」
	広島県尾道高等学校	進学に向けての講話
	広島県私立武田高等学校	福祉系の仕事内容と進路指導について
	エフエムゆめウェーブ(株)	ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史:留岡幸助について」
		ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史:田渕藤太郎・田渕はつ、について」
		ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史:山本軍平について」
		ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史:冨田象吉について」
		ラジオ番組出演 「高校生などに向けた 福祉の仕事の紹介」
		ラジオ番組出演 「岡山の福祉の歴史 第6回 アリス・ペティ・アダムス」
		ラジオ番組出演 「ソーシャルワーカーとは何か 高校生編」
岩満　賢次	吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山)	吉備創生カレッジ「介護保険と地域づくり」
岡﨑　順子	岡山市国公立幼稚園・こども園教育研究会	音楽リズム研修会 「歌の魅力再発見！」講師
岡﨑　愉加	就実高等学校	性教育講演会
	備前市立片上高等学校	性教育講演会
	岡山県立倉敷南高等学校	学校設定科目「キャリアⅠ」学問の哲人講座の講師
	(公社)岡山県看護協会	第49回日本看護学会 ヘルスプロモーション学術集会講演座長
沖本　克子	(公社)岡山県看護協会	平成30年度岡山県看護協会教育研修講師
		第49回日本看護学会 ヘルスプロモーション学術集会講演座長
	(一社)岡山県訪問看護ステーション連絡協議会	小児訪問看護研修会講師(H30.11.24)
		小児訪問看護研修会講師(H31.1.26)
柏　まり	倉敷市第三福田保育園	保護者会教育講演会の講師 「知っ得！！子育て新情報～みんなでハッピー笑顔で子育て～」
	井原市立西江原幼稚園	井原市立西江原幼稚園職員研修会講師
	美咲町保育協議会	美咲町保育協議会研究部会講師
	(公財)岡山県市町村振興協会	新規採用保育士(後期)研修会講師
	坂出・綾歌幼児教育研究会	坂出・綾歌幼児教育研究会保育研究指導資料部会研修会指導者
	香川県私立認可保育園連盟	施設長・保育士対象の研修会講師

氏名	従事先	従事内容
川下　菜穂子	兵庫県立三田祥雲館高等学校	性教育講演会の講師
久保田　恵	総社市ファミリーサポートセンター	保育サービス講習会講師
近藤　理恵	(一社)岡山県母子寡婦福祉連合会	平成 30 年度全国母子寡婦福祉研修大会の研修討議のコーディネーター
	広島県社会教育委員連絡協議会	広島県社会教育委員研修会講師
佐々木　純子	(特非)かさおか島づくり海社	第 20 回島の大運動会 in 白石島
	(公社)岡山県看護協会	平成 30 年度訪問看護師養成講習会講師
	(公財)大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院	平成 30 年度看護研修講師
佐々木　新介	(公社)岡山県看護協会	平成 30 年度岡山県看護協会支部看護研究発表会講評
		第 49 回日本看護学会　ヘルスプロモーション学術集会講演座長
	岡山県看護研修センター	教育研修講師「看護研究の実践」
佐藤　和順	岡山県保育協議会	平成 30 年度岡山県保育研究大会における研究発表講評
	カナダ保育園	保護者を対象にした講演会講師 「乳幼児期の親子の関わり」
	(公財)山口県人づくり財団	平成 30 年度マネジメント研修講師 「保育者ワークのライフバランスの重要性」
	(一財)香川県私立認可保育園連盟	平成 30 年度マネジメント研修会の講師
		保育士研修会講師
佐藤　ゆかり	岡山県老人福祉施設協議会	平成 30 年度岡山県老人福祉施設職員研修会の助言者
	服部地区地域づくり協議会	講演「認知症予防(発症を遅らせるには？)」
周防　美智子	岡山県立岡山瀬戸高等支援学校	いじめ防止研修会講師
	(一社)奈良県社会福祉士会	スクールソーシャルワーカー養成講座講師
	中国学園大学・中国短期大学	平成 30 年度教育支援人材認証講座講師 「学校教育の課題」について
	(福)総社市社会福祉協議会	ひきこもりサポーター養成講座講師
	(特非)日本放課後児童指導員協会	平成 30 年岡山県放課後児童支援員認定資格研修講師
	(公財)岡山市ふれあい公社	ふれあい児童館職員研修講師 「子どもの育ちと親のかかわり」
髙戸　仁郎	(公財)中国地域創造研究センター	平成 30 年度第 2 回ヘルスケア・医療福祉機器技術研究交流会講師
	岡山南高校	「介護予防について」の講義・実技指導
		「高齢者の健康」についての講義
高橋　　徹	岡山大学医学部	急性肺障害に対する一酸化炭素吸入療法の開発
	(福)敬友会	社会福祉法人の指導
	川崎医科大学総合医療センター	「臨床に活かせる看護研究」講演

氏名	従事先	従事内容
竹本　与志人	岡山県医療ソーシャルワーカー協会	岡山県医療ソーシャルワーカー協会ステップアップ研修講師
田中　晃一	岡山県立倉敷南高等学校	学校設定科目「キャリアⅠ」学問の哲人講座の講師
都島　梨紗	吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山)	吉備創生カレッジ講師「はじめての社会調査入門」
中野　菜穂子	岡山大学大学院	岡山大学大学院保健学研究科講師 「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム 18」の講義
中村　　光	(一社)日本言語聴覚士協会	平成 30 年度認定言語聴覚士講習会の講師
		平成 30 年度第 3 回全国研修会の講師
	(株)gene	株式会社 gene 主催セミナー講師 「失語症の評価と訓練」 H30.6.17
		株式会社 gene 主催セミナー講師 「失語症の評価と訓練」 H31.3.30
名越　恵美	(公社)岡山県看護協会	平成 30 年度岡山県看護協会教育研修講師
	山陽学園大学	山陽学園大学大学院看護学研究科特別講師
	慢性心不全看護認定看護師会　中国四国地域会	第 22 回慢性心不全看護認定看護師　中四国地域　事例検討会　スーパーバイザー
二宮　一枝	(特非)かさおか島づくり海社	第 20 回島の大運動会 in 白石島
	(公社)山陽放送学術文化財団	シリーズ・シンポジウム「慈愛と福祉の先駆者たち」第 4 回シンポジウム講師
	岡山医療センター付属岡山看護助産学校看護学科	看護学科同窓会　希翔会第 32 回総会講演会講師
	(公社)山陽放送学術文化財団	シリーズ・シンポジウム「慈愛と福祉の先駆者たち」編集担当者
	(公社)岡山県看護協会	第 49 回日本看護学会　ヘルスプロモーション学術集会特別講演座長、運営
	(一社)日本地域看護学会	日本地域看護学会第 21 回学術集会一般演題座長
	(一社)全国保健師教育機関協議会	平成 30 年度全国保健師教育機関協議会 中四国ブロック研究会講師
原野　かおり	(一社)岡山県介護福祉士会	介護福祉士実習指導者講習会講師「介護過程の理論と指導方法」
平松　智子	中外製薬(株)	第 27 回水島臨床フォーラムの講師・演者
實金　　栄	(公社)岡山県看護協会	看護研修センター教育研修講師 「看護研究の実践」
		介護保険施設看護管理者育成研修の講師
		岡山県看護協会井笠支部看護研究発表会の講評

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
綾部　誠也	(特非)かさおか島づくり海社	第 20 回島の大運動会 in 白石島
泉　晋作	北九州市立大学	マルチエージェントの制御に関する研究打ち合わせおよび講演
岩橋　直人	ローム・ワコー(株)	AI をテーマとしたセミナー講師

氏名	従事先	従事内容
岩橋　直人	(公財)岡山県産業振興財団	「AI-IoTに関わる異業種交流会」講師
尾崎　公一	(一社)日本鋳造協会	平成 30 年度鋳造カレッジの講師 「コンピューターシミュレーション概論」
	(株)日立産業制御ソリューションズ	ADSTEFAN ユーザ会での研究報告
菊井　玄一郎	(公財)岡山県産業振興財団	「AI-IoTに関わる異業種交流会」講師　H30.7.26
		「AI-IoTに関わる異業種研究会」講師　H31.2.1
坂口　浩一郎	吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山)	吉備創生カレッジ講師「レーザー光が拓く現代社会」
島崎　康弘	(一社)日本繊維製品消費科学会	第 55 回快適性・健康を考えるシンポジウム講師
徳田　安紀	吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山)	吉備創生カレッジ講師「レーザー光が拓く現代社会」
福嶋　丈浩	ローム・ワコー(株)	セミナー講師「光デバイスの基礎」
柳原　　衞	吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山)	吉備創生カレッジ講師「脳を解剖するとは」
渡辺　富夫	高知工科大学	特別講義 「人を引き込み身体的コミュニケーション技術」

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
尾崎　洋	吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山)	吉備創生カレッジ講師「生活の中のデザイン」
助川　たかね	(公社)日本技術士会中国本部	研修会での講演
難波　久美子	(公社)岡山県文化連盟	おかやま文化芸術アソシエイツ「文化芸術交流実験室」講師
畠　和宏	おかやま緑のネットワーク	「木造仮設住宅の移築・再利用にみる可能性とこれから」講師
	吉備創生カレッジ(大学コンソーシアム岡山)	吉備創生カレッジ講師「病気とたたかう子どもの空間」
南川　茂樹	岡山県立倉敷南高等学校	「キャリアI」「学問の哲人講座」講師

２．６－１　非常勤医師（行政関係以外）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
荻野　哲也	鳥取生協病院	病理医として生検材料及び外科材料の診断、臨床各科との症例検討
	岡山市医師会総合メディカルセンター	病理医(生検材料・外科材料の診断等)
	三原赤十字病院	生検材料・外科材料の診断・臨床各科との症例検討
高橋　　徹	(医)盛全会　岡山西大寺病院	麻酔科医師として手術症例の術前・術中・術後管理
	(医)三樹会　梶木病院	日本麻酔科学会認定麻酔科指導医・専門医

氏名	従事先	従事内容
高橋　徹	(医)水和会　水島中央病院	麻酔科医師として手術症例の術前・術中・術後管理および卒後研修医に対する教育指導
藤井　保人	日立造船健康保険組合	嘱託産業医

２．６－１　非常勤講師・役員（行政関係以外）

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
池田　隆英	岡山赤十字看護専門学校	「教育学」
池田　理恵	就実大学	「子どもの保健Ⅱ」
伊東　秀之	岡山大学	「先端薬学特論」
岩満　賢次	愛知学院大学	「社会福祉・教育」、「言語聴覚心理評価学」
	弘徳学園(豊岡短期大学)	面接授業、通信授業、実習巡回指導
岡﨑　順子	岡山大学	岡山大学教育学部「幼児音楽Ⅱ(1)(2)」
柏　まり	就実大学	教育課程特論、人間関係指導学特論、乳児保育Ⅱ
	姫路大学	乳幼児保育・保育相談支援・乳児保育
	兵庫大学	「男女共同参画社会の構築」「集団施設保育の現状と課題」
樟本　千里	川崎医療福祉大学	春学期　「発達心理学」 秋学期　「幼児理解の理論と方法」
坂野　純子	東京大学	「社会福祉・社会保障論」
佐々木　純子	倉敷看護専門学校	在宅看護概論
佐藤　和順	佛教大学	保育内容研究「人間関係」A
澤田　陽一	中国短期大学	「社会心理学」
髙戸　仁郎	岡山大学	「するスポーツ演習」「健康・スポーツ科学 B」
	朝日医療大学校	「体育」
田中　晃一	山陽学園短期大学	「食品衛生学」
都島　梨紗	東亜大学	「特別活動の指導法」
		教員免許状更新講習 「子どもの貧困とバリアフリー」
中野　菜穂子	岡山大学	「社会的養護内容・児童家庭福祉(1)(2)」
	岡山大学大学院	「リプロダクティブ・ヘルス演習Ⅰ」
名越　恵美	岡山労災看護専門学校	「看護研究の基礎」
	倉敷看護専門学校	倫理学
二宮　一枝	岡山労災看護専門学校	「公衆衛生学」
	ノートルダム清心女子大学	「家庭看護学」
中村　光	(一社)操風会　岡山旭東病院	言語聴覚士としての臨床業務(リハビリテーション課　言語聴覚部門)

氏名	従事先	従事内容
原野　かおり	ノートルダム清心女子大学	「こころとからだの理解Ⅰ、Ⅱ」
	(株)富士データシステム	介護ビッグデータの分析及びAI解析におけるアドバイザー
藤井　保人	ノートルダム清心女子大学	「こころとからだの理解Ⅰ」
山形　真由美	岡山県済生会看護専門学校	「在宅介護援助論Ⅰ(症状別看護)」
山本　登志子	香川大学医学部	「生化学」

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
綾部　誠也	就実大学	「スポーツ 1」「スポーツ 2」
伊藤　信之	慶應義塾大学大学院	理工学研究科講義「システムLSI設計」
井上　貴浩	津山工業高等専門学校	「メカトロニクス」「メカトロニクスⅠ」
	岡山大学	「産業技術実践」
岩橋　直人	京都工芸繊維大学	認知的インタラクションデザイン学
大久保　賢祐	岡山理科大学	「電気電子計測」
國島　丈生	明石工業高等専門学校	「データベース」
小椋　清孝	岡山大学	「情報処理入門 2」
		「微分方程式 1」、「微分方程式 2」
榊原　勝己	岡山理科大学	「コンピュータネットワーク」
	愛媛大学	「ディジタル通信特論」
佐藤　洋一郎	岡山理科大学	「情報処理工学Ⅱ」
忻　　欣	神戸大学	「計算生体力学」
末岡　浩治	(株)SUMCO	半導体シリコン結晶に関する研究開発方針について助言
瀬島　吉裕	津山工業高等専門学校	「数値計算」
春木　直人	岡山大学	「微分積分 1」「微分積分 2」
柳原　　衛	旭川荘厚生専門学院	「体のしくみとはたらきⅠ」 「体のしくみとはたらきⅡ」
	倉敷市立短期大学	「身体科学論」
	本山学園 インターナショナル岡山歯科衛生専門学校	「生命科学」
山内　　仁	(一社)アール・アンド・コミュニティー	レスキューロボットコンテストをはじめとする事業の計画・立案・実施およびこれに関する業務

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
河合　大介	慶應義塾大学	「美学特殊ⅡD」
西川　博美	京都造形芸術大学	「環境デザイン演習［建築］Ⅱ-1/Ⅱ－2」
西田　麻希子	関西学院大学	「目的をもって伝えるグラフィックスデザイン」
朴　　貞淑	美作大学	「韓国語」
樋笠　勝士	慶應義塾大学	「美学芸術学特殊研究ⅠA」「美学芸術学特殊研究ⅡA」「美学概論Ⅰ」「美学特殊ⅡC」
	東京藝術大学	「美学特講」
ﾌﾞﾙﾈﾘ・ｱﾝｿﾆｰ	岡山大学	「英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 4-2」「上級英語」「英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 5-1・2」
山下　明美	倉敷芸術科学大学	「色彩学」
山下　万吉	吉備国際大学	「アニメーション概論」(春学)「動画像基礎」(秋学)

岡山県立大学 社会貢献年報 2018

発行日　令和元年６月
編　集　岡山県立大学　地域共同研究機構
発　行　岡 山 県 立 大 学
〒719-1197　岡山県総社市窪木 111 番地
TEL　0866-94-2111
URL　https://wwww.oka-pu.ac.jp/
印　刷　サンコー印刷株式会社